

**伊豆の国市
まちづくりに関するアンケート
調査結果報告書**

**令和6年7月
伊豆の国市**

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	回収結果	1
4	報告書を見る際の注意点	1
II	調査結果	3
1.	あなたご自身のことについて	3
F 1	性別	3
F 2	年齢	3
F 3	居住地区	4
F 4	家族構成	4
F 5	キャッシュレス決済の利用状況	6
2.	伊豆の国市の印象等について	8
1	伊豆の国市の住みやすさ	8
2	今後も住み続けたいか	11
3-1	住み続けたい理由	14
3-2	転出したい理由	23
3.	第3次伊豆の国市総合計画の策定に向けて	32
4	今後、市はどのようなまちづくりに力を入れていくべきか	32
5	未来の伊豆の国市をどんなまちにしたいか	40
6	思い描いたまちにするために必要な取組	42
7	市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したい）取組	44
4.	文化財展示施設について	48
8	市内の文化財の認知	48
9	展示が充実していると良いと思う文化財	49
10	充実していると良いと思う展示の手法・形態	50
11	文化財展示施設に望むこと	51
5.	日頃の運動習慣について	52
12	運動やスポーツを実施するように心がけているか	52
13-1	この1年間の運動頻度	54
13-2	運動をしない、またはできない一番の理由	56
6.	孤独や孤立に関する取組について	62
14	孤立していると思われる人がいるか	62
15	「孤立」や「ひきこもり」の相談先を知る手段	63
7.	これからの伊豆の国市について	67
16	これからの伊豆の国市について意見や提案	67
III	調査票	70

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、第2次伊豆の国市総合計画（2017年度～2025年度）の一環として、市民の現在の生活環境やこれまでの取り組みに対する評価および今後のまちづくりに対する意向を把握するために実施しました。

2 調査設計

調査対象：伊豆の国市に在住する18歳以上の方
調査方法：郵送配布・郵送回収・WEB回収
抽出方法：無作為抽出
調査期間：令和6年4月19日（金）～令和6年5月10日（金）

3 回収結果

発送数：1,500票
回収数：678票（郵送：483票、WEB：195票）
有効回収数：676票（郵送：481票、WEB：195票）
有効回収率：45.1%（郵送：32.1%、WEB：13%）

4 報告書を見る際の注意点

- (1) nは各設問の回答者数（回答者母数）を示します。
- (2) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (3) 複数回答可能な設問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- (4) 単一回答の場合は調査票の選択肢の順、複数回答の場合は回答数が多い順に記載しています。
- (5) 「どちらともいえない」「わからない」「その他」「無回答」等はコメントしていません。

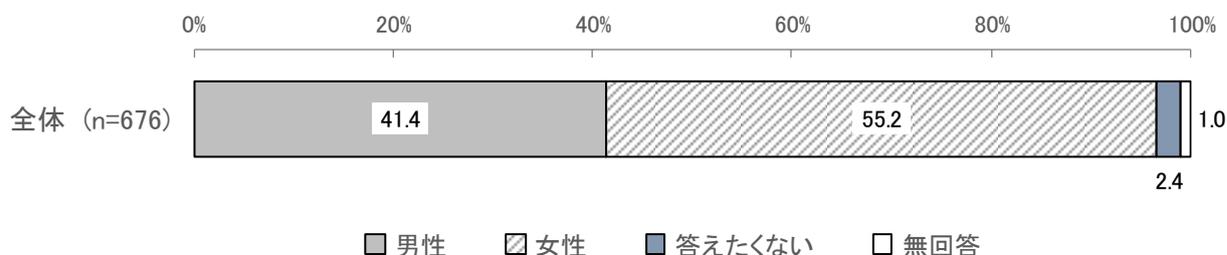
調查結果

II 調査結果

1. あなたご自身のことについて

F 1 性別

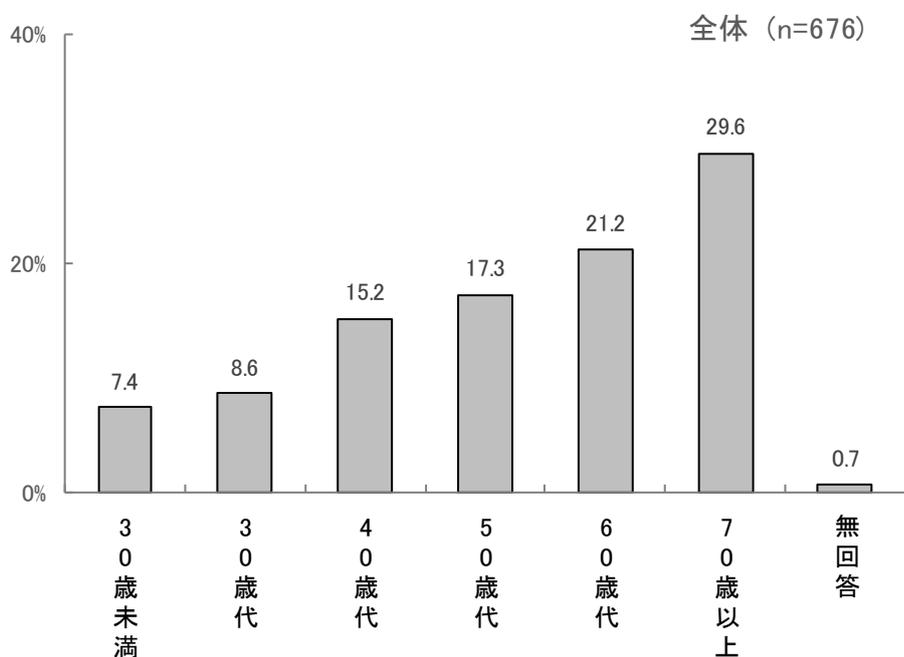
G-01 性別をお答えください。(○は1つ)



性別では、「男性」41.4%、「女性」55.2%となっています。

F 2 年齢

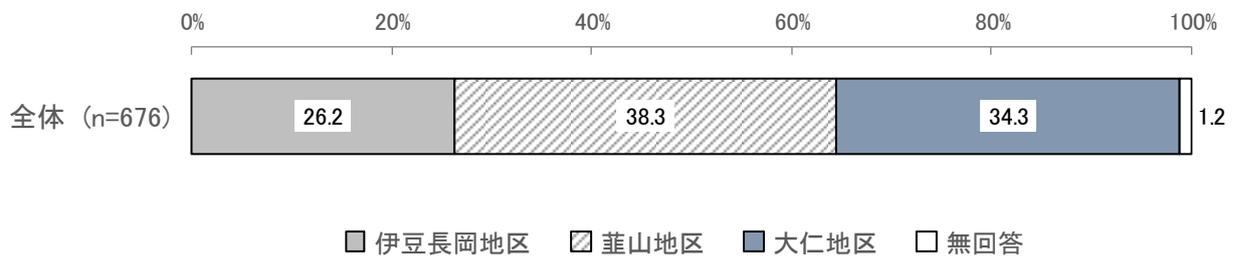
G-02 年齢はいくつですか。(○は1つ)



年齢では、「70歳以上」29.6%が最も多く、以下「60歳代」21.2%、「50歳代」17.3%、「40歳代」15.2%、「30歳代」8.6%、「30歳未満」7.4%となっています。

F 3 居住地区

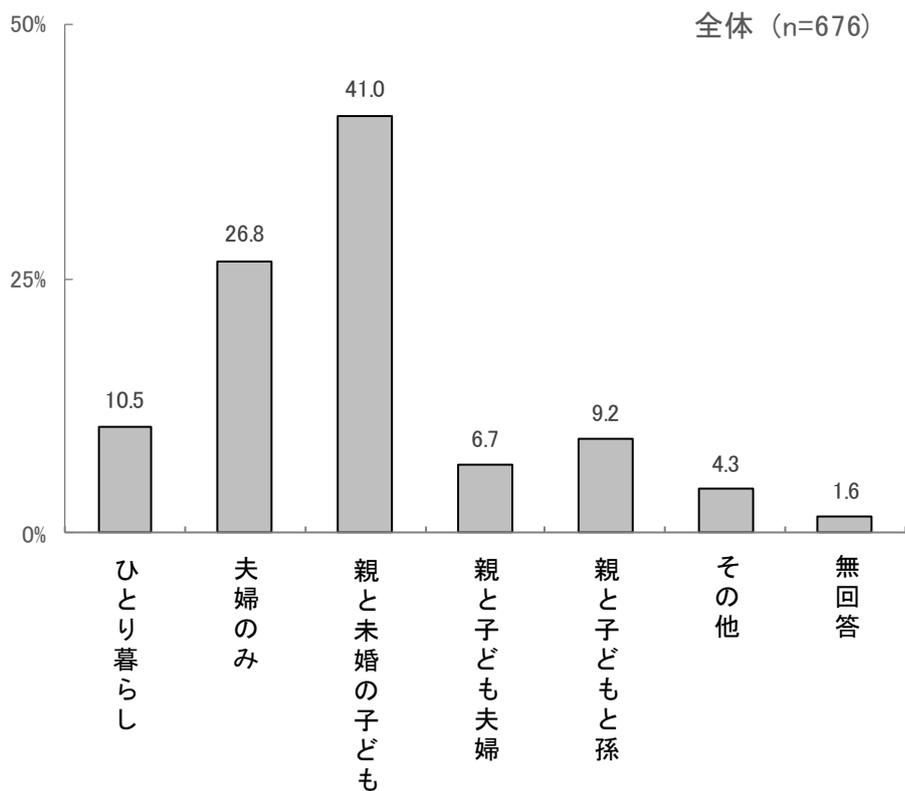
G-03 お住まいの地区はどちらですか。(〇は1つ)



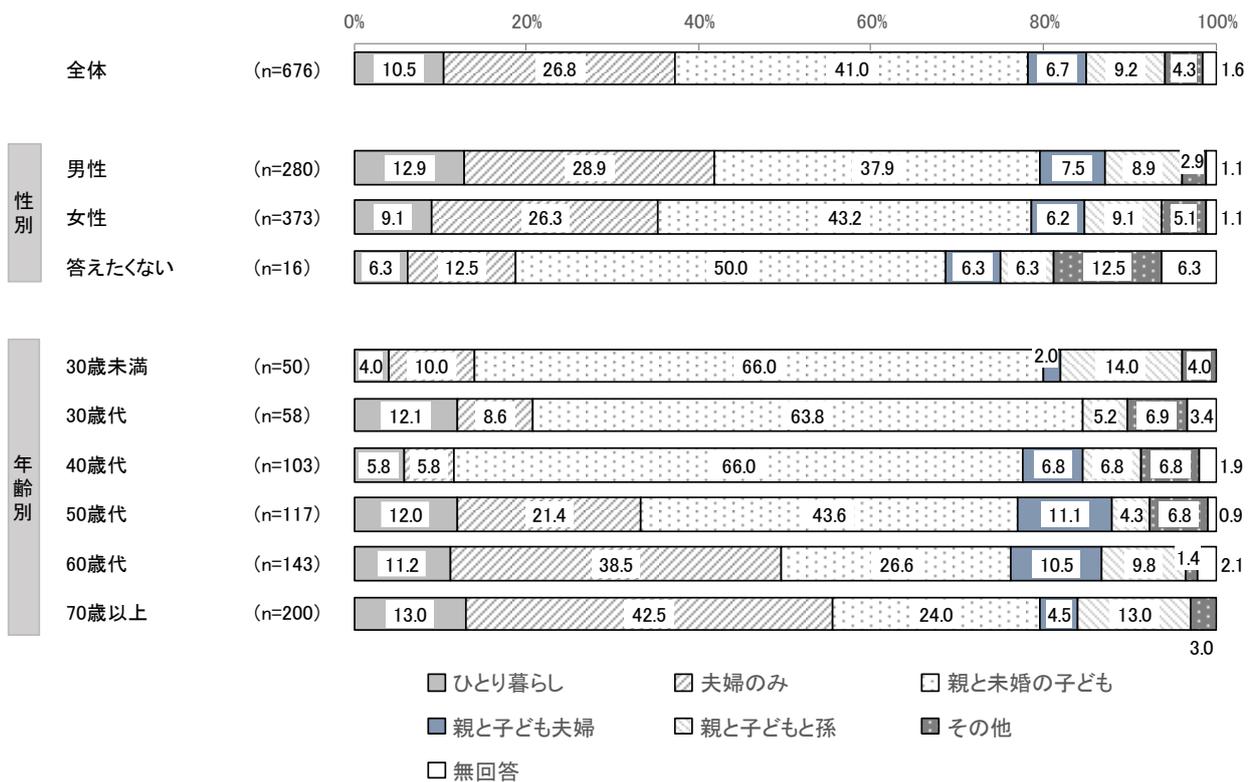
居住地区では、「伊豆長岡地区」26.2%、「斐山地区」38.3%、「大仁地区」34.3%となっています。

F 4 家族構成

G-04 家族構成は次のどれですか。(〇は1つ)



家族構成では、「親と未婚の子ども」41.0%が最も多く、以下「夫婦のみ」26.8%、「ひとり暮らし」10.5%、「親と子どもと孫」9.2%、「親と子ども夫婦」6.7%、となっています。

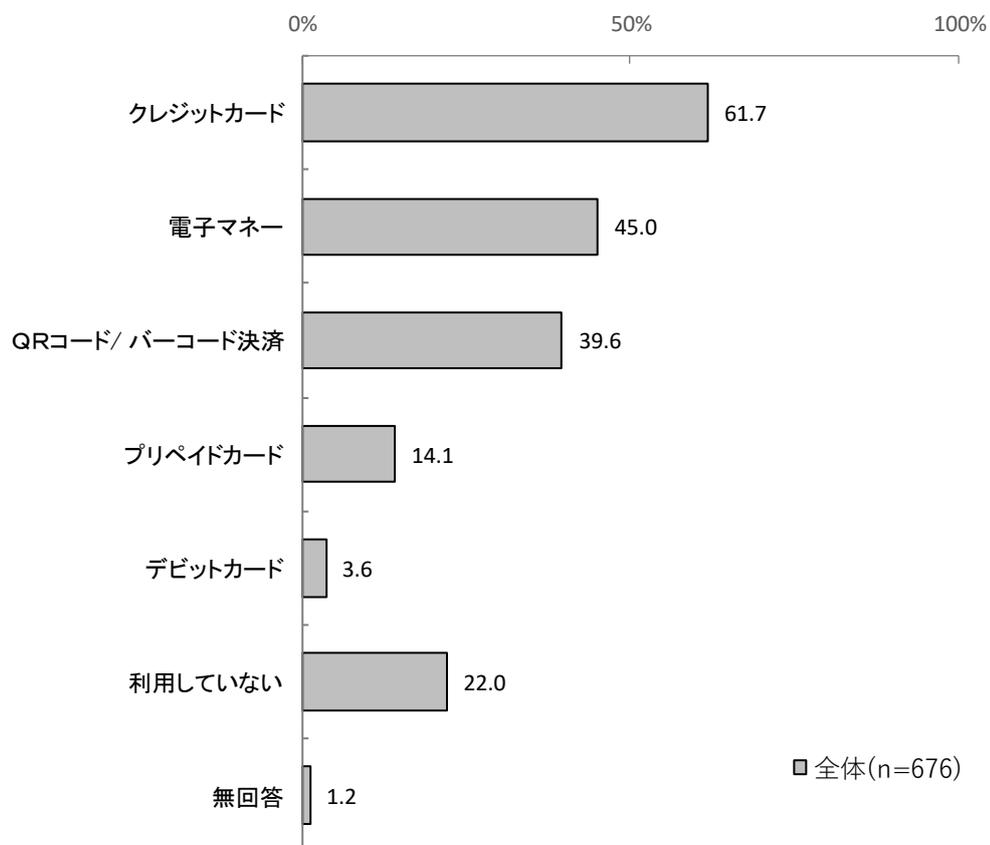


家族構成を性別で見ると、男性では「ひとり暮らし」が女性に比べて多くなっています。

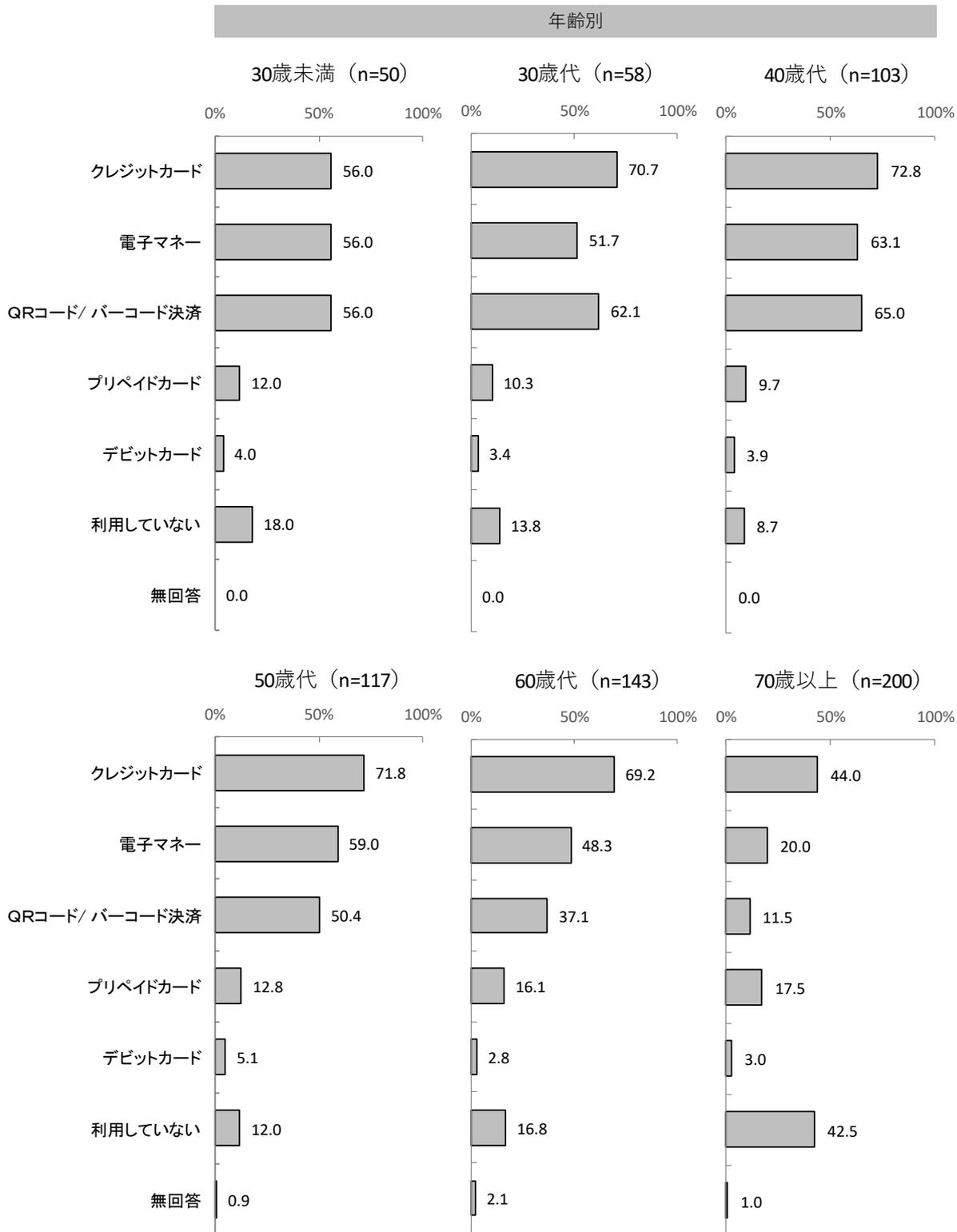
年齢別で見ると、40歳代以下では「親と未婚の子ども」が最も多く、6割を占めています。60歳代以上では「夫婦のみ」が最も多くなっています。

F 5 キャッシュレス決済の利用状況

G-05 キャッシュレス決済を利用していますか。(利用しているものにすべて○)



キャッシュレス決済の利用状況では、「クレジットカード」61.7%が最も多く、以下「電子マネー」45.0%、「QRコード/バーコード決済」39.6%、「プリペイドカード」14.1%、「デビットカード」3.6%となっています。一方、「利用していない」は22.0%となっています。

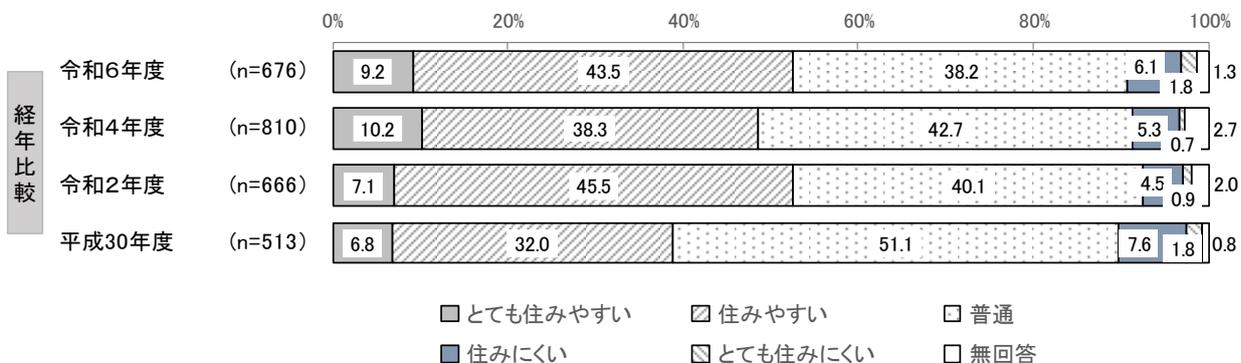


キャッシュレス決済の利用状況を年齢別で見ると、50歳代以下では「クレジットカード」「電子マネー」「QRコード/バーコード決済」がいずれも50%以上と高くなっています。70歳以上では「利用していない」が42.5%と他の年代に比べて高くなっています。

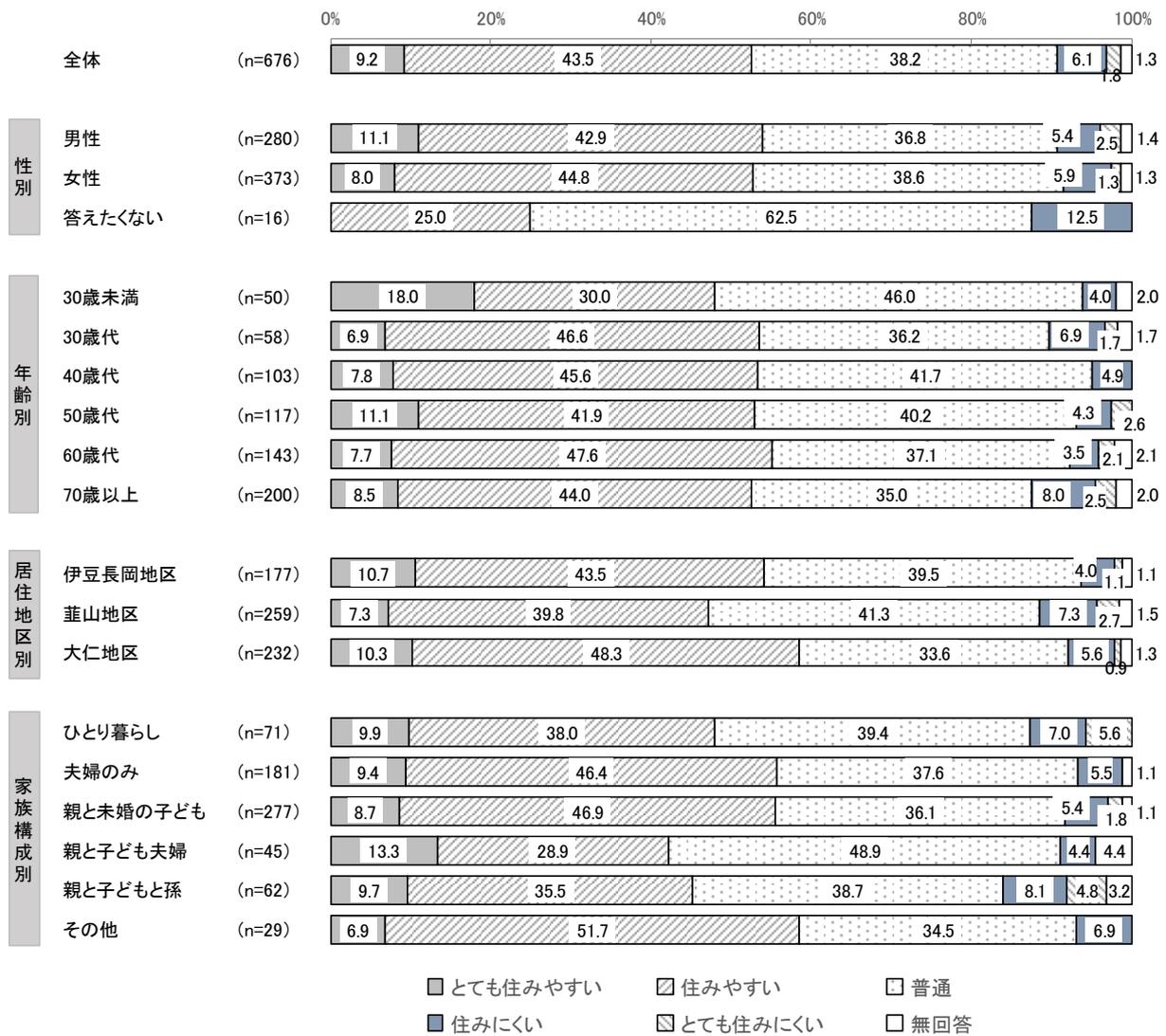
2. 伊豆の国市の印象等について

1 伊豆の国市の住みやすさ

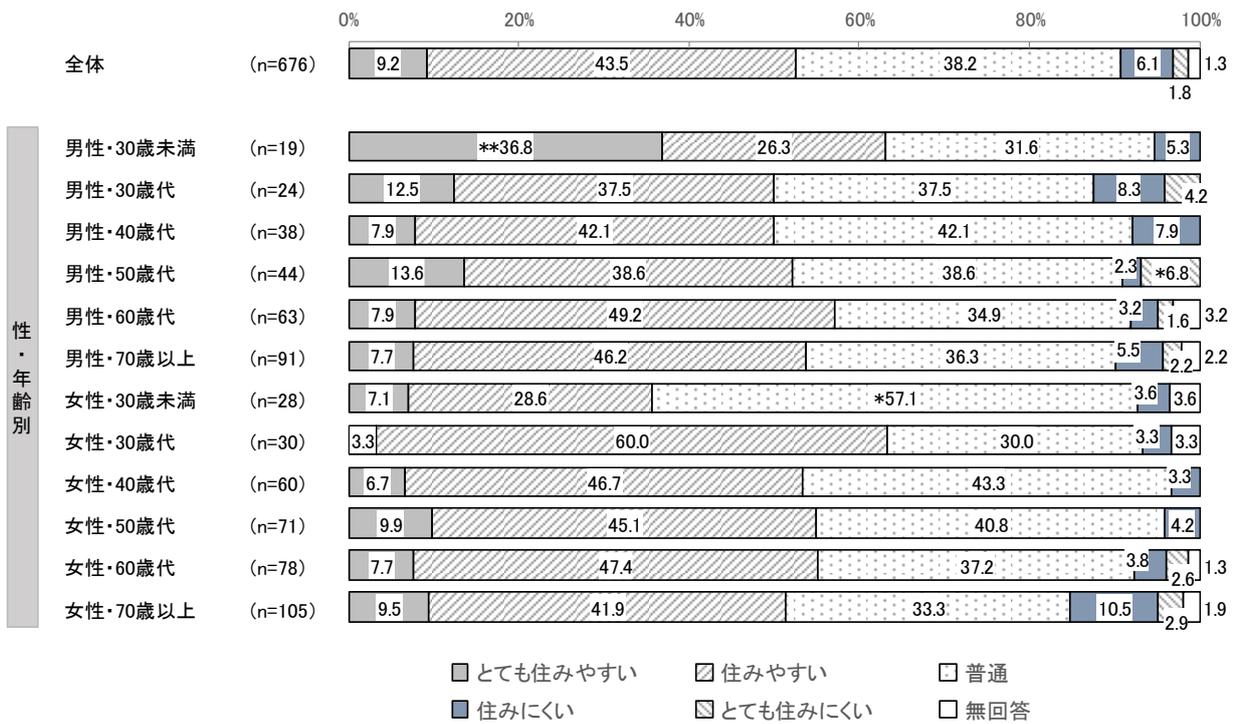
A-01 伊豆の国市は住みやすいまちですか。(〇は1つ)



令和6年度は「とても住みやすい」9.2%、「住みやすい」43.5%を足した『住みやすい』は52.7%と、令和4年度より4.2ポイント多くなっています。一方、「住みにくい」6.1%、「とても住みにくい」1.8%を足した『住みにくい』は7.9%と、令和4年度より1.9ポイント多くなっています。



伊豆の国市の住みやすさについて性別で見ると、男女間で大きな違いは見られません。
 居住地区別で見ると、大仁地区では『住みやすい』が他の地区よりやや高くなっています。
 家族構成別で見ると、親と子ども夫婦、親と子どもと孫では『住みやすい』が低くなっています。



(全体との有意差検定) **...有意水準 1%で有意差あり *...有意水準 5%で有意差あり

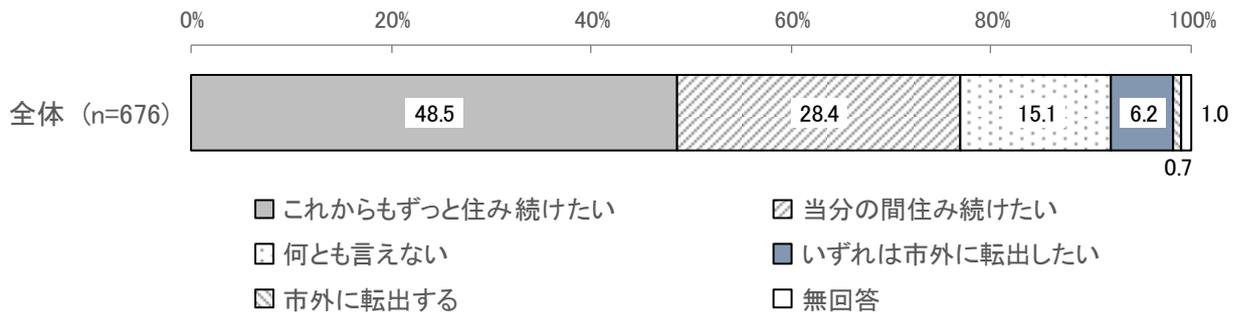
伊豆の国市の住みやすさについて性・年齢別で見ると、男性・30歳未満と女性・30歳代では『住みやすい』が6割超と高くなっていますが、女性・30歳未満では『住みやすい』が3割と低くなっています。

また、性・年齢別によって住みやすさに差があるかどうか、全体と比較し検定を行いました。全体との差が特に大きいと考えられるものには「**」、全体との差が大きいと考えられるものには「*」をグラフ内の数値に追加しています。(検定については以下同様とします。)

以上のことから、男性・30歳未満では「とても住みやすい」と感じている割合が全体に対して高く、男性・50歳代では「とても住みにくい」と感じている割合が全体に対して高くなっていると考えられます。

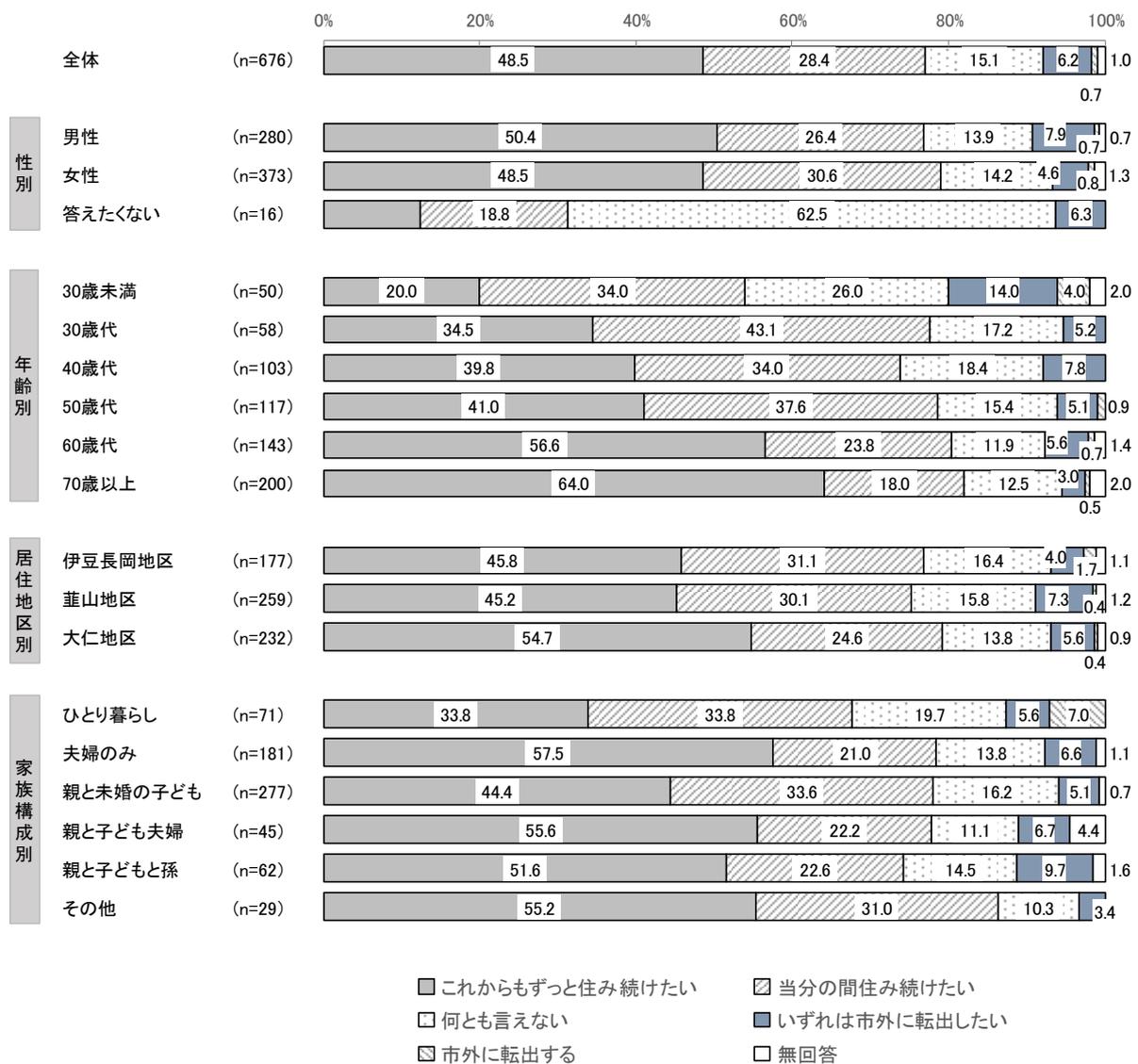
2 今後も住みたいか

A-02 今後も伊豆の国市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)



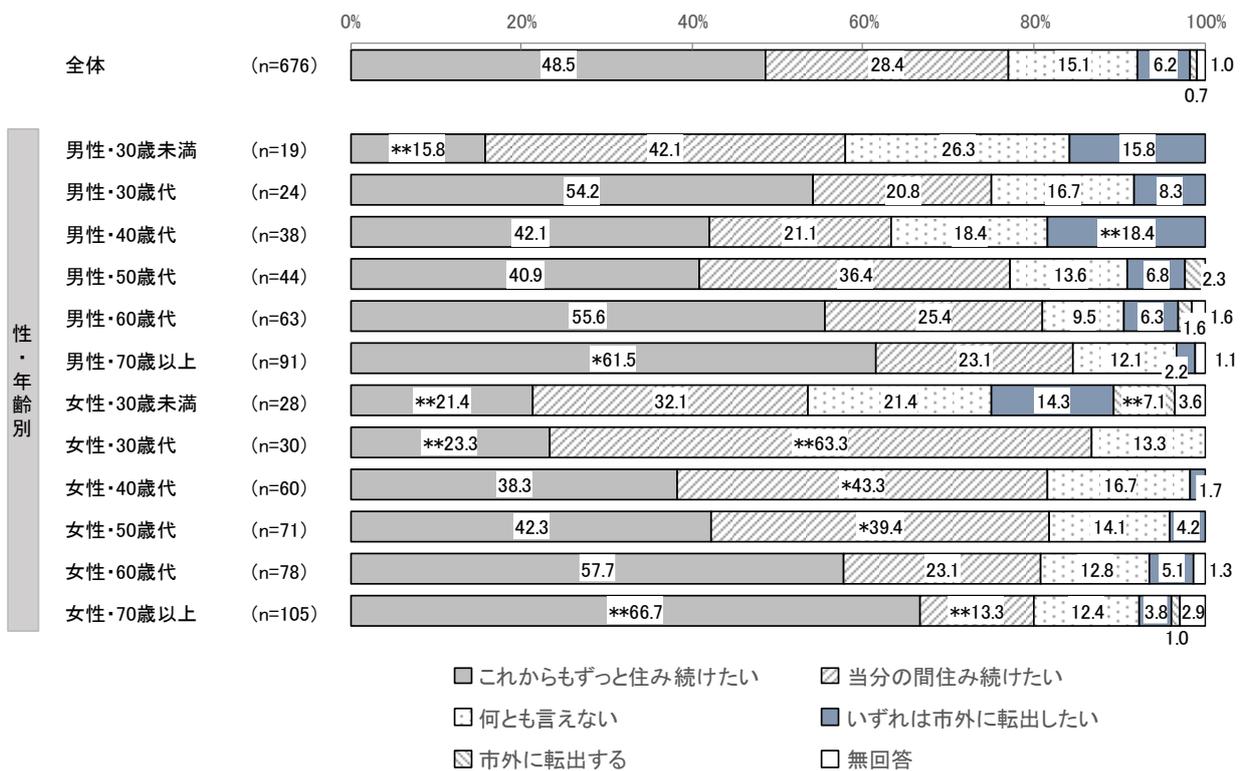
今後も住みたいかについては、「これからずっと住みたい」48.5%と「当分の間住みたい」28.4%を足した『住みたい』は76.9%と、8割近くを占めています。

一方、「いずれは市外に転出したい」6.2%と「市外に転出する」0.7%を足した『転出したい・転出する』は6.9%と、1割未満となっています。



今後も住み続けたいかについて年齢別で見ると、年齢が上がるほど「これからもずっと住み続けたい」が高くなっています。

居住地区別で見ると、『住み続けたい』の割合に大きな違いはありませんが、大仁地区では「これからもずっと住み続けたい」が5割と他の地区に比べて高めとなっています。



(全体との有意差検定) **...有意水準 1%で有意差あり *...有意水準 5%で有意差あり

今後も住みたいかについて性別・年齢別で見ると、男性では『住みたい』は年齢が上がるほど高くなる傾向にあります。男性・40歳代では男性・30歳代より低くなっています。女性では『住みたい』は30歳代以上で8割以上と高くなっています。また、男女とも30歳未満で『住みたい』は6割未満と低くなっています。

性別・年齢別によって差があるかどうか、全体と比較し検定を行いました。男性・40歳代の「いずれは市外に転出したい」、女性・30歳未満の「市外に転出する」の割合は全体に対して高くなっていると考えられます。また、男性・30歳未満、女性・30歳未満の「これからずっと住みたい」の割合は全体に対して低くなっていると考えられます。

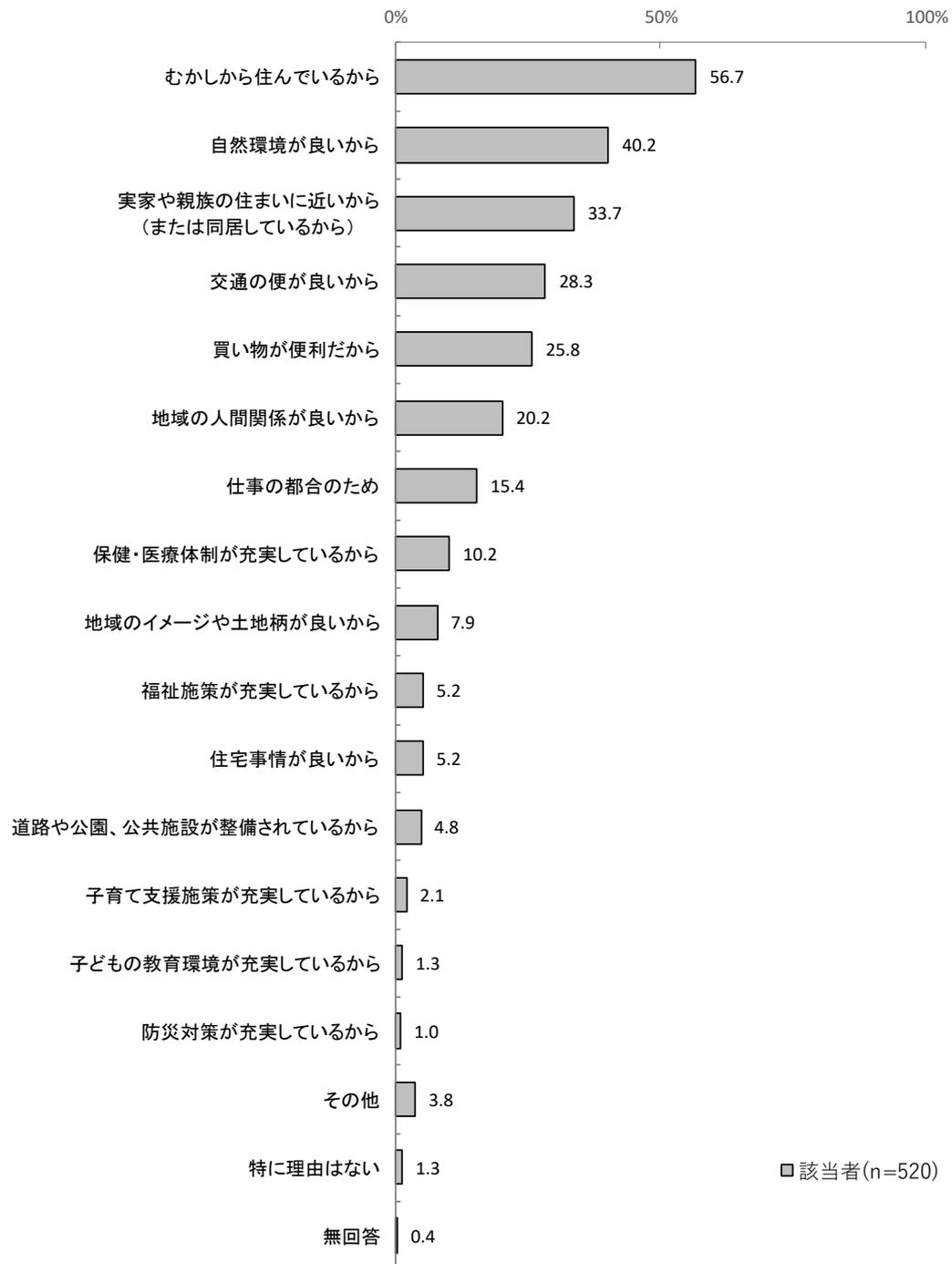
一方、男性・70歳以上、女性・70歳以上の「これからずっと住みたい」の割合は全体に対して高くなっていると考えられます。

以上のことから、男女とも30歳未満と、男性・40歳代は住みたい意向が低く、男女とも70歳以上は住みたい意向が高いと考えられます。なお、女性・30歳代は「これからずっと住みたい」は低いものの、「当分の間住みたい」が高くなっているため、住みたい意向は高いと考えられます。

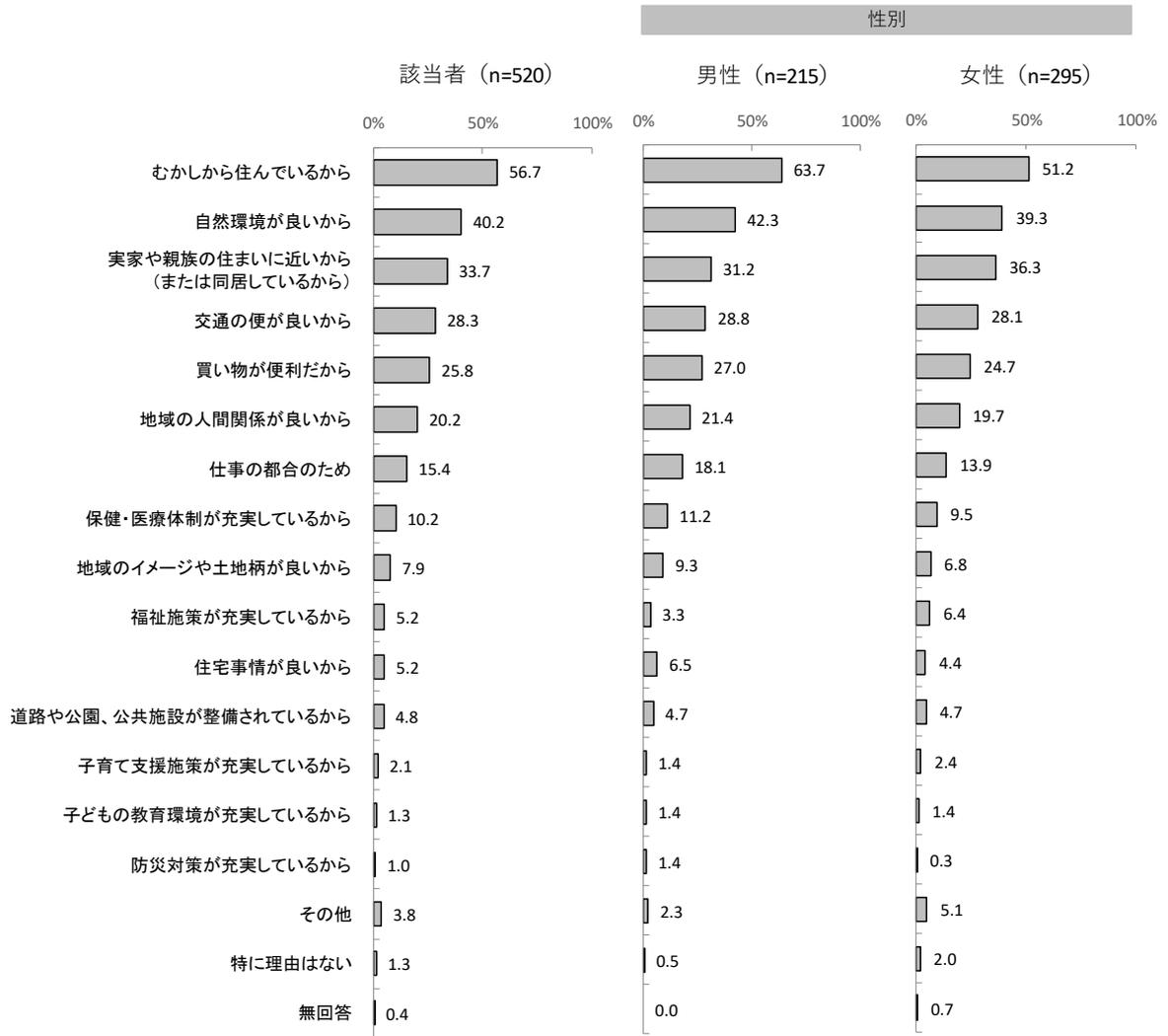
3-1 住み続けたい理由

【A-02で「1」「2」と答えた方に伺います。】

A-03-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

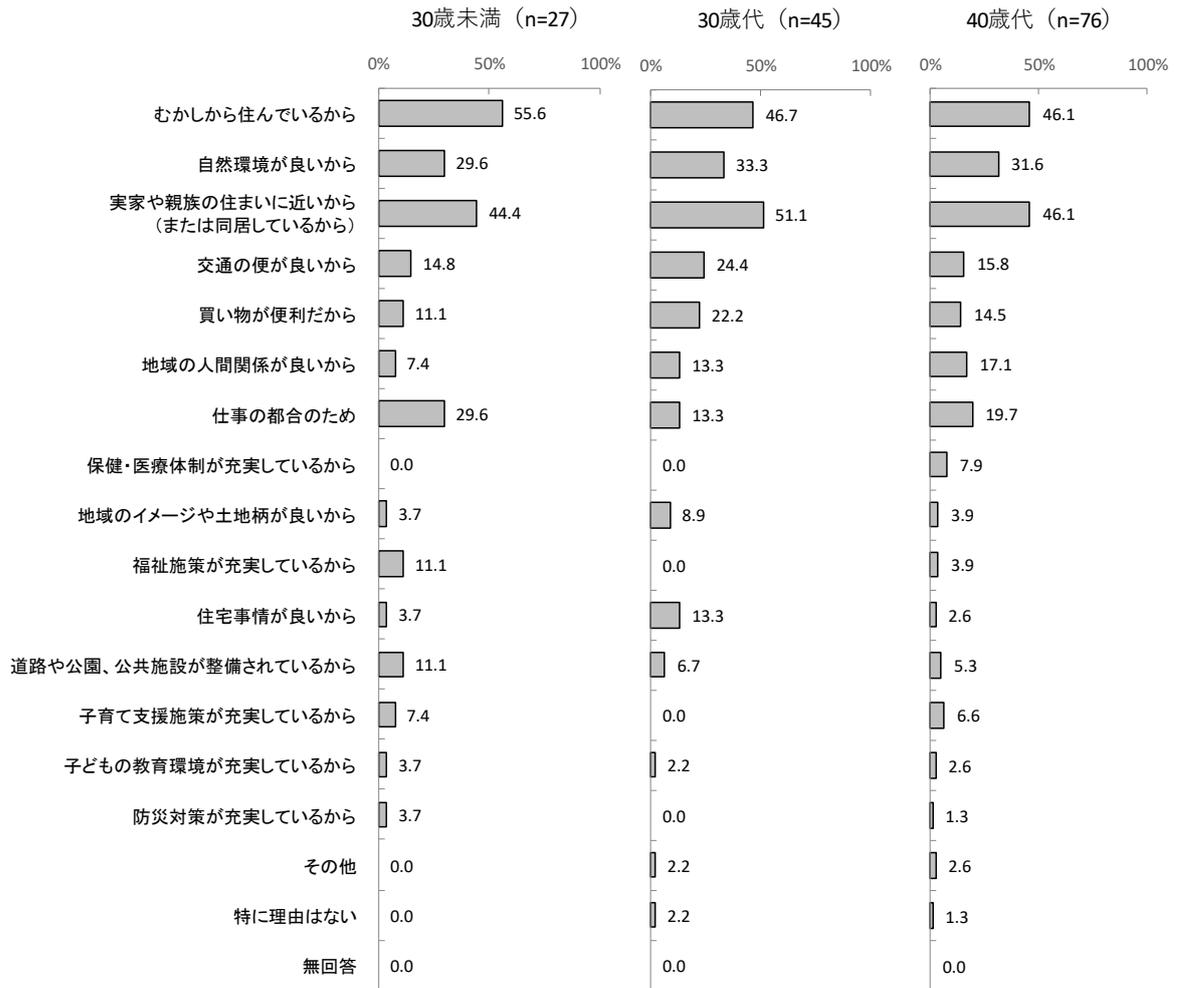


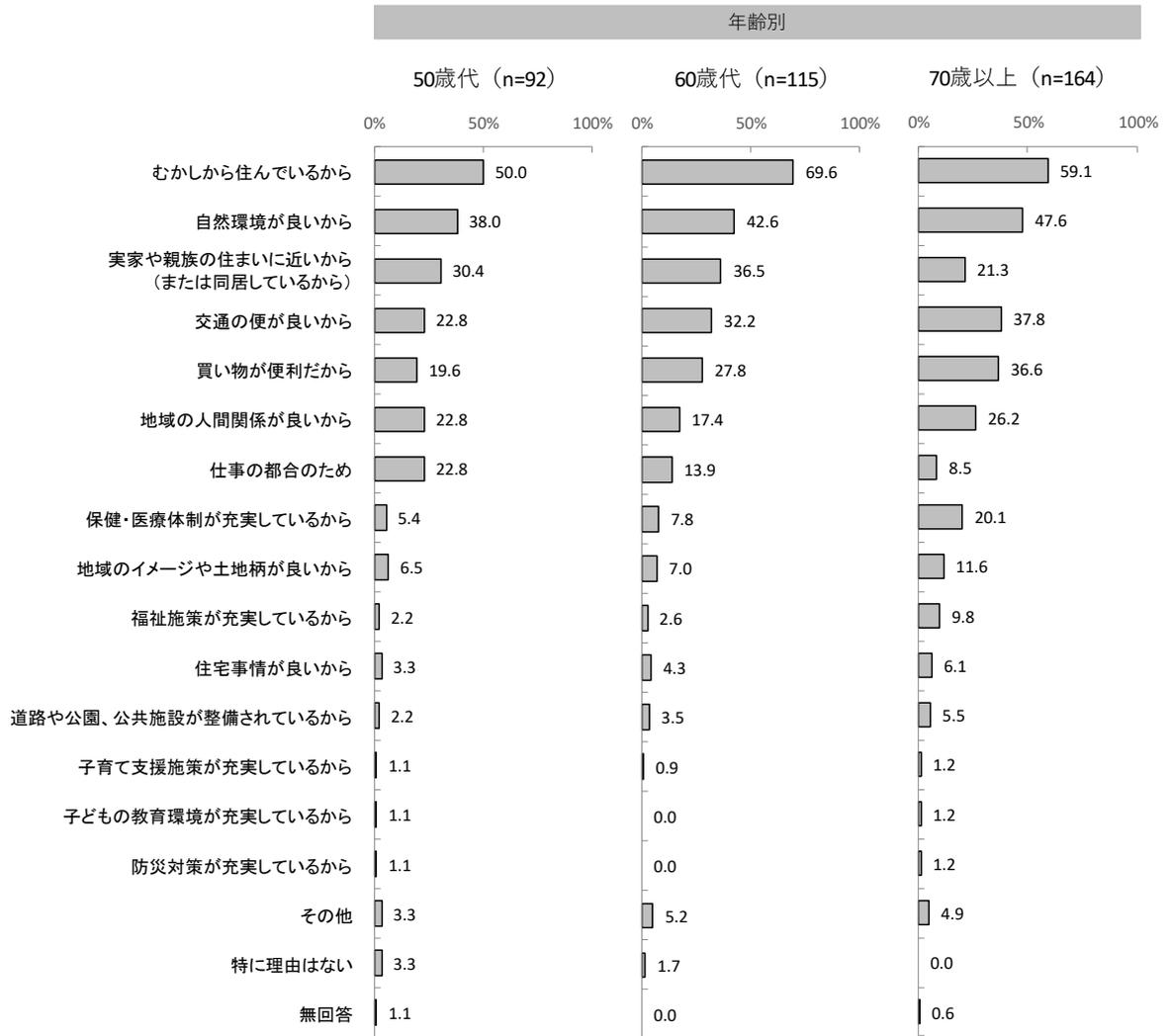
『住み続けたい』理由としては、「むかしから住んでいるから」56.7%が最も多く、以下「自然環境が良いから」40.2%、「実家や親族の住まいに近いから（または同居しているから）」33.7%、「交通の便が良いから」28.3%と続いています。



『住み続けたい』理由を性別で見ると、男女間で大きな違いはみられません。

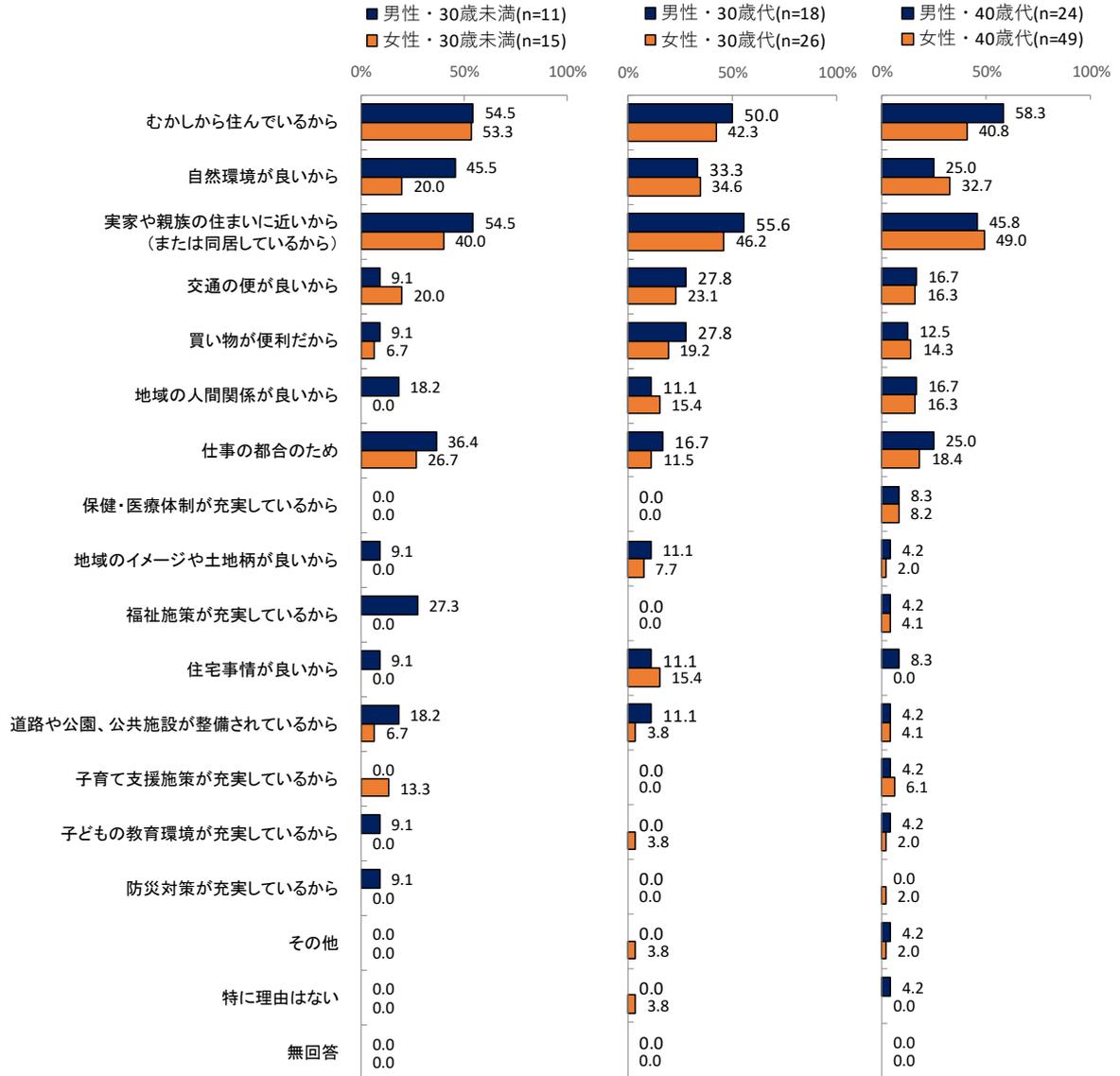
年齢別

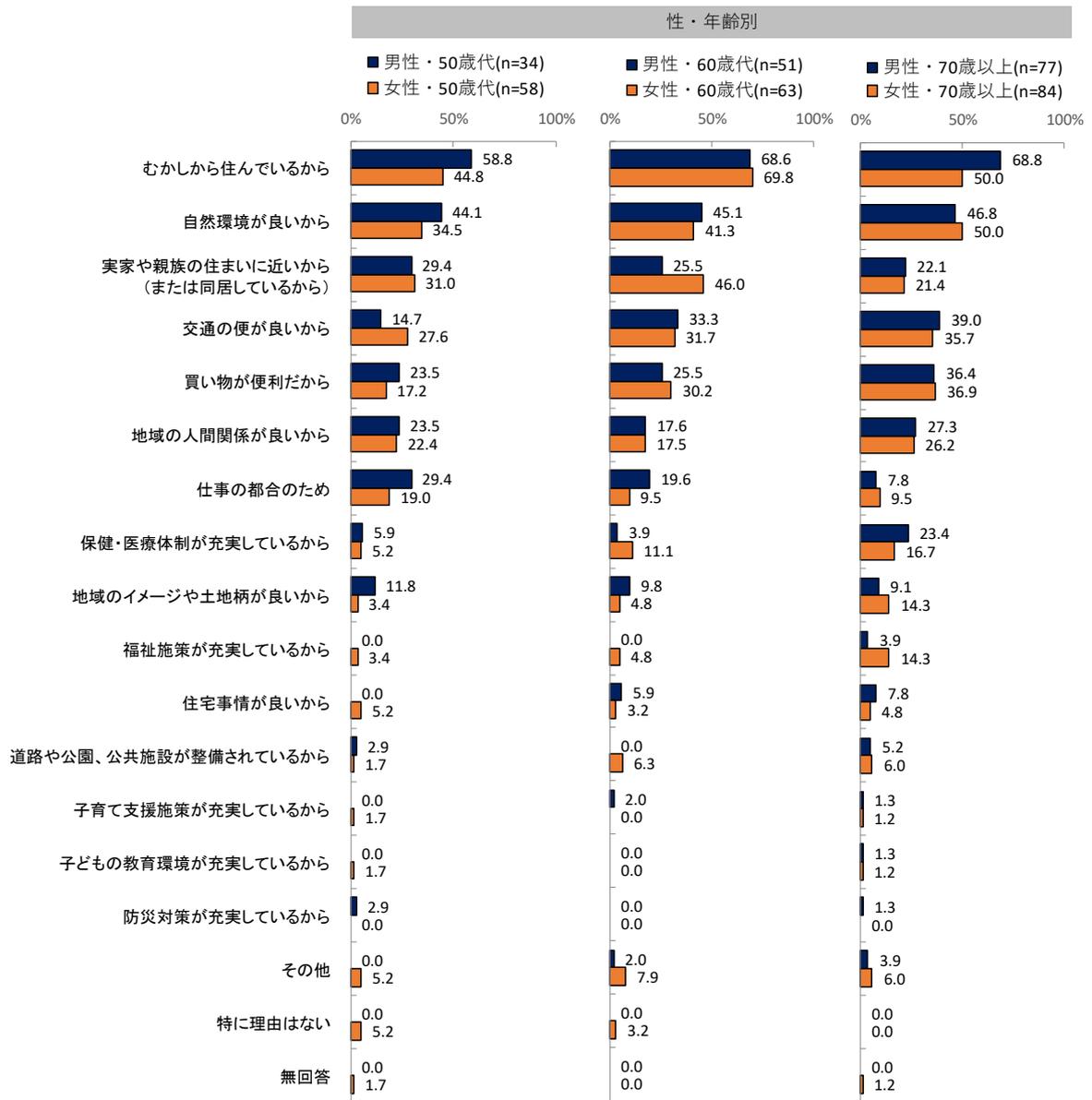




『住み続けたい』理由について年齢別で見ると、30歳未満と50歳代では「仕事の都合のため」が2割超と高めとなっています。70歳以上では「保健・医療体制が充実しているから」が2割と高めとなっています。

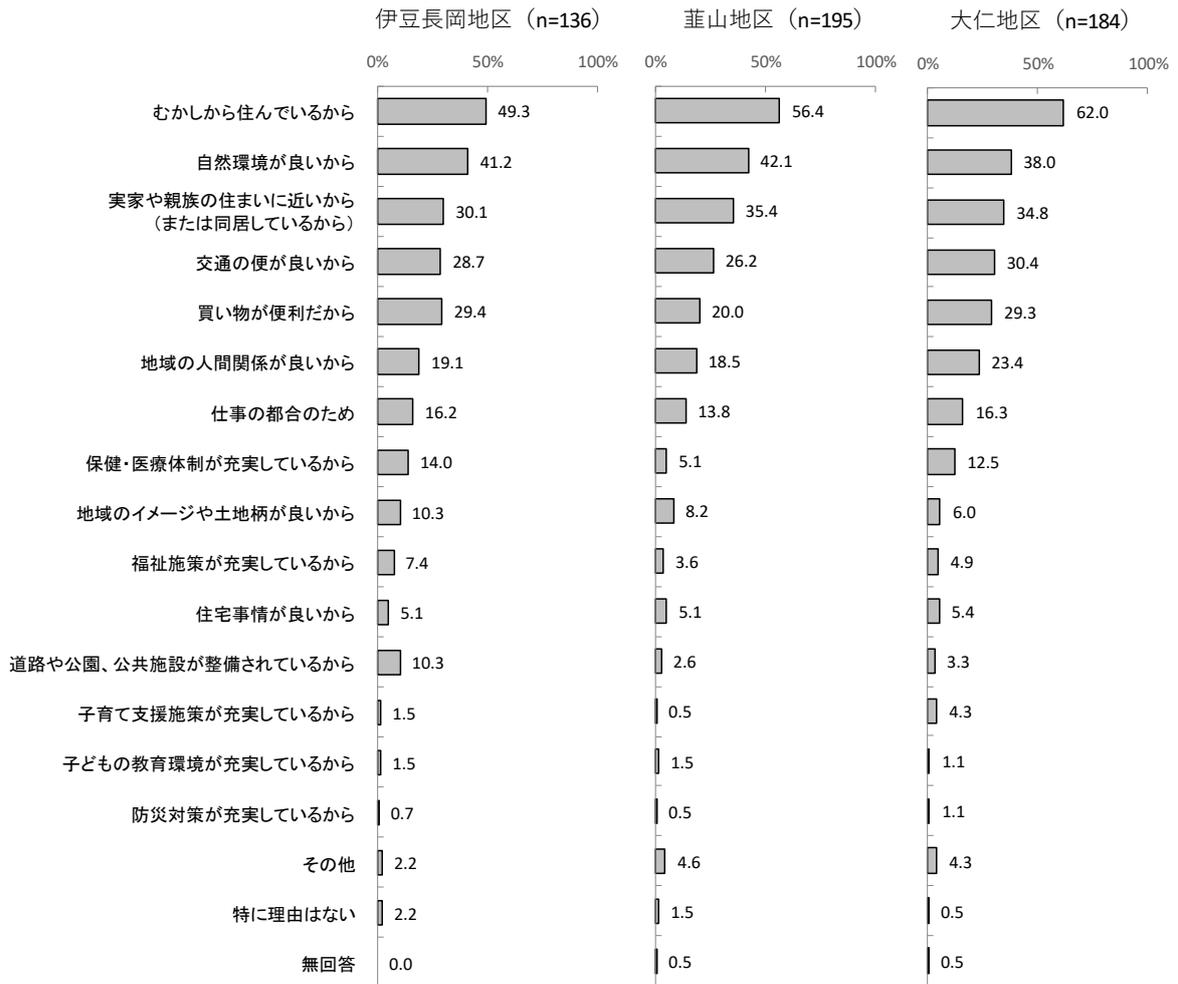
性・年齢別





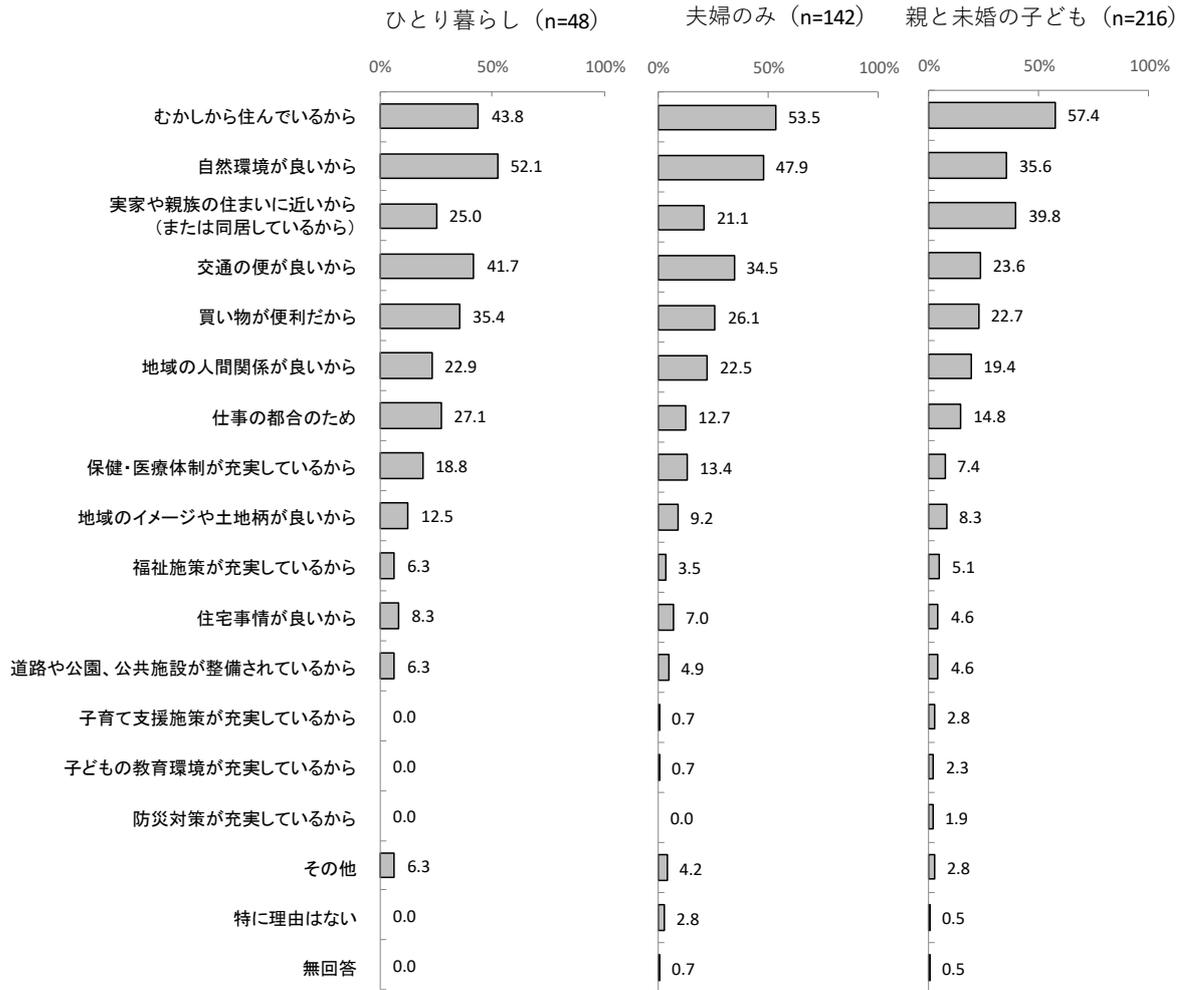
『住み続けたい』理由について性・年齢別でみると、「家族や親族の住まいに近いから（または同居しているから）」は男性・30歳代以下と女性・40歳代と女性・60歳代で高めとなっています。「仕事の都合のため」は70歳以上を除いて女性より男性の方が高くなっています。

居住地区別

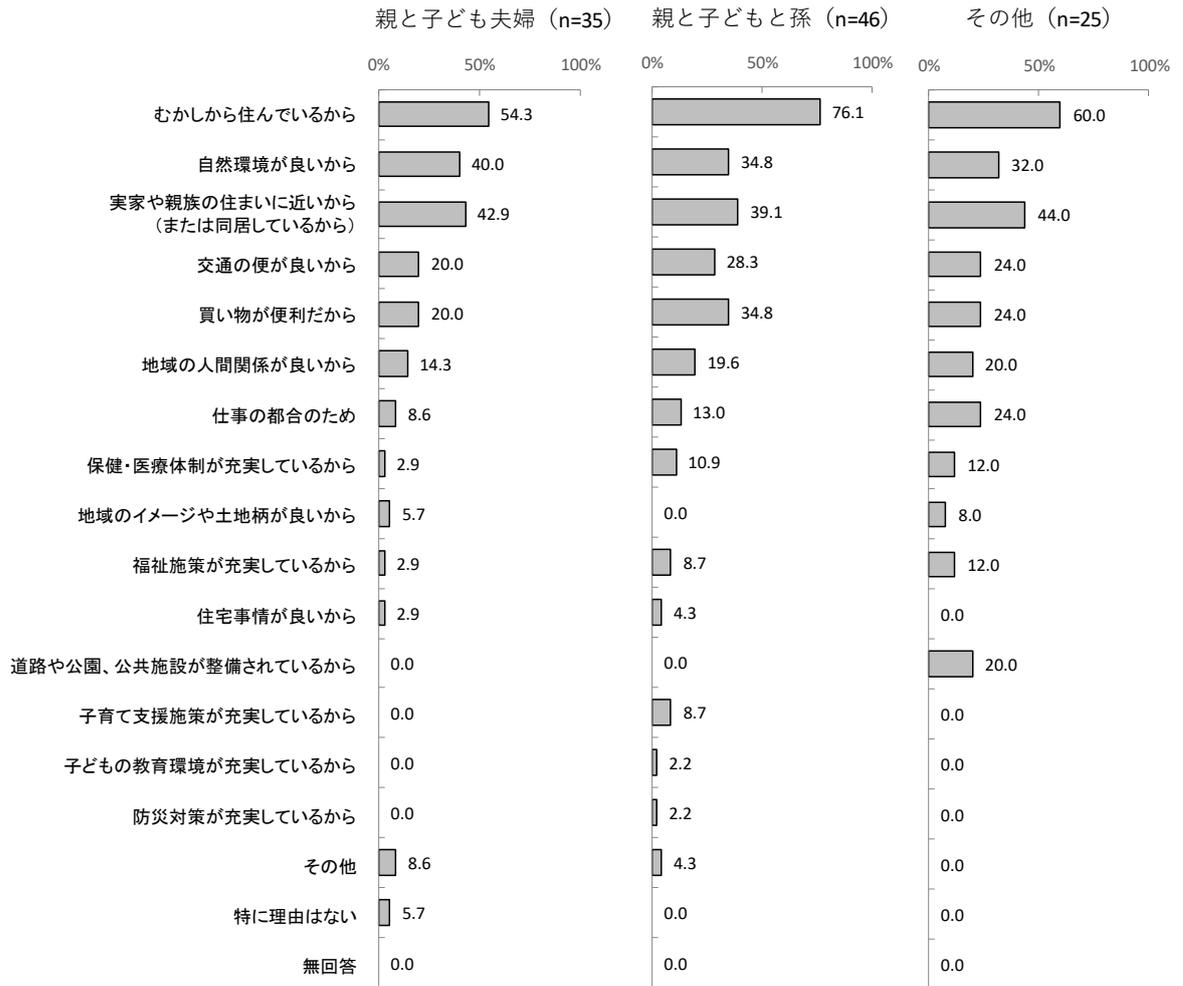


『住み続けたい』理由について居住地区別で見ると、伊豆長岡地区は「むかしから住んでいるから」が5割以下と他の地区に比べて少なめとなっています。また、「道路や公園、公共施設が整備されているから」が1割と他の地区に比べて多くなっています。

家族構成別



家族構成別



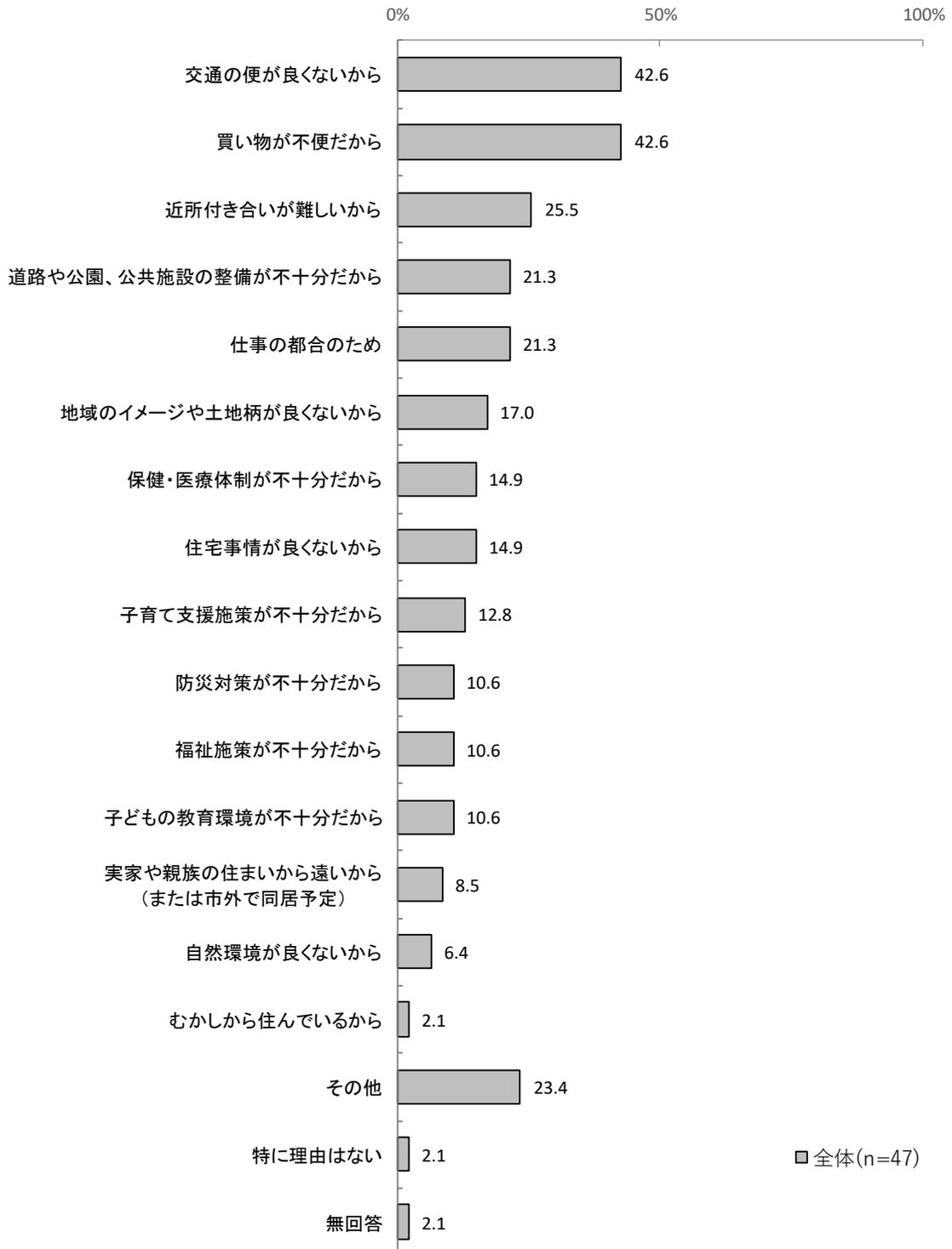
『住み続けたい』理由について家族構成別で見ると、ひとり暮らしでは「自然環境が良いから」「交通の便が良いから」が他の家族構成と比べて多くなっています。親と子どもと孫では「むかしから住んでいるから」が76.1%と他の家族構成と比べて多くなっています。

3-2 転出したい理由

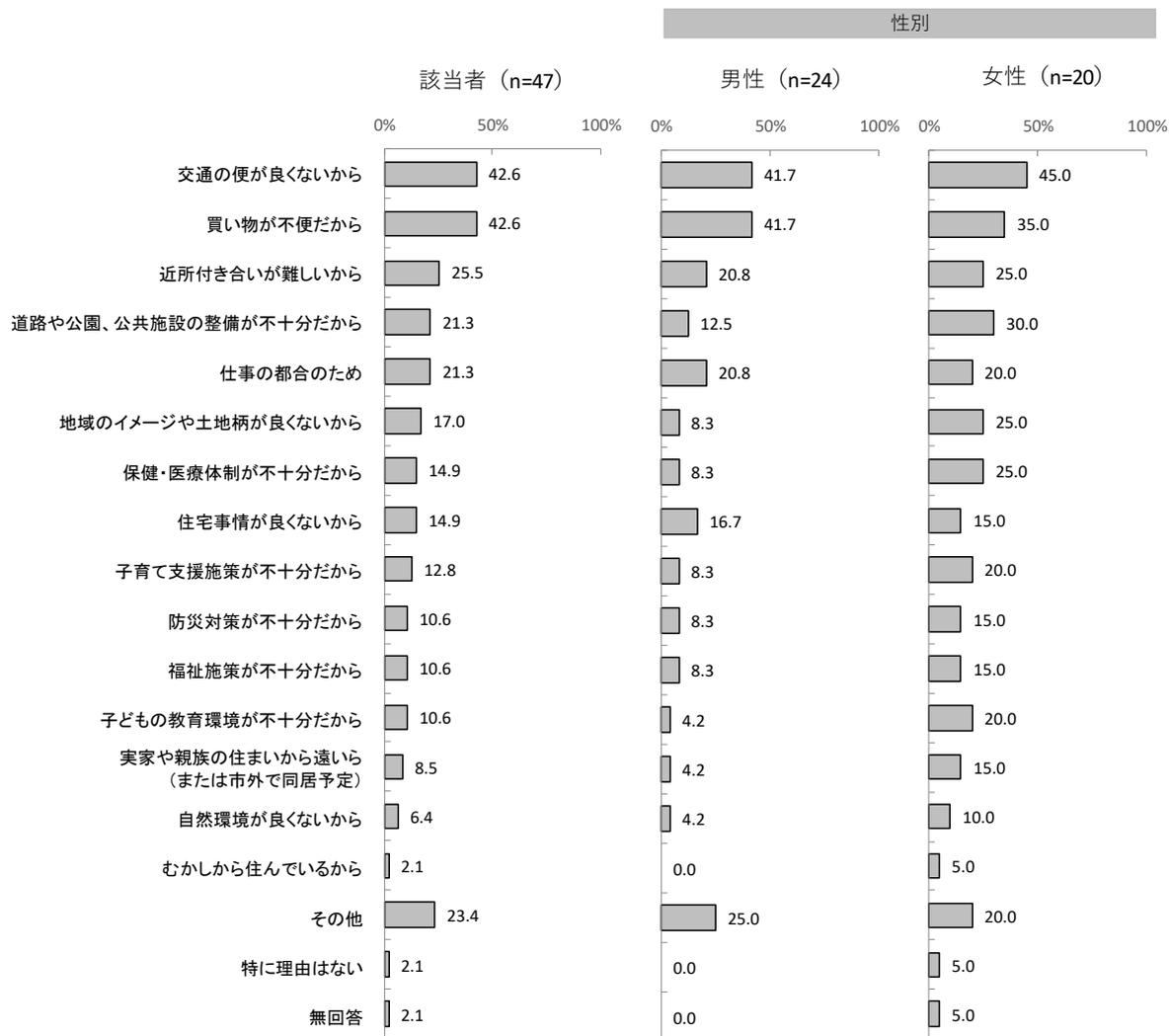
【A-02で「4」「5」と答えた方に伺います。】

A-03-2 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

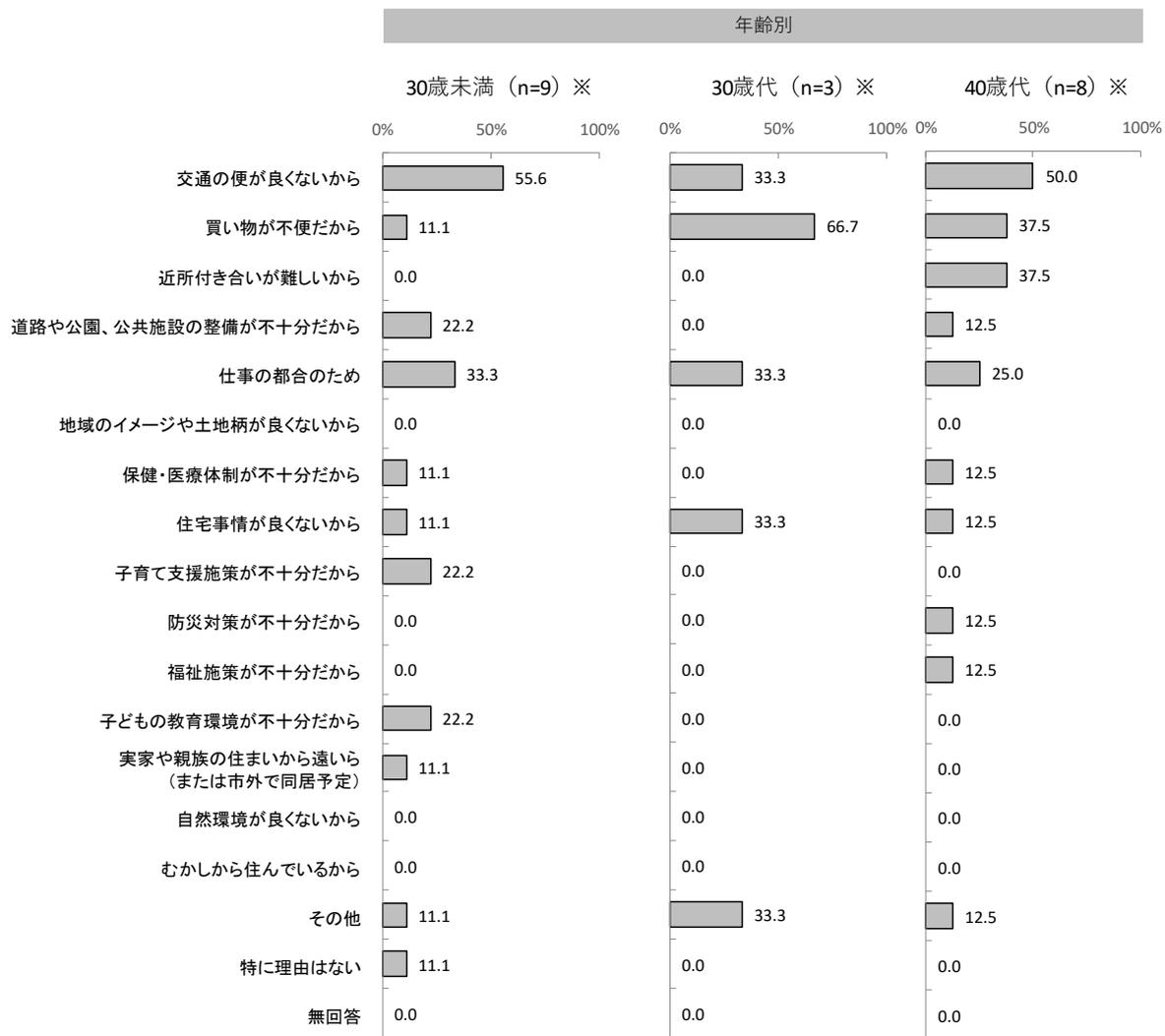
※この設問では『転出したい』の該当サンプル数が少ないため、誤差が生じやすくなっています。



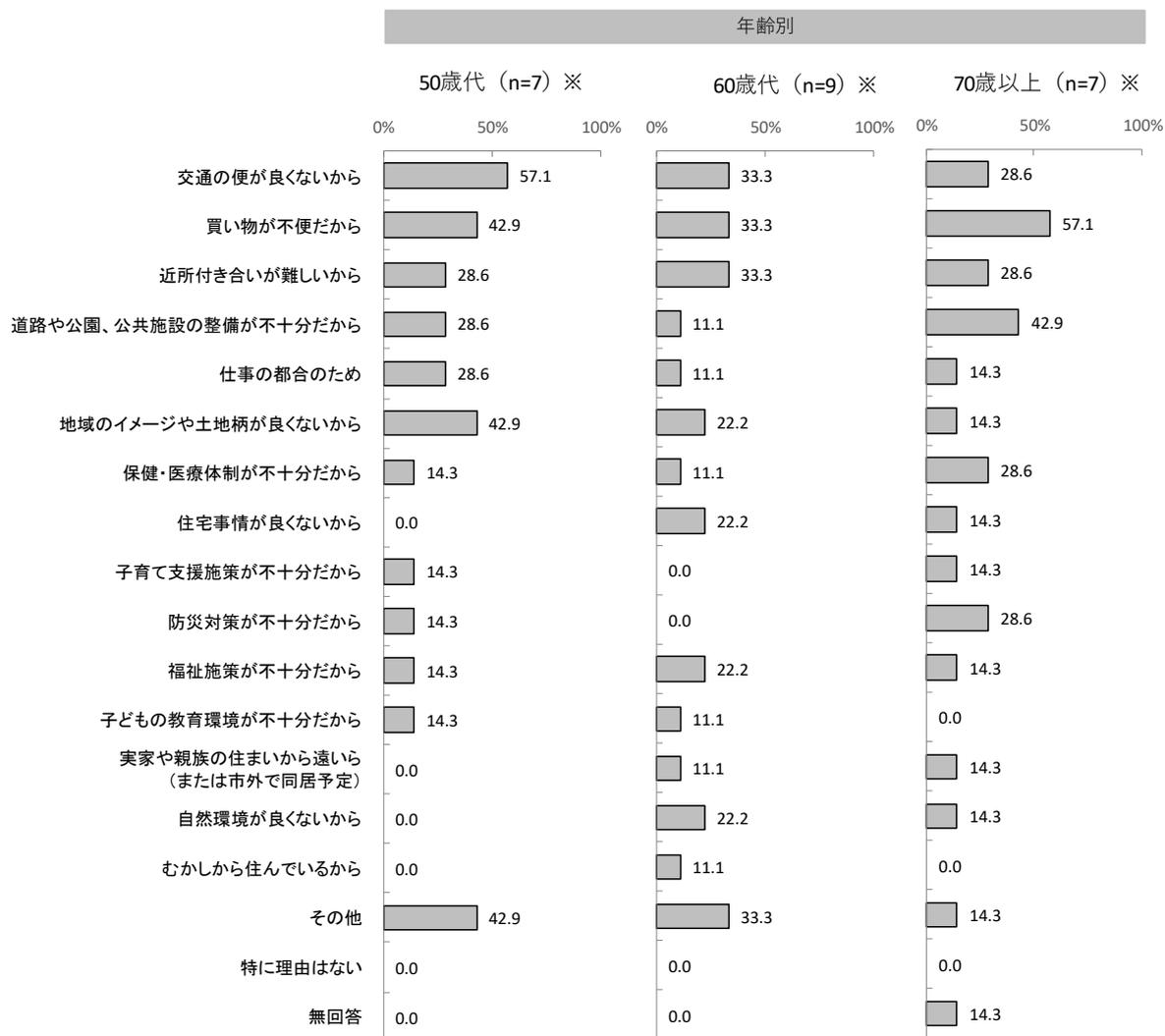
『転出したい』理由としては、「交通の便が良くないから」と「買い物が不便だから」が42.6%と最も多く、以下「近所付き合いが難しいから」25.5%、「道路や公園、公共施設の整備が不十分だから」と「仕事の都合のため」が21.3%と続いています。



『転出したい』理由について性別で見ると、女性はほとんどの事項において男性より高めとなっており、女性の方が複数事項に不満を感じていることがうかがえます。特に「保健・医療体制が不十分だから」「子どもの教育環境が不十分だから」については、男性と比べて15ポイント以上高くなっています。

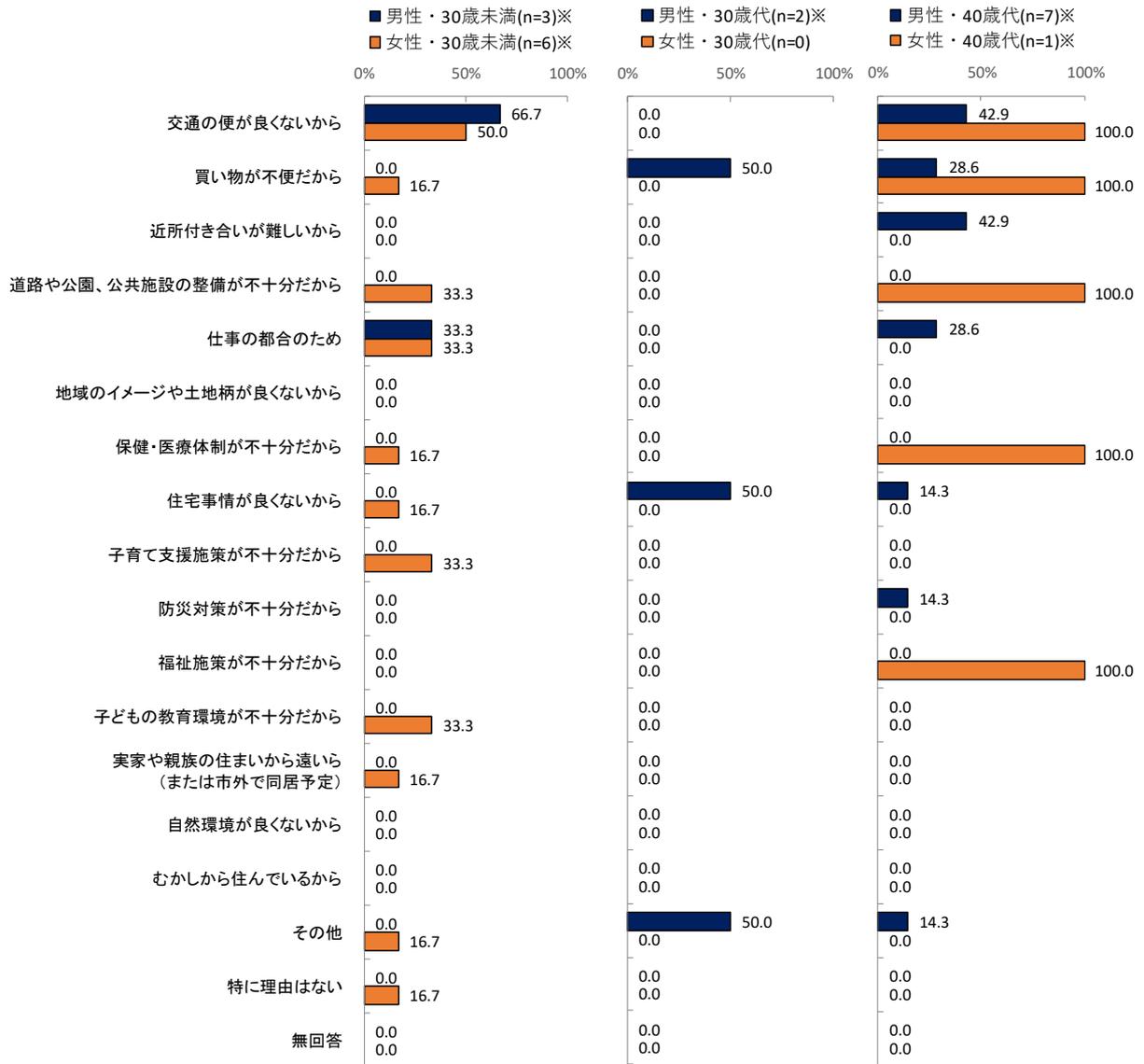


※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。



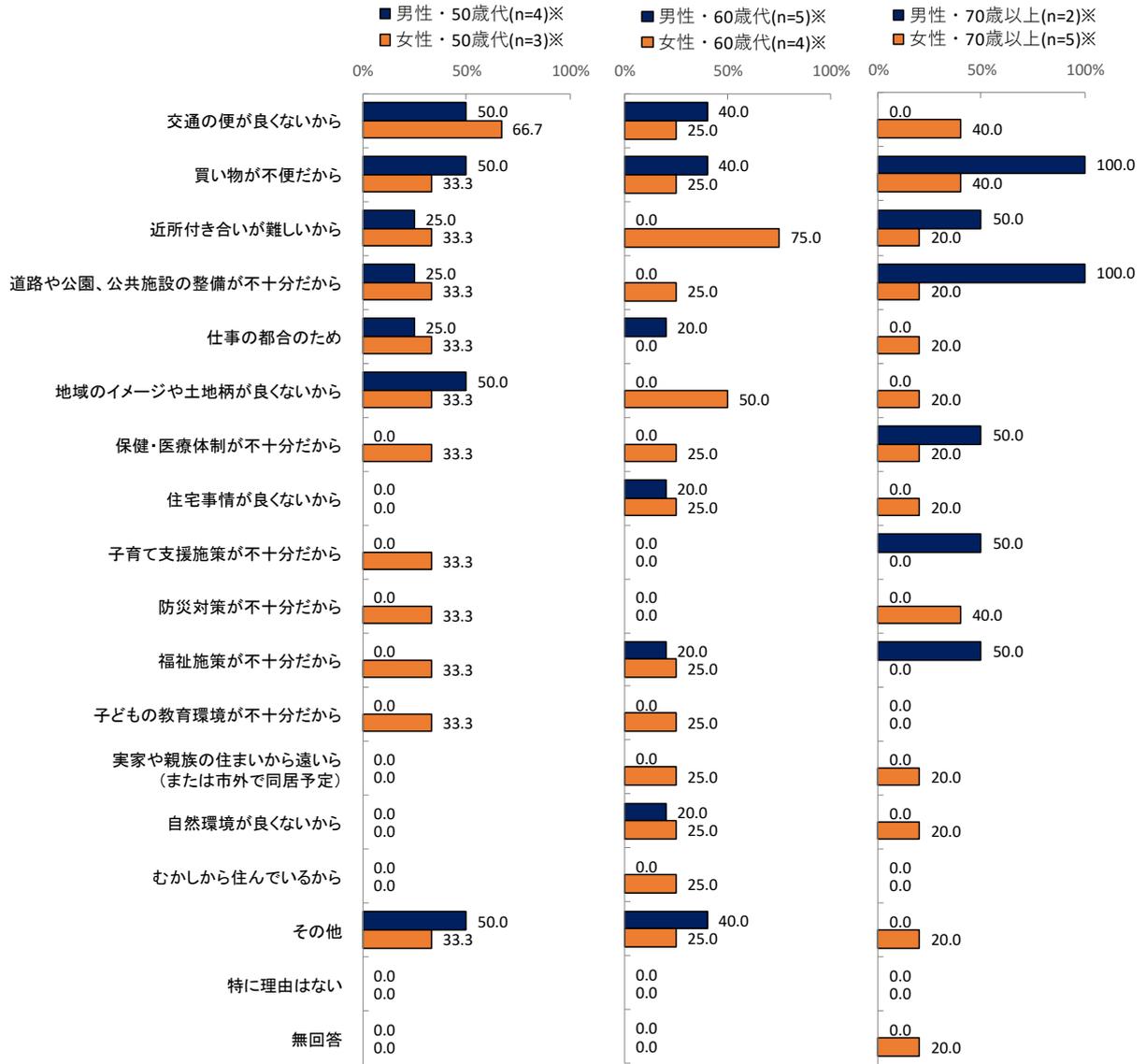
※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。

性・年齢別

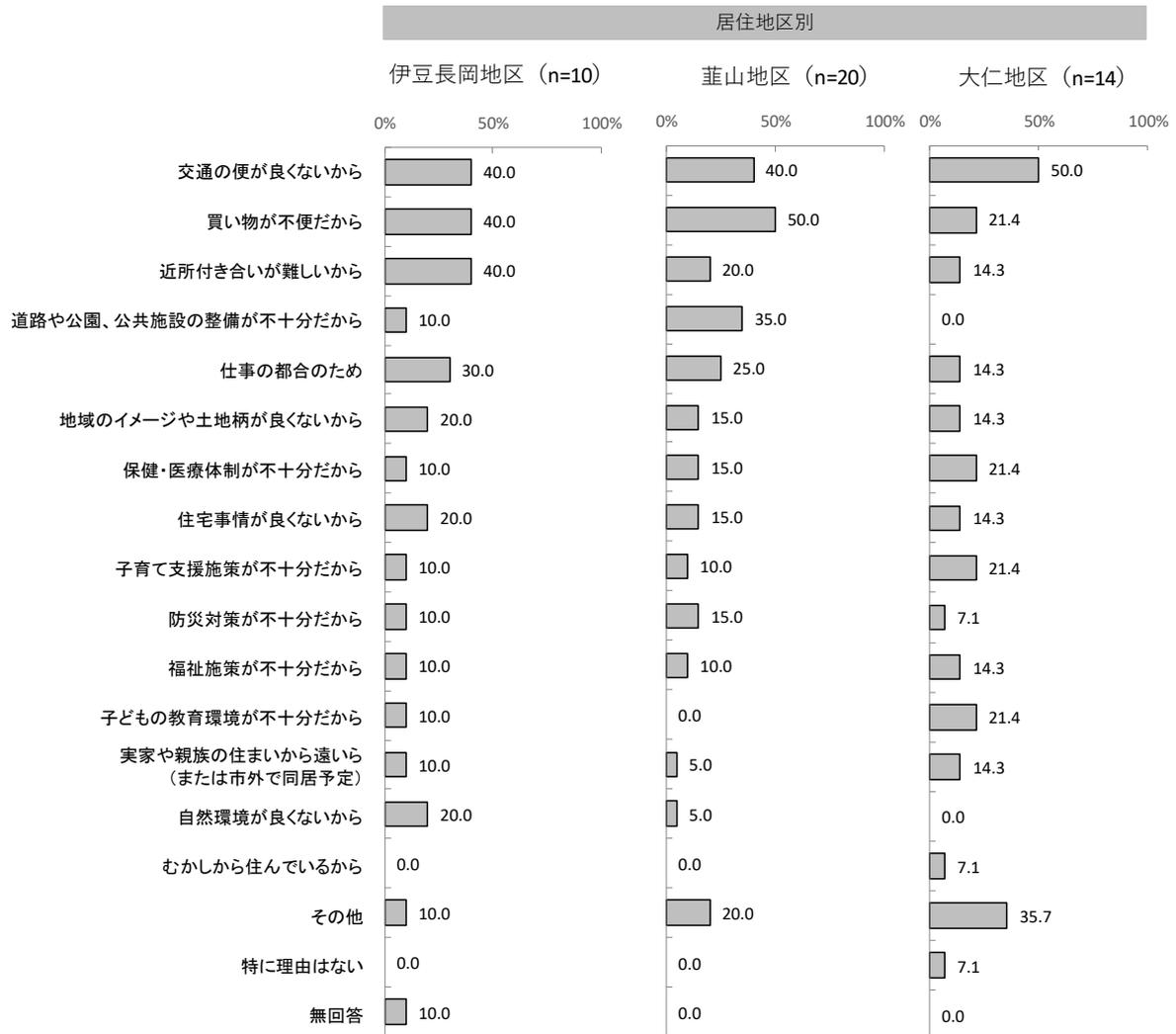


※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。

性・年齢別

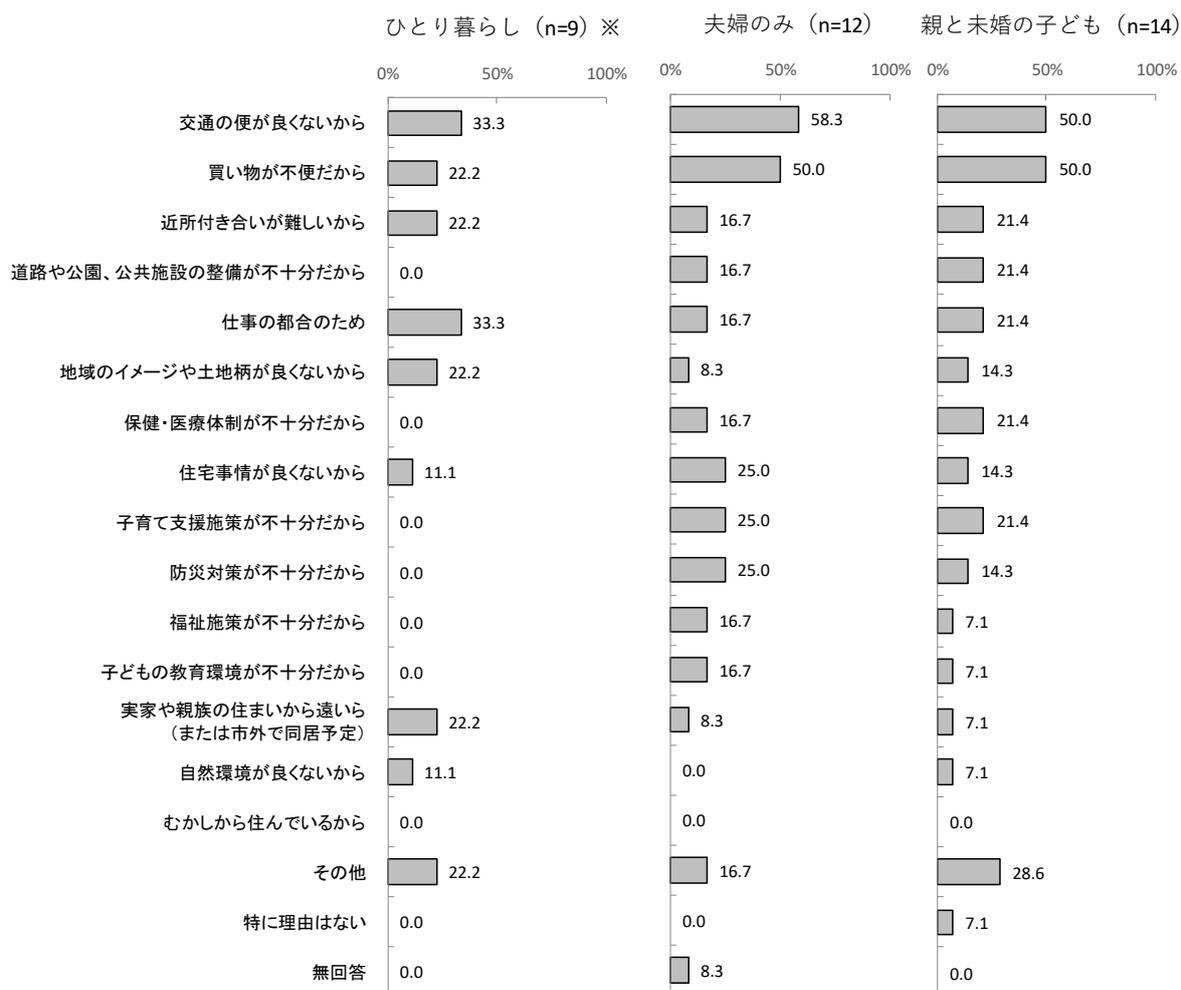


※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。



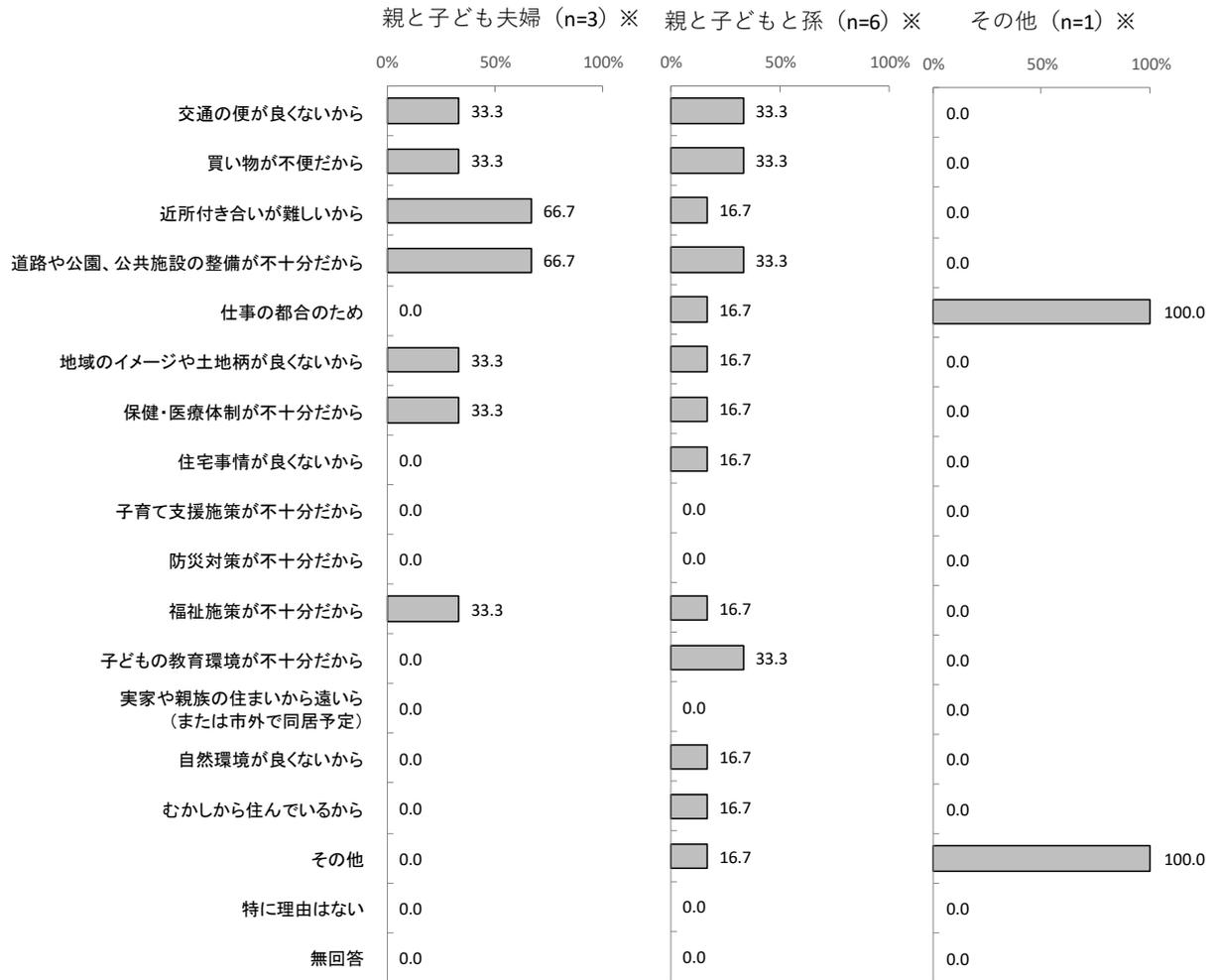
『転出したい』理由について居住地区別で見ると、伊豆長岡地区は「近所付き合いが難しいから」40.0%、「自然環境が良くないから」20.0%が他の居住地区に比べて高くなっています。韭山地区は「道路や公園、公共施設の整備が不十分だから」35.0%が他の居住地区に比べて高くなっています。大仁地区は「保健・医療体制が不十分だから」「子育て支援施策が不十分だから」「子どもの教育環境が不十分だから」がいずれも21.4%と他の居住地区に比べて高くなっています。

家族構成別



※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。

家族構成別

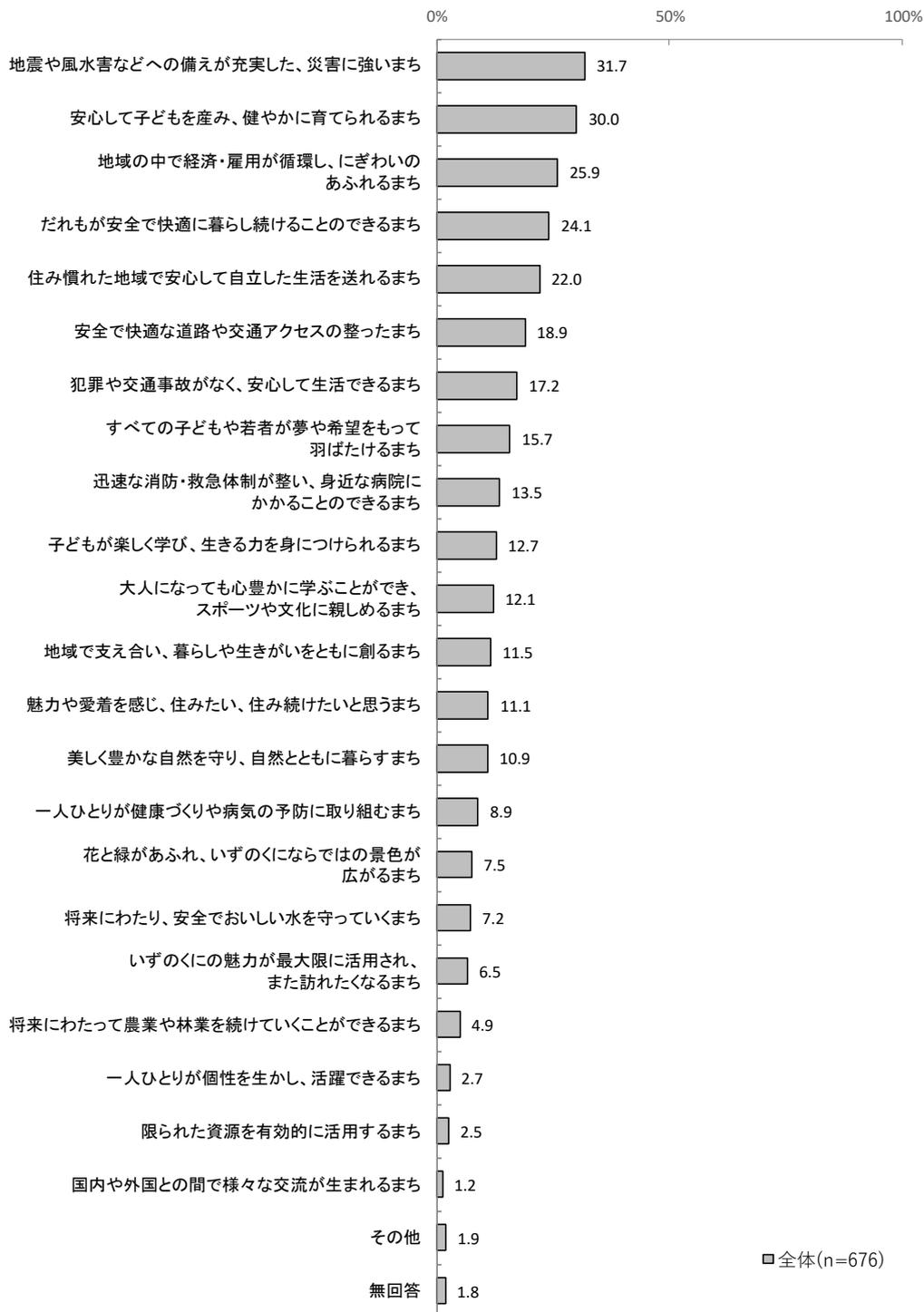


※該当サンプル数が特に少ないため、誤差が生じやすくなっています。

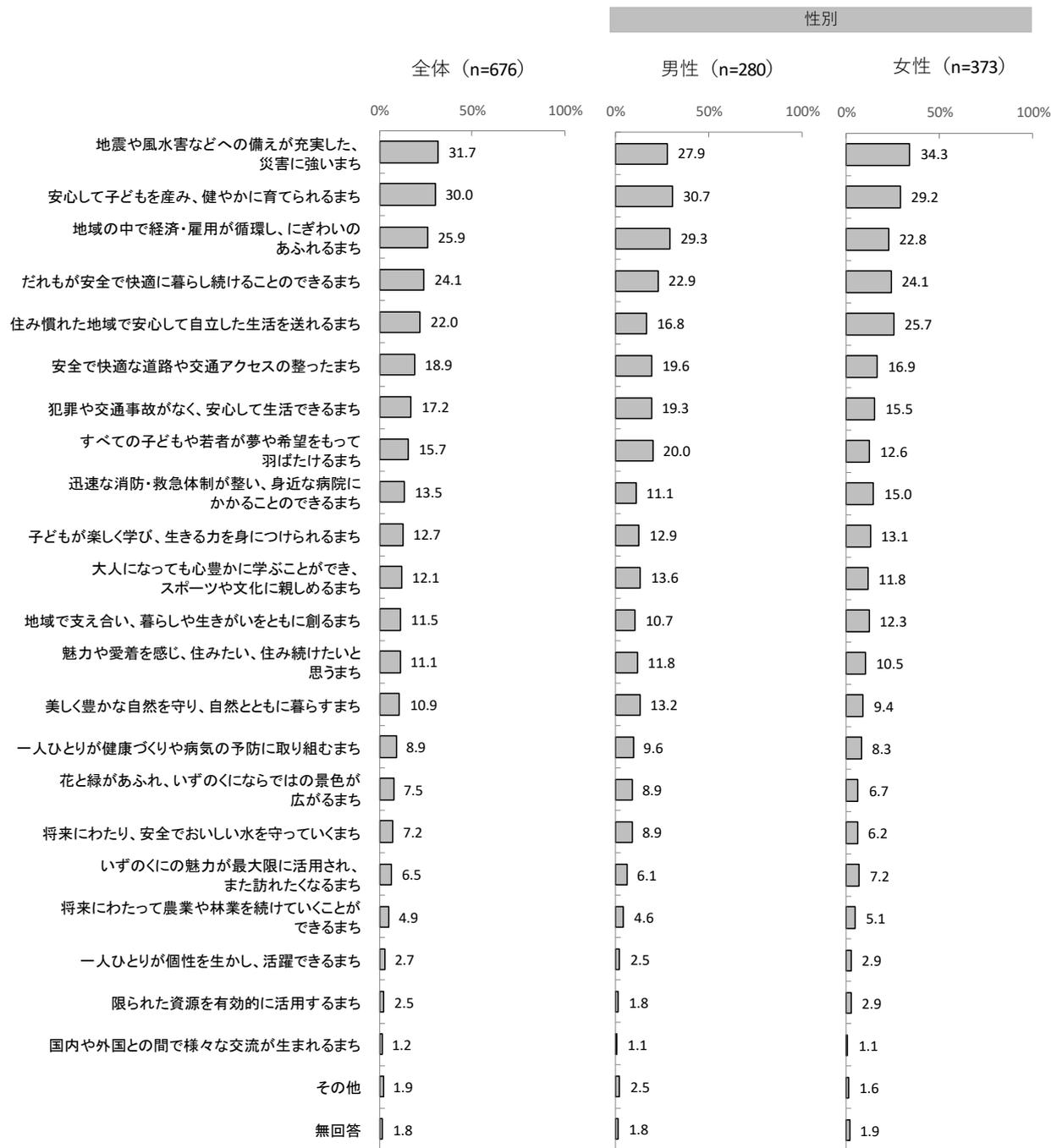
3. 第3次伊豆の国市総合計画の策定に向けて

4 今後、市はどのようなまちづくりに力を入れていくべきか

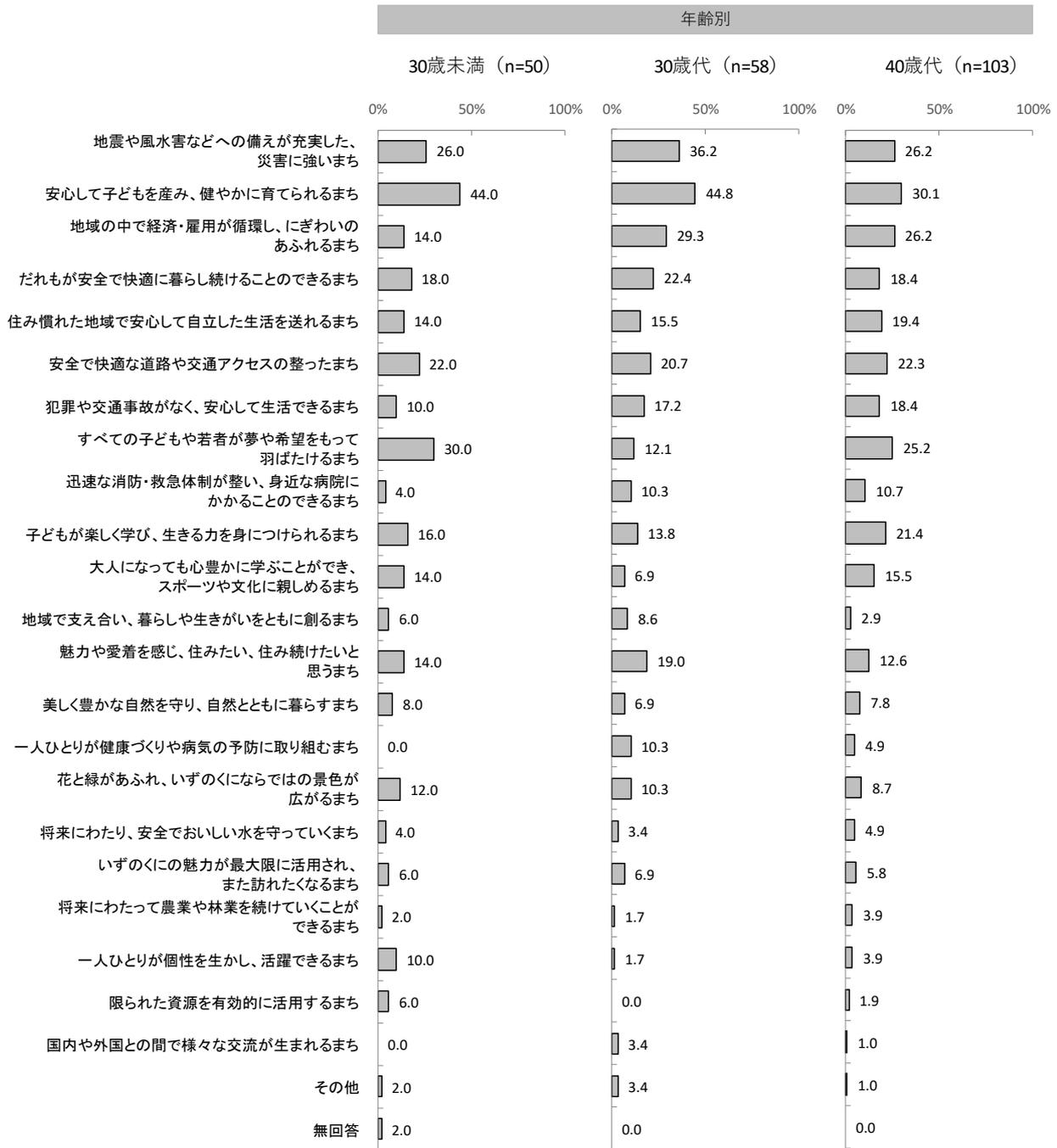
B-01 「住みたい」「住み続けたい」まちとなるために、今後、市はどのようなまちづくりに力を入れていくべきと考えますか。(〇は3つまで)

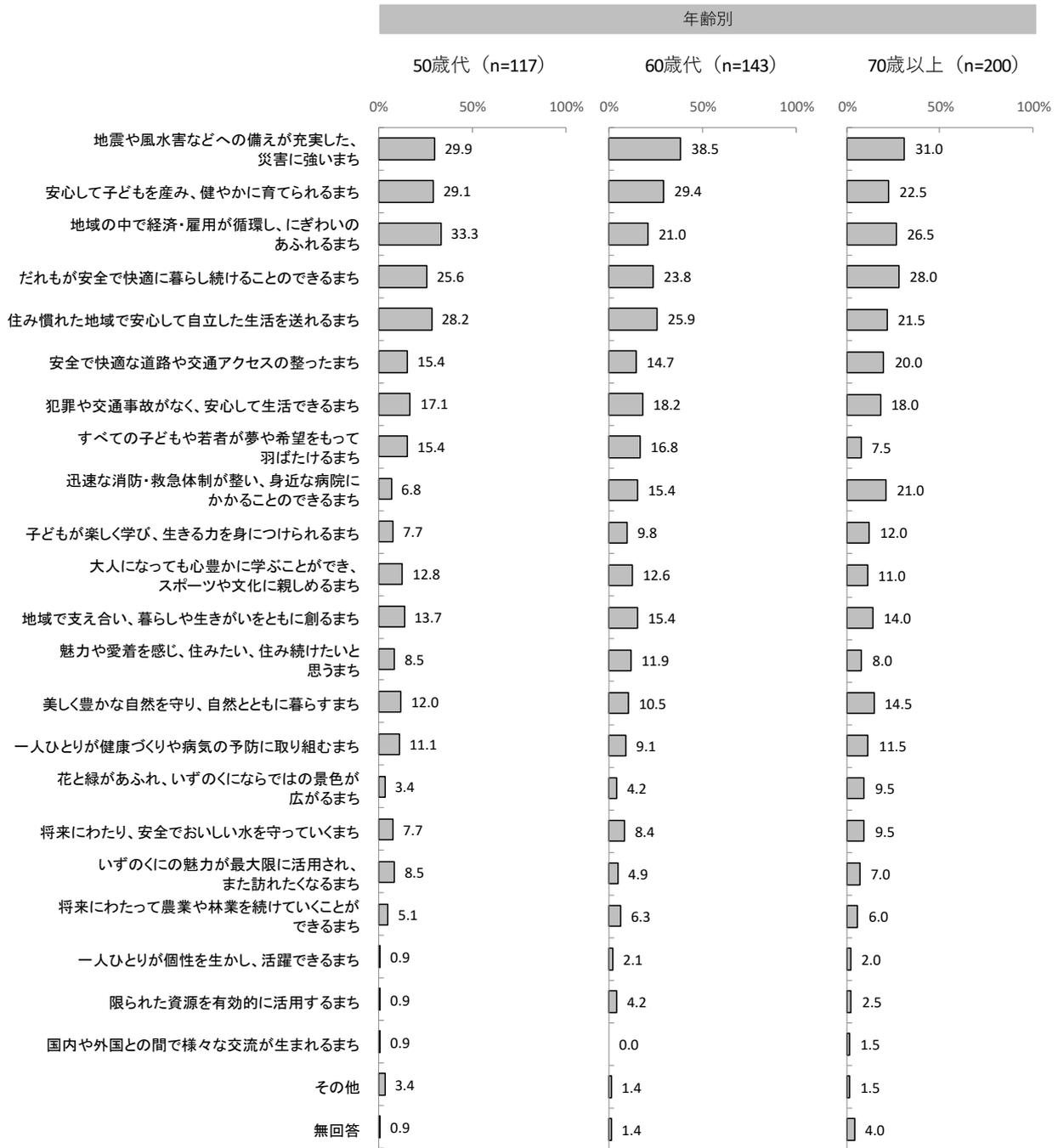


どのようなまちづくりに力を入れていくべきかについては、「地震や風水害などへの備えが充実した、災害に強いまち」31.7%が最も多く、以下「安心して子どもを産み、健やかに育てられるまち」30.0%、「地域の中で経済・雇用が循環し、にぎわいのあふれるまち」25.9%と続きます。



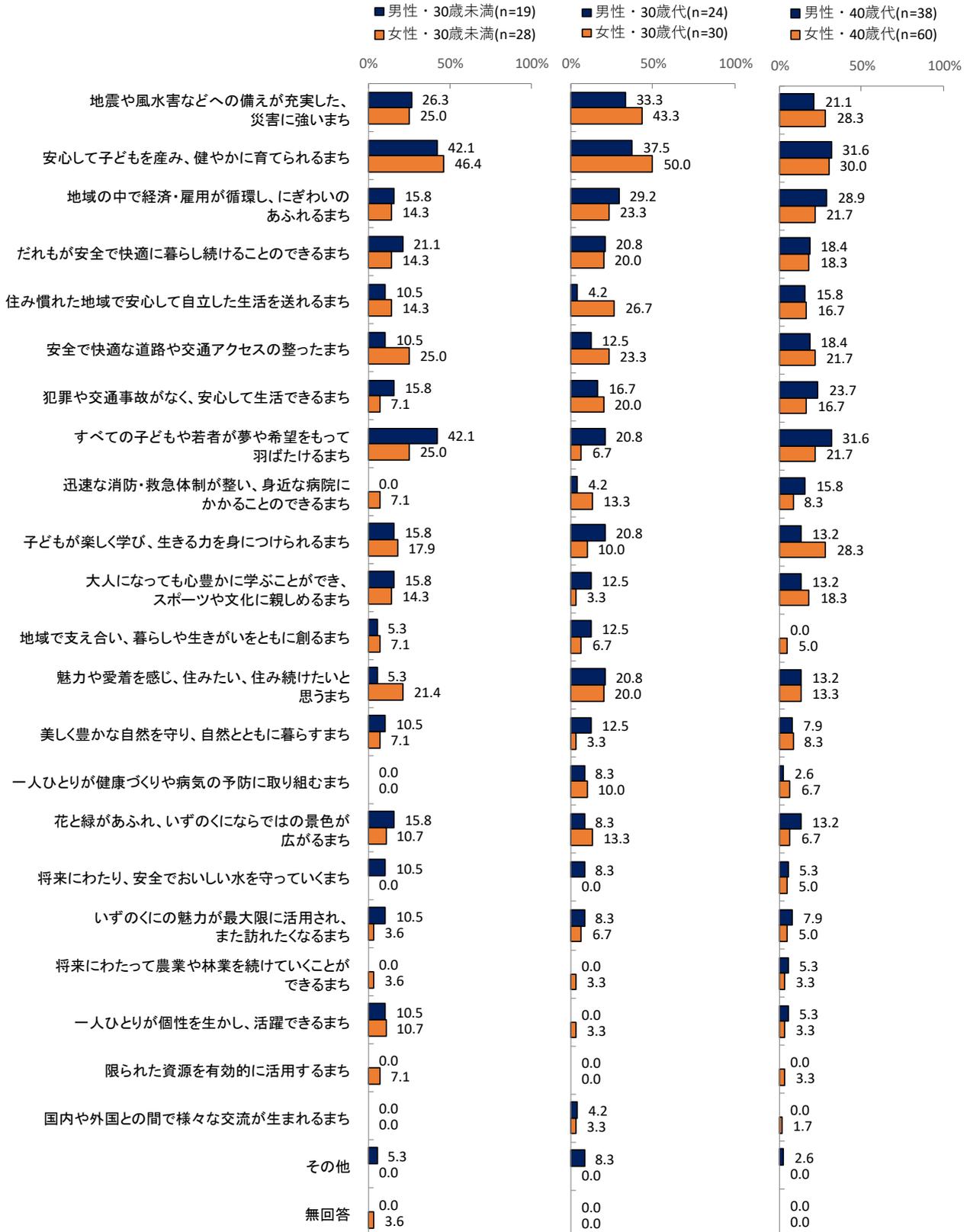
どのようなまちづくりに力を入れていくべきかについて性別で見ると、男性は「安心して子どもを産み、健やかに育てられるまち」が最も高く、女性は「地震や風水害などへの備えが充実した、災害に強いまち」が最も高くなっています。また、男性は「すべての子どもや若者が夢や希望をもって羽ばたけるまち」が20.0%と女性と比べて高くなっています。女性は「住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるまち」が25.7%と男性と比べて高くなっています。





どのようなまちづくりに力を入れていくべきかについて年齢別で見ると、40歳代以下は「安心して子どもを産み、健やかに育てられるまち」が最も高くなっています。50歳代は「地域の中で経済・雇用が循環し、にぎわいのあふれるまち」が最も高くなっています。70歳以上は「迅速な消防・救急体制が整い、身近な病院にかかることのできるまち」が21.0%と他の年代に比べて高くなっています。

性・年齢別





どのようなまちづくりに力を入れていくべきかについて性・年齢別で見ると、「地震や風水害などへの備えが充実した、災害に強いまち」は女性の方が高めの傾向にあり、「すべての子どもや若者が夢や希望をもって羽ばたけるまち」は男性の方が高めの傾向にあります。「安心して子どもを産み、健やかに育てられるまち」は、女性30歳代以下では最も高くなっています。

雇用が循環し、「にぎわいのあふれるまち」は女性・60歳代、住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるまち」は男性・30歳代で、それぞれ全体に対して低くなっていると考えられます。

このほか、「すべての子どもや若者が夢や希望をもって羽ばたけるまち」は男性・30歳未満と男性・40歳代で高くなっており、女性・70歳代では低くなっています。

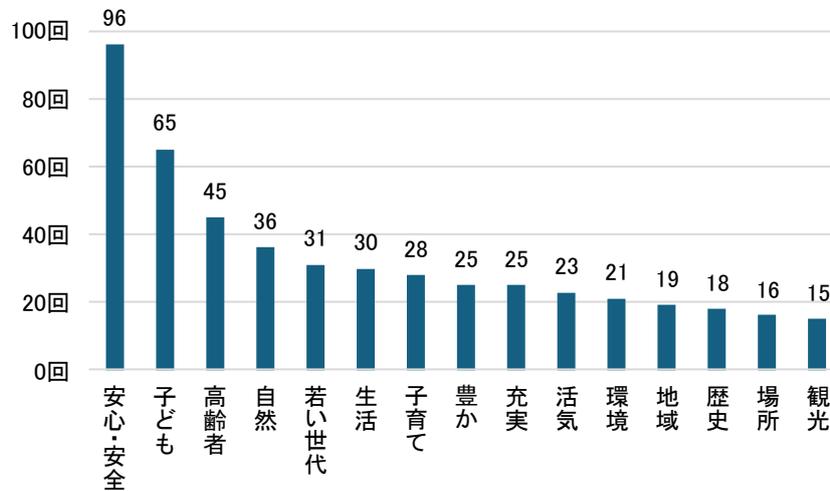
【その他】

- 音楽のライブハウスがあるまち。 (男性 30歳未満 大仁地区)
- スーパーの種類を増やして。 (男性 30歳代 伊豆長岡地区)
- 自分のように、よそ者や少し若い方とその上の価値観の差が生まれている世代間や、そこで生まれ育った人と引越して来た人達が新しい価値観を述べた時に一方的に村八分に遭わないまち。 (男性 30歳代 韮山地区)
- 課によっては違うが、行政がもう少し市民に耳を傾けるべき。 (男性 40歳代 大仁地区)
- 個人事業主の生活ができるまち。 (男性 50歳代 韮山地区)
- 有機農業のメッカ。 (男性 50歳代 韮山地区)
- 市民が払った税金が公正に使われるまち。 (男性 70歳以上 大仁地区)
- 若者が伊豆の国市で働きたいと思うまち。 (女性 50歳代 韮山地区)
- 高齢者が安心、安楽に生活できるまち。 (女性 50歳代 韮山地区)
- 薪ストーブの使用制限や罰則を作ってほしい。住環境が最低である。 (女性 60歳代 伊豆長岡地区)
- 自分の地域では水道の水圧が低く、小石が出る時があり、早くおいしい水にしてほしい。税金が高い。 (女性 60歳代 韮山地区)
- 買物する場所が選択出来るようなまち。地元で働けるように企業の誘致。活気があるまち。 (女性 70歳以上 韮山地区)

5 未来の伊豆の国市をどんなまちにしたいか

B-02 あなたは未来の伊豆の国市をどんなまちにしたいですか。(自由記述)

《名詞の出現回数—上位15件》



※「まち」232回は対象外としています。「若者」「若い人」などの類義語は「若い世代」にまとめるなど、データの整理を行っています。(B-03、Hも同様)

23件の名詞(「まち」は除く)が検出され、このうち出現頻度の上位15件をグラフに掲載しています。

《回答抜粋》

出現回数の多かったキーワード4件についての回答を抜粋しました。

●安心・安全 (96回)

- 赤ちゃんから高齢者まで楽しく、安心して過ごせるまち。(女性 70歳以上 韮山地区)
- 高齢者の方が増えているので、買い物・病院・理容など、車の無い生活でも安心して暮らせるような町にできれば良いと思う。(男性 50歳代 伊豆長岡地区)
- 安心してのびのびと子育てできるまち。(女性 40歳代 伊豆長岡地区)
- 誰もが安全かつライフスタイルを楽しめる施設設備を増やし、自然を大いに活用し、癒しの空間を。心の癒される設備のあるまち。(女性 60歳代 大仁地区)

●子ども (65回)

- 子どもたちが安心して学べる環境を整え、子どもたちの声が聞こえる地域にしたい。(女性 70歳以上 大仁地区)
- 子どもが自然と触れ合える、思いっきり遊べる場所づくり。(女性 30歳代 大仁地区)
- 子どもや若者が多くいる町にしたい。就労の場所が多くあること。(女性 60歳代 伊豆長岡地区)
- 今後、人口が増えるための子ども、若者、高齢者に優しいまちにしてほしい。(女性 50歳代 韮山地区)

●高齢者 (45回)

- 段々と高齢者が多くなって、1人暮らしの方も増えて来るので、シェアできるような巡回バスが近くに回ってくると、買い物やイベントに参加が増えるのではないかと思います。

(女性 60 歳代 韮山地区)

- ・ 高齢者が生きがいを持って、働きたい人は働く場所があって生涯現役でいられるまち。
(女性 50 歳代 韮山地区)
- ・ 市の財源のため、高齢者は隅に追いやられているように思われます。今、高齢者の為のお風呂なくそうとする噂が出ています。この楽しみどこで埋めてもらえますか。
(女性 70 歳以上 韮山地区)
- ・ 高齢者ばかりに手厚くするのではなく、小さな子ども、子育て世代を補助してくれるようなまち。
(女性 50 歳代 大仁地区)

●自然 (36回)

- ・ 自然の景観を活かして外から人が多く訪れるまちにする。 (男性 70 歳以上 大仁地区)
- ・ 現在と変わらない、自然豊かなまちにしたい (変わらなくて良い)。
(女性 30 歳代 韮山地区)
- ・ 歴史や自然、健康に関する資源を生かした未来志向の町。 (女性 60 歳代 伊豆長岡地区)
- ・ 今ある自然・文化・地場産品をもっともっと生かし魅力あるまちに。
(女性 50 歳代 大仁地区)

《自由回答の分類結果—上位10項目》

自由回答を内容別に分類した結果、多かった内容10項目は以下の通りです。

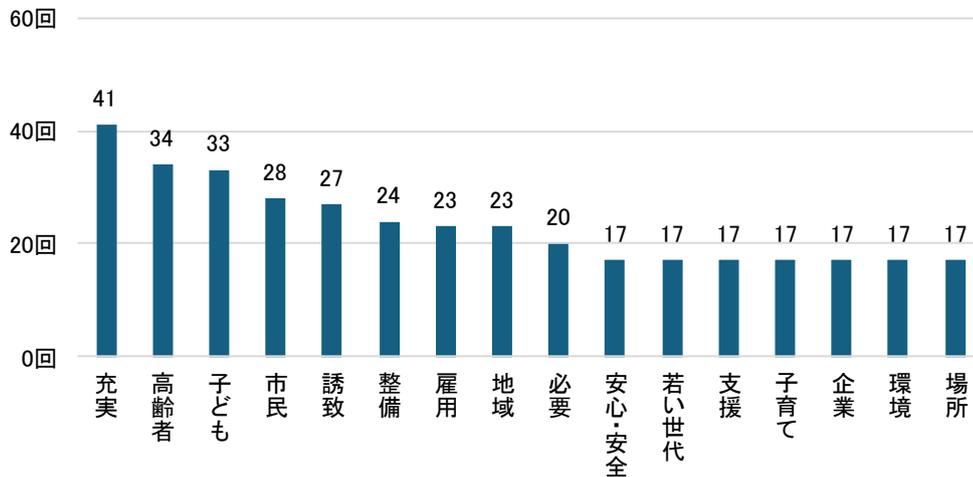
(件)									
子育てしやすいまち、子どもが住みやすいまち	安心して暮らせるまち	観光に力を入れるまち	福祉・医療の充実したまち	活気があるまち	自然豊かなまち	暮らしやすいまち	雇用の安定したまち	人が集まるまち	商業・経済が発展するまち
58	56	40	28	27	26	22	21	17	15

子育てや高齢者支援、観光振興、地域活性化など、さまざまな面での要望が寄せられています。未来の伊豆の国市には、安心して暮らせる環境や、活気のあるまちづくりが望まれており、特に若い世代の定着や地域の魅力向上に力を入れることが重要とされています。また、地域の歴史や自然を活かしたまちづくりや、地域間の連携強化も提案されています。

6 思い描いたまちにするために必要な取組

B-03 上記で思い描いたまちにするためには、どのような取組を行ったらよいと考えますか。
(自由記述)

《名詞の出現回数—上位16件》



35件の名詞(「まち」は除く)が検出され、このうち出現頻度の上位16件をグラフに掲載しています。B-02に比べキーワードが12件多くなっており、要望は多岐にわたっています。B-02と共通するキーワードが13件、共通しないキーワードは22件となっています。共通しないキーワードとしては、「誘致」「整備」「雇用」などが多くなっています。

《回答抜粋》

出現回数の多かったキーワード5件についての回答を抜粋しました。

●充実(41回)

- 文化施設、社会教育施設(図書館、生涯学習センター)等の内容を充実させる。
(女性 30歳代 韮山地区)
- 教育と福祉の充実。
(女性 60歳代 伊豆長岡地区)
- 企業誘致や商業施設の充実。
(男性 60歳代 韮山地区)

●高齢者(34回)

- 市運営の低価格施設の建設(老人ホーム等)。
(男性 70歳以上 伊豆長岡地区)
- 子育ての手伝いが出来たり、高齢者が家にこもらぬように交通(乗り合いタクシーなど)、高齢者の交流の活性化、子供、高齢者のふれ合いなど融合する。
(女性 50歳代 韮山地区)
- 安価で小回りのきくバスあれば高齢者も若い世代も安心して利用できる。交通の便が悪いのに、周囲を見ると高齢化が進み、車の免許証返納しなければならないので。
(女性 70歳以上 韮山地区)

●子ども(33回)

- 子育て世代が住みにくいまちだと思います。子どもが減ったから幼稚園を減らすのではなく、子どもが増えるようにして幼稚園を存続させてほしいです。
(男性 40歳代 大仁地区)
- 子どもの医療体制において、小児医療を充実して欲しい。夜間の小児救急ですが順天堂が対応し

てもらえなくて近場に受診できる病院がなくて困っています。 (男性 40歳代 大仁地区)

- とにかく子どもを産みやすいまち作りをめざすこと。 (女性 60歳代 大仁地区)

●市民 (28回)

- 教員や、市において市民に対する課の職員に教育を。学校や市役所において、市民が下にいる感じをなくしてほしい。 (女性 50歳代 韮山地区)
- 市民が主役となってまちづくりを進めるため、若者のニーズを聞く機会を設け、これを施策に取り入れることが必要と思います。 (男性 70歳以上 韮山地区)
- 今ある自然・文化・資源・地場産品を先ず市民に発信し、市の素晴らしさに気づくことから始める。併せて他市、他県民が感じる伊豆の国市の魅力も理解する。 (女性 50歳代 大仁地区)

●誘致 (27回)

- 税制を優遇して大企業や病院、教育機関を誘致する。 (男性 50歳代 大仁地区)
- 市伊豆半島全体で協力し、観光資源を宣伝。観光客を誘致する。 (女性 70歳以上 大仁地区)
- 新東名、東名、伊豆縦貫道の接続がいいので、コストコ、イケヤの誘致。各地から人が集まれば、人口減が防げる。 (男性 70歳以上 大仁地区)

◀自由回答の分類結果—上位10項目▶

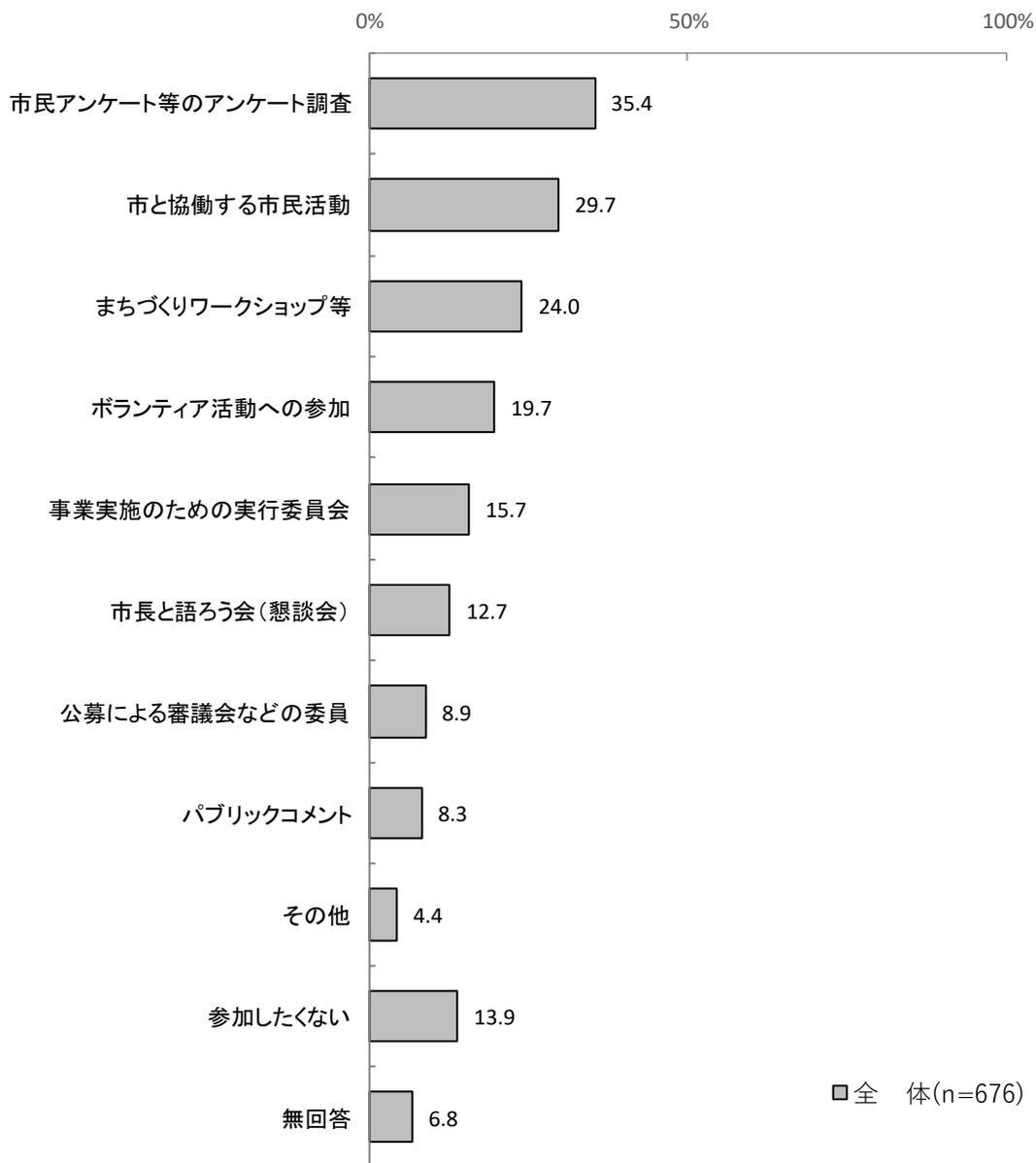
自由回答を内容別に分類した結果、多かった内容10項目は以下の通りです。

(件)									
充 子 実 育 て ・ 福 祉 ・ 医 療 の	道 路 ・ 交 通 環 境 の 整 備	企 業 ・ 学 校 等 の 誘 致	観 光 促 進	の 長 期 的 な 取 組 ・ 行 政 へ の 要 望	雇 用 促 進	各 種 産 業 の 育 成 ・ 発 展	店 舗 ・ 施 設 の 充 実	住 民 ニ ー ズ の 分 析	防 犯 ・ 防 災 対 策
59	33	31	29	28	28	19	19	16	15

子育て中の若い世代への支援をすることで人口減少を防ぐ対応が望まれる一方、高齢者支援にも期待が大きくなっています。医療体制や、歩道の整備も含めた交通環境の改善を望む意見など、インフラ整備については世代を問わず関心が高いものとなっています。また、市民の声を聞いてほしいとの要望も散見され、市民の声を反映し、地域全体の発展につなげる取組が求められています。

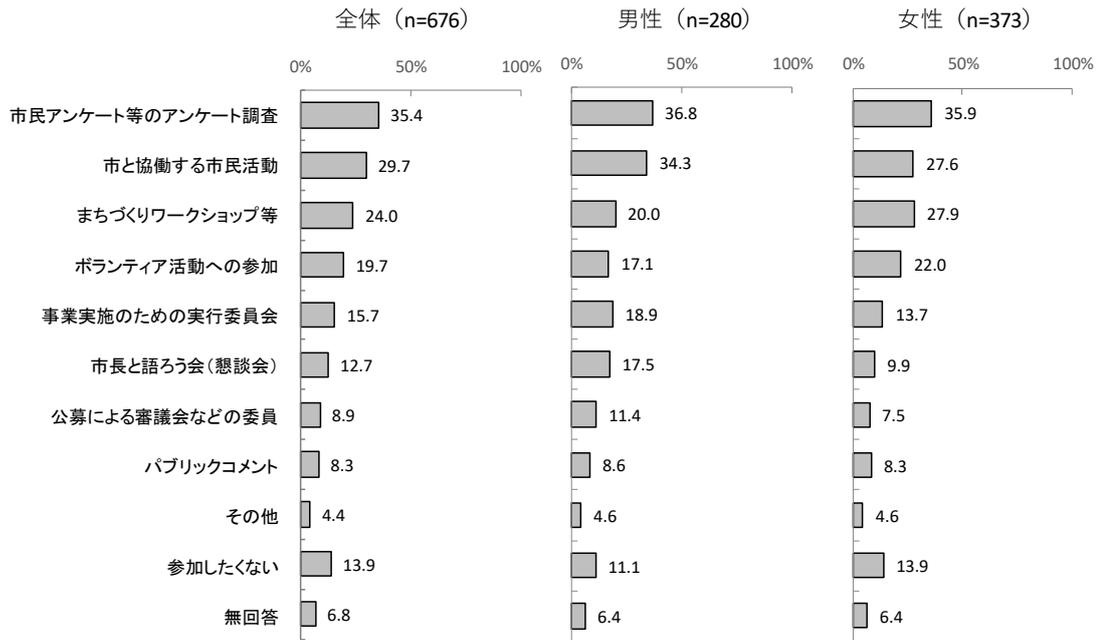
7 市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したい）取組

B-04 市民が主役となってまちづくりを進めていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。あなたが参加したいと思う取組を教えてください。（○は3つまで）

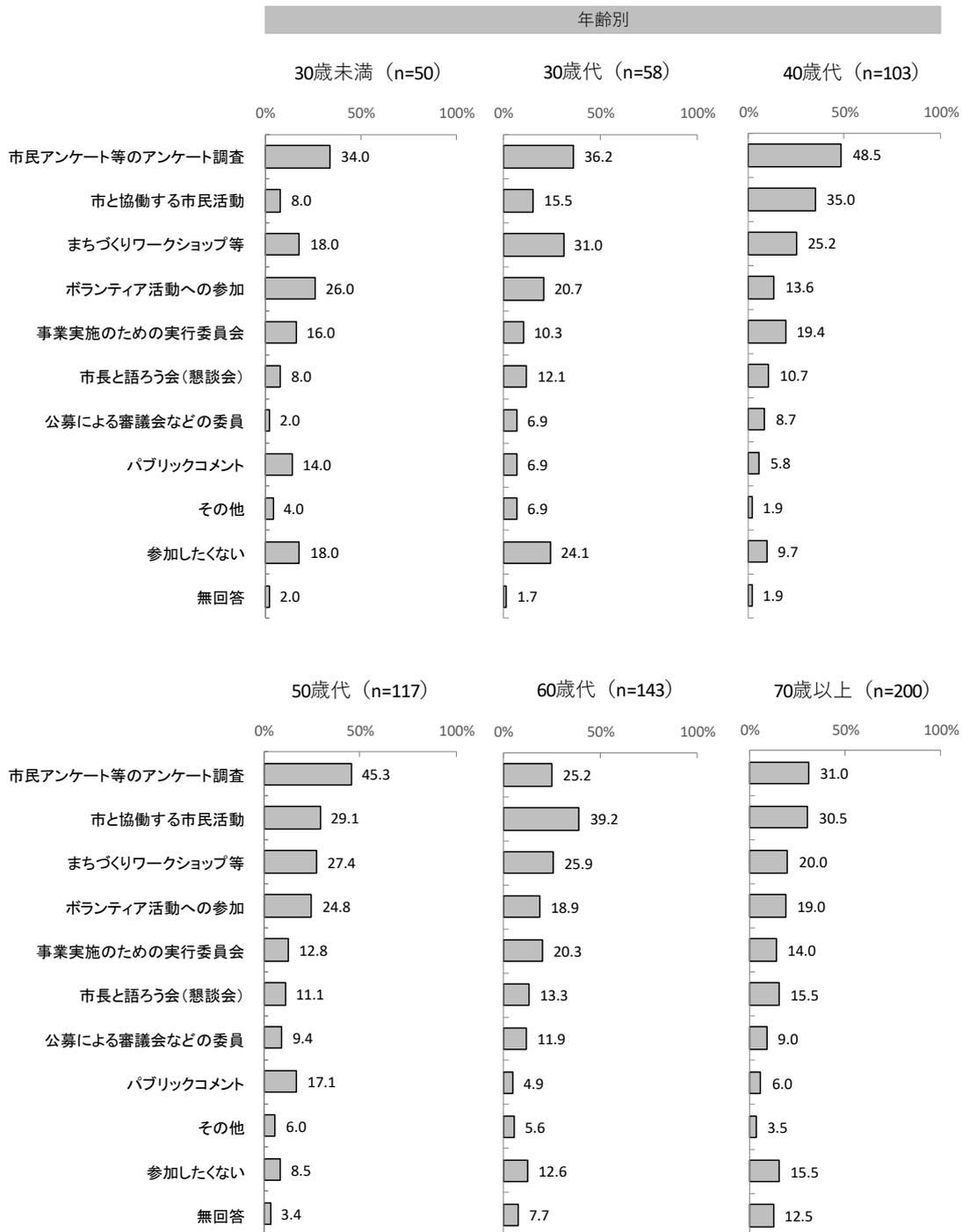


市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したいと思う）取組については、「市民アンケート等のアンケート調査」35.4%が最も多く、以下「市と協働する市民活動」29.7%、「まちづくりワークショップ等」24.0%、「ボランティア活動への参加」19.7%、「事業実施のための実行委員会」15.7%と続きます。一方、「参加したくない」は13.9%となっています。

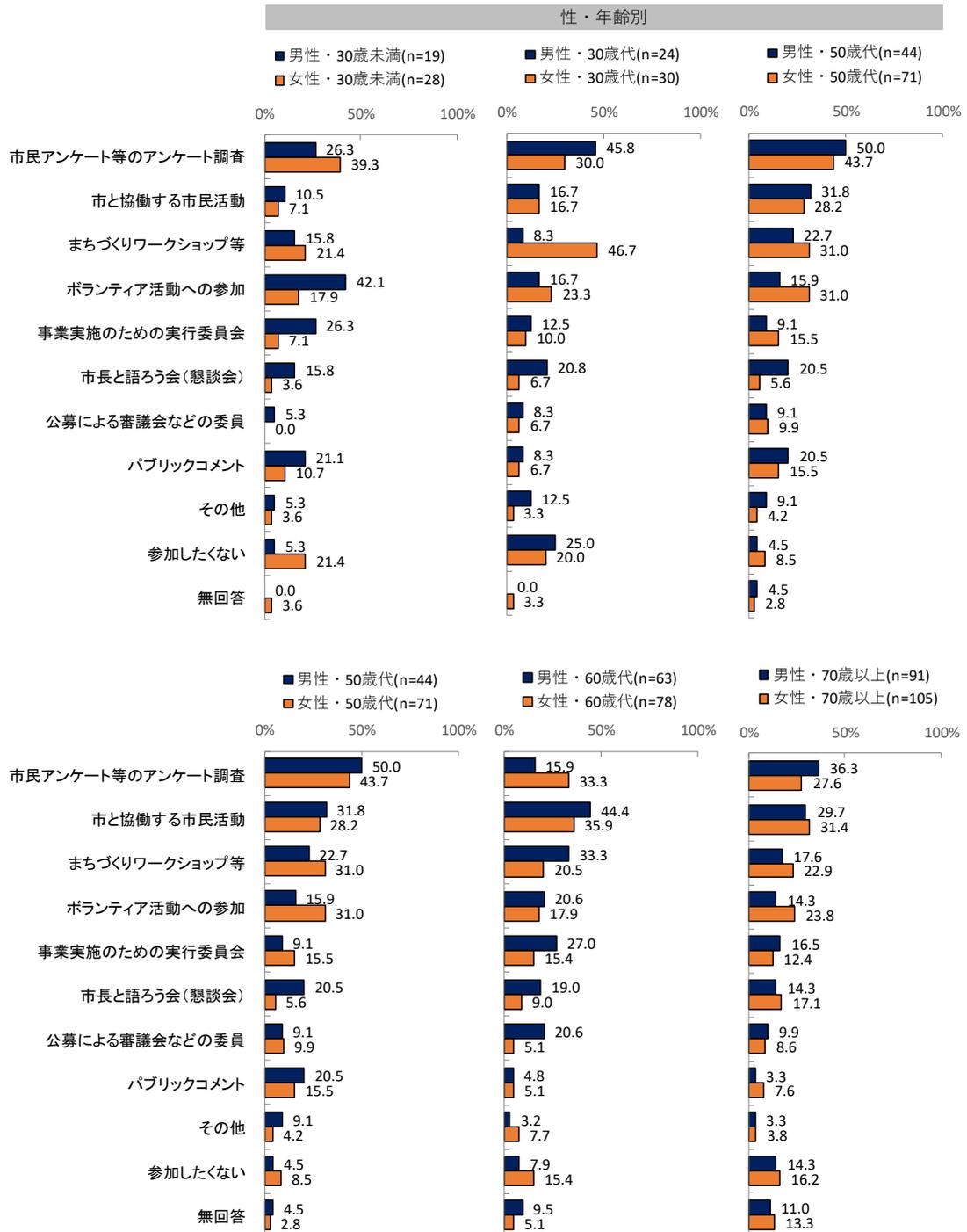
性別



市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したいと思う）取組について性別でみると、男性は「市と協働する市民活動」「事業実施のための実行委員会」「市長と語ろう会（懇談会）」において女性より5ポイント以上高くなっています。女性は「まちづくりワークショップ等」「ボランティア活動への参加」において男性より約5ポイント高くなっています。



市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したいと思う）取組について年齢別でみると、30歳未満は「ボランティア活動への参加」「パブリックコメント」が高めとなっています。60歳代は「市と協働する市民活動」が39.2%と最も高くなっています。一方、30歳代は「参加したくない」が24.1%と他の年代に比べて高くなっています。

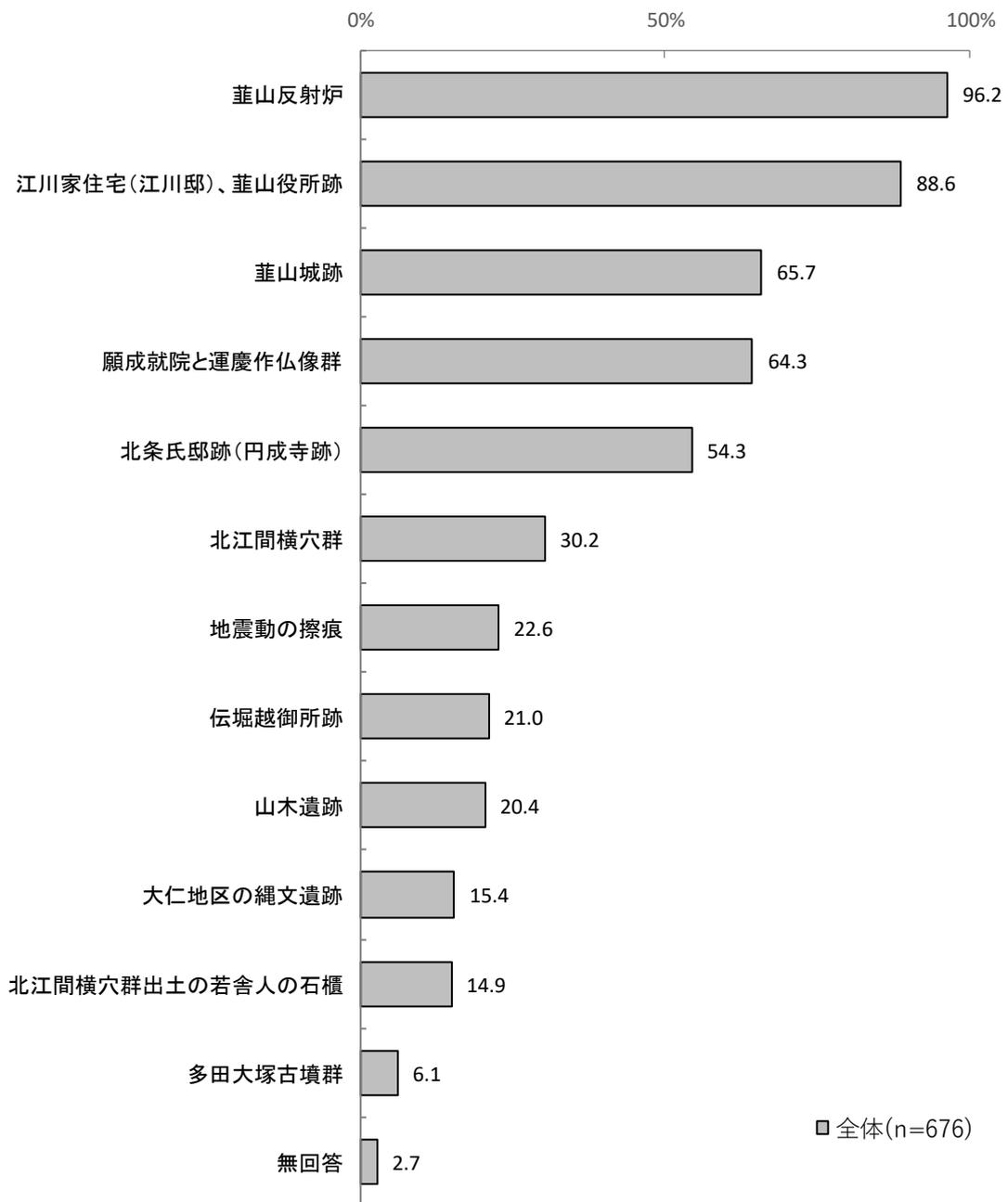


市民が主役となってまちづくりを進めていくために必要な（参加したいと思う）取組について性・年齢別でみると、男性・30歳未満は「ボランティア活動への参加」が女性・30歳未満に比べて2倍以上と高くなっています。女性・30歳代は「まちづくりワークショップ等」が46.7%と最も高くなっています。男性・60歳代は「市と協働する市民活動」「まちづくりワークショップ等」「事業実施のための実行委員会」「市長と語るう会（懇談会）」「公募による審議会などの委員」といった項目が女性より高くなっています。一方、男女ともに30歳代は「参加したくない」が2割と他の年代に比べて高くなっています。

4. 文化財展示施設について

8 市内の文化財の認知

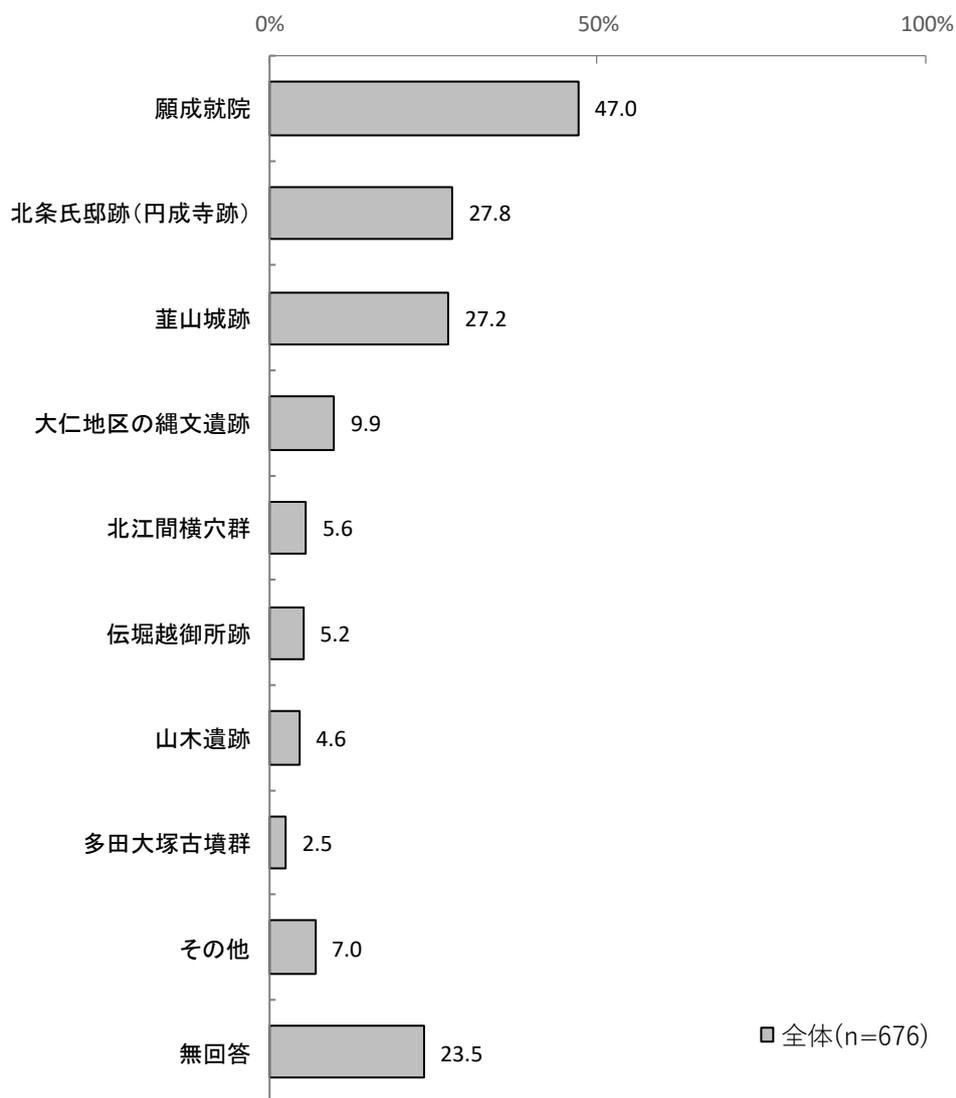
D-01 あなたが知っている市内の文化財（重要文化財・史跡・遺跡など）を教えてください。
（知っているものすべてに○）



知っている文化財については、「葦山反射炉」96.2%が最も高くなっています。以下、「江川家住宅（江川邸）、葦山役所跡」88.6%、「葦山城跡」65.7%、「願成就院と運慶作仏像群」64.3%、北条氏邸跡（円成寺跡）」54.3%と続きます。

9 展示が充実していると良いと思う文化財

D-02 展示が充実していると良いと思う文化財を教えてください。(〇は3つまで)



【その他】

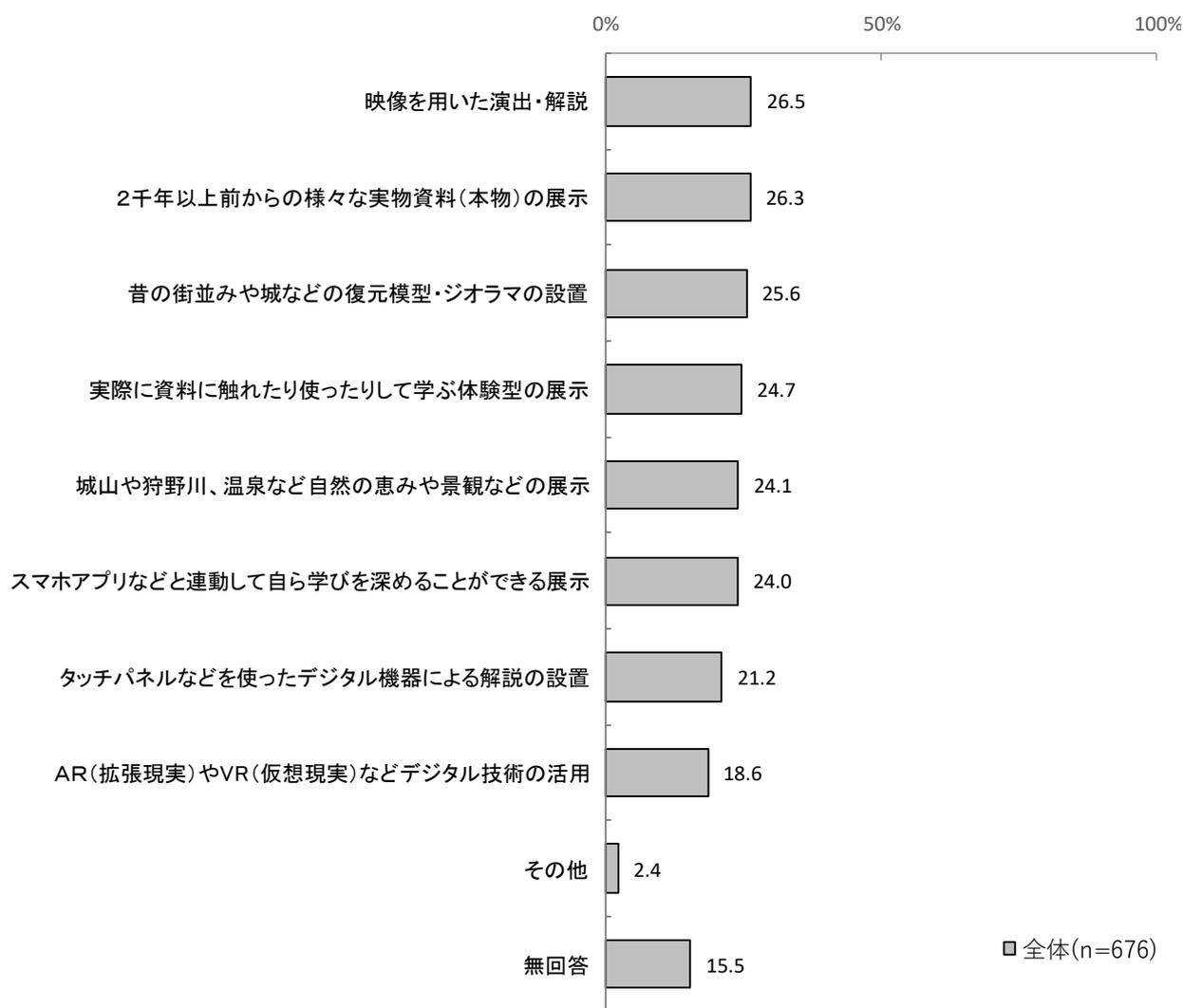
- ・ 葦山反射炉(8件)、江川邸(4件)、宗光寺横穴群(1件)
- ・ 当該箇所の保全は必要なことと感じるが、展示を充実させることがどう伊豆の国市が良くなることに繋がるのかがわからない。
- ・ どの文化財も展示が充実しているとは言い難い。
- ・ 展示していることを知らない、行ったことがないのでわからない(14件)
- ・ なし、必要なし(10件)

展示が充実していると良いと思う文化財については、「願成就院」47.0%が最も高くなっています。以下、「北条氏邸跡(円成寺跡)」27.8%、「葦山城跡」27.2%と続きます。

その他意見では、「葦山反射炉」が多く上げられました。一方、「展示内容を知らない(見学したことがない)」、「なし、必要なし」といった意見も多くみられました。

10 充実していると良いと思う展示の手法・形態

D-03 充実していると良いと思う展示の手法・形態は何ですか。(〇は3つまで)



【その他】

- 自由に見られたり、調べたり、知識が増やせること。
- 東博での展覧会実施。
- 現在の自然や生活を守ることにつながるような形の展示。
- 葦山城跡から観る、城池や葦山の景色
- 過度に展示することになんの意味があるのか
- 根本的な展示の仕方を、繁盛している文化財展示施設から学んだほうが良いと思う。
- なし、わからない(8件)

充実していると良いと思う展示の手法・形態については、「映像を用いた演出・解説」26.5%が最も高いが、以下「2千年以上前からの様々な実物資料(本物)の展示」26.3%、「昔の街並みや城などの復元模型・ジオラマの設置」25.6%と僅差となっています。

11 文化財展示施設に望むこと

D-04 上記のほか、あなたが文化財展示施設に望むことを教えてください。(自由記述)

【抜粋】

- スマホを活用して、海外の人も理解しやすい解説、バーコードリーダーでのスタンプラリー（文化財スタンプラリーなど）。
(男性 40歳代 伊豆長岡地区)
- わかりやすい説明がされてあって、誰でも理解できる。
(女性 50歳代 伊豆長岡地区)
- 見るだけでは心にも残らない。体験型が良いと思う。
(女性 60歳代 伊豆長岡地区)
- 何度も来たくなるような施設（1回行ったらもういいではなく）。(女性 60歳代 韮山地区)
- 入りやすい雰囲気施設の施設。展示がわかりやすい。お手洗いや休憩所がちゃんとある。
(女性 30歳代 大仁地区)
- 文化財展示施設に行く機会が少ないため、気軽に行きやすい場所であってほしいと思います。
(女性 30歳代 韮山地区)
- 文化財・史跡遺跡に行くのに、頻繁に気軽に行く足がない。行ったとしても体を休めたり、話をしたりする所がない。まず交通の便、足が必要。
(女性 70歳以上 韮山地区)
- Q37で知らない遺跡などがあり行きたいと思ってネットで調べましたが出て来ませんでした。調べてもわからないため行きようがありません。誰でも調べられる状況を作ってください。
(男性 40歳代 大仁地区)
- 文化財展示に使うお金を別のところで役立ててほしい。
(男性 30歳未満 大仁地区)
- 展示施設の整備が決定事項なら仕方ないが、史跡や遺跡の展示施設にそれほどの需要があるとは思えない。沢山の人の興味をひくにはデジタル技術を駆使した展示が必須かと思うが、維持費や来場者数を考えると最小限の展示にし費用を抑える方が望ましいと感じる。
(女性 40歳代 大仁地区)

展示内容について、わかりやすさやデジタル技術の活用のほか、参加・体験型のコンテンツによりリピート訪問を促す案などが寄せられています。

展示内容以外については、トイレや休憩場所、売店など、展示物以外の整備による居心地を求める意見のほか、交通手段などの物理的な行きやすさと、心理的な立ち寄りやすさを求める意見などもあります。また、広報活動が不足しているとの指摘があります。

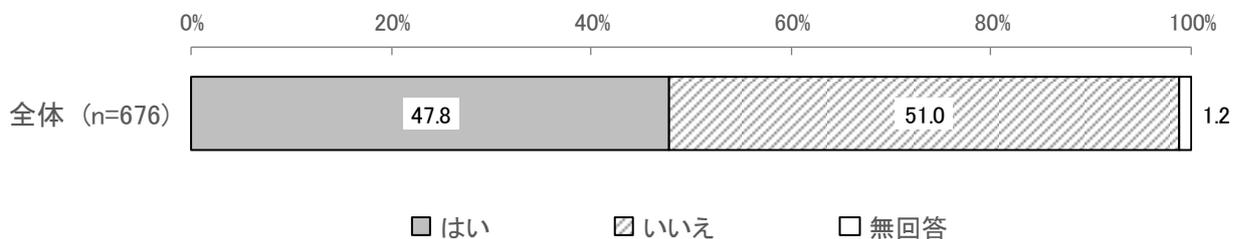
一方、費用を別のことに使ってほしいといった不要論もあり、不要とまではいかないが費用は抑えてほしいという意見も散見されます。

このほか、個別の史跡や文化財についての提案などがあります。

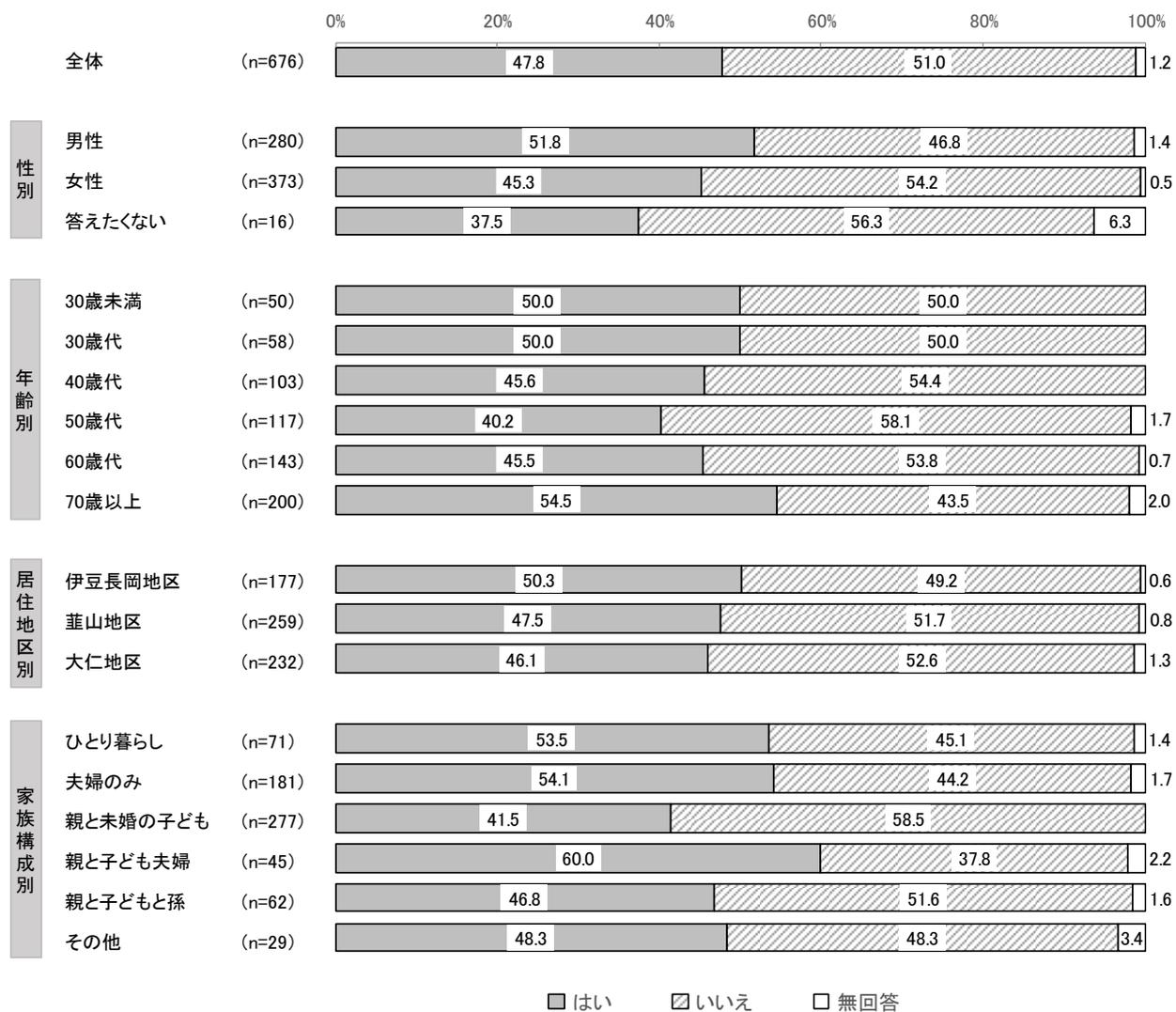
5. 日頃の運動習慣について

12 運動やスポーツを実施するように心がけているか

E-01 1週間に1回以上、運動やスポーツ（競技種目だけではなく散歩やダンス・健康体操などを含む）を実施するように心がけていますか。（○は1つ）



運動やスポーツを実施するように心がけているかについては、「はい」47.8%、「いいえ」51.0%とやや「いいえ」が多くなっています。



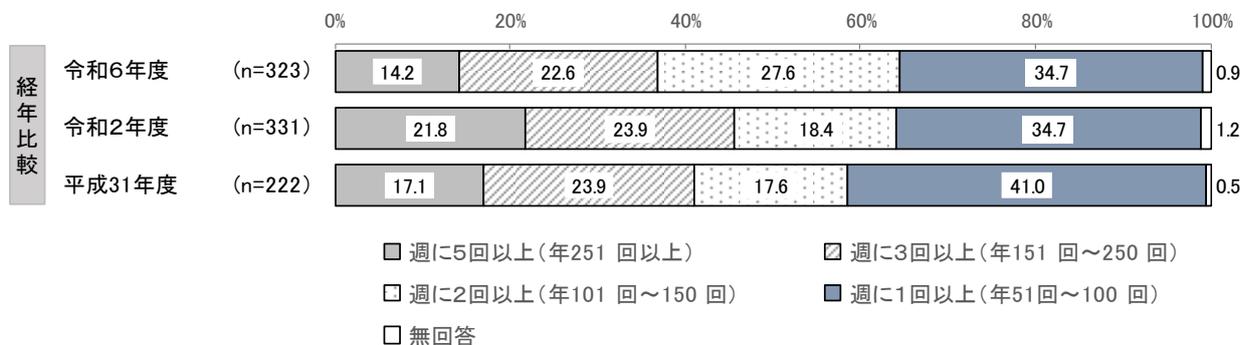
運動やスポーツを実施するように心がけているかについて性別で見ると、男性の方が女性より若干「はい」が多くなっています。

性・年齢別で見ると、男性では30歳未満、40歳代、70歳以上において、女性では30歳代、70歳以上において「はい」が5割超となっています。

13-1 この1年間の運動頻度

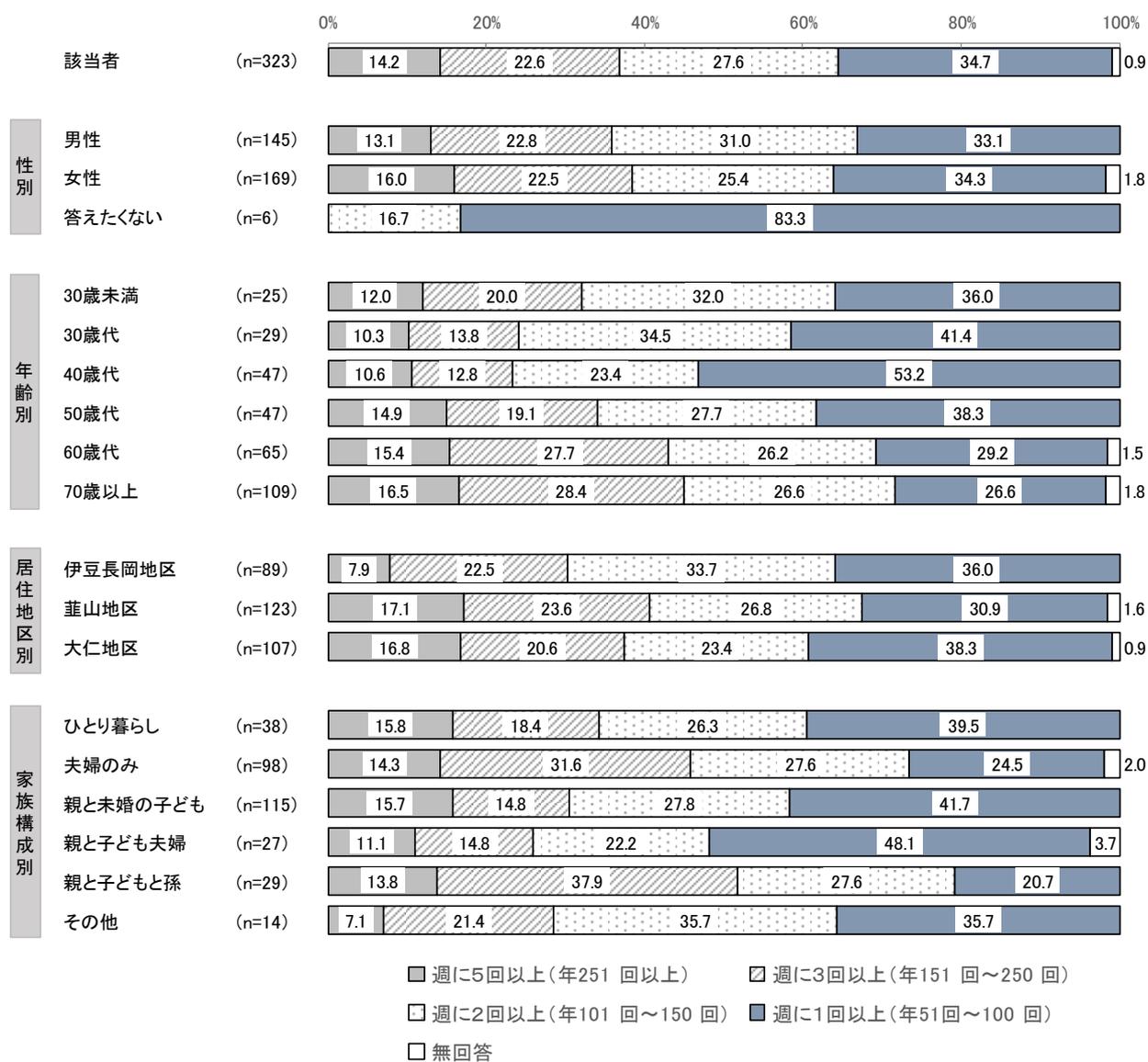
【E-01で「はい」と答えた方に伺います。】

E-02-1 この1年の間（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）、どのくらいの頻度で運動やスポーツを実施しましたか。（○は1つ）



運動を実施するように心がけていると答えた方に、この1年間の運動頻度を伺ったところ、令和6年度は「週に1回以上」34.7%が最も多く、以下「週に2回以上」27.6%、「週に3回以上」22.6%、「週に5回以上」14.2%の順となっています。

平成31年度・令和2年度に比べて「週に5回以上」「週に3回以上」は少なくなっていますが、「週に2回以上」は9ポイント以上多くなっています。

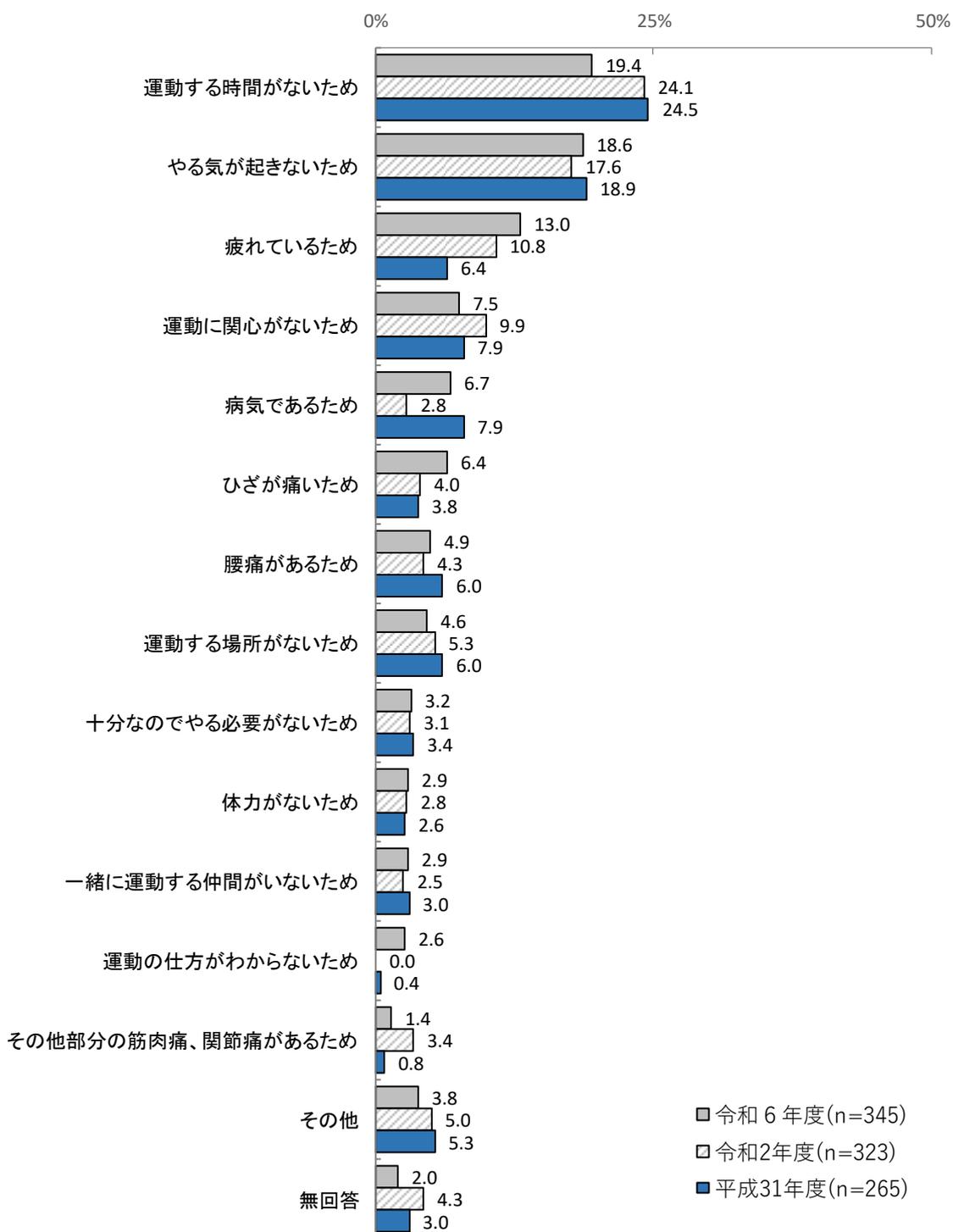


この1年間の運動頻度を性・年齢別で見ると、女性・40歳代は「週に1回以上」が6割を占めており、他に比べ運動頻度が少なくなっています。

13-2 運動をしない、またはできない一番の理由

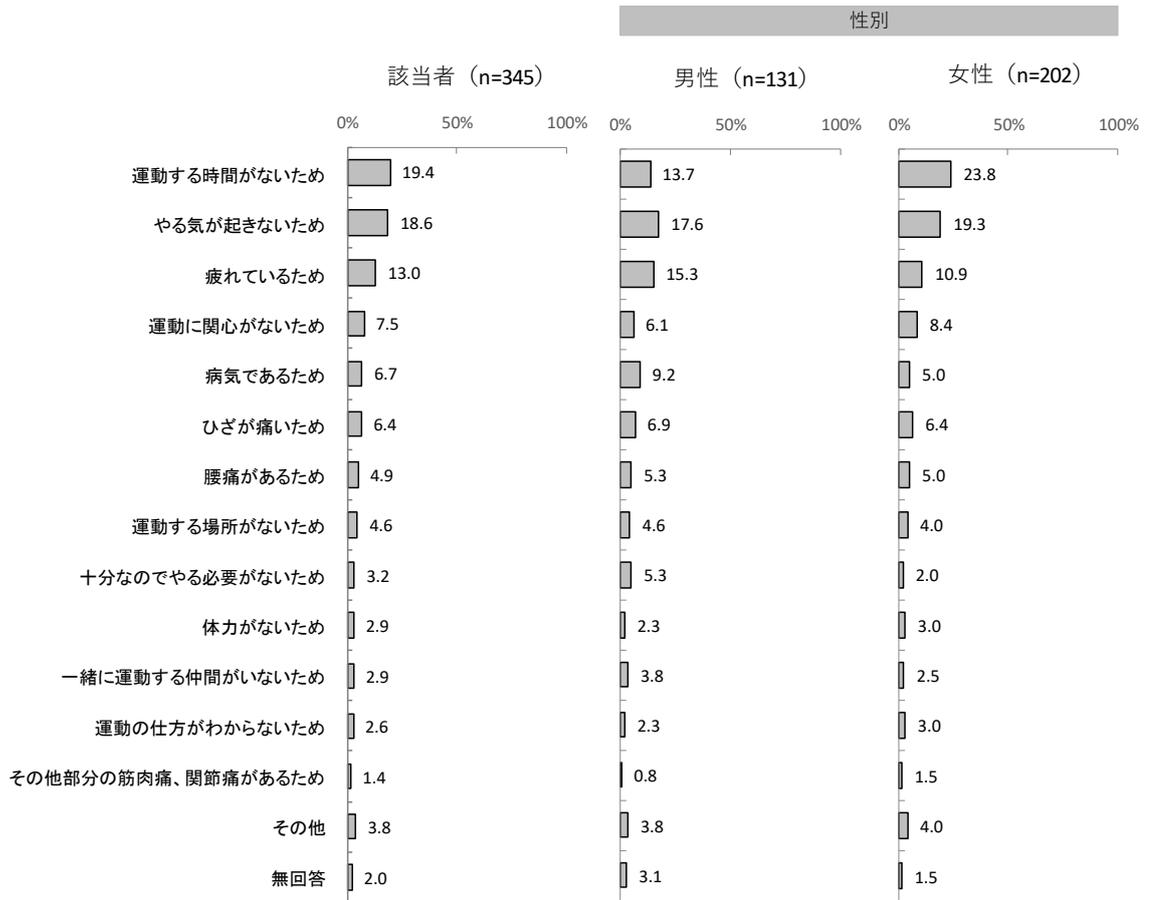
【E-01で「いいえ」と答えた方に伺います。】

E-02-2 あまり運動をしない、またはできない一番の理由は何ですか。(〇は1つ)



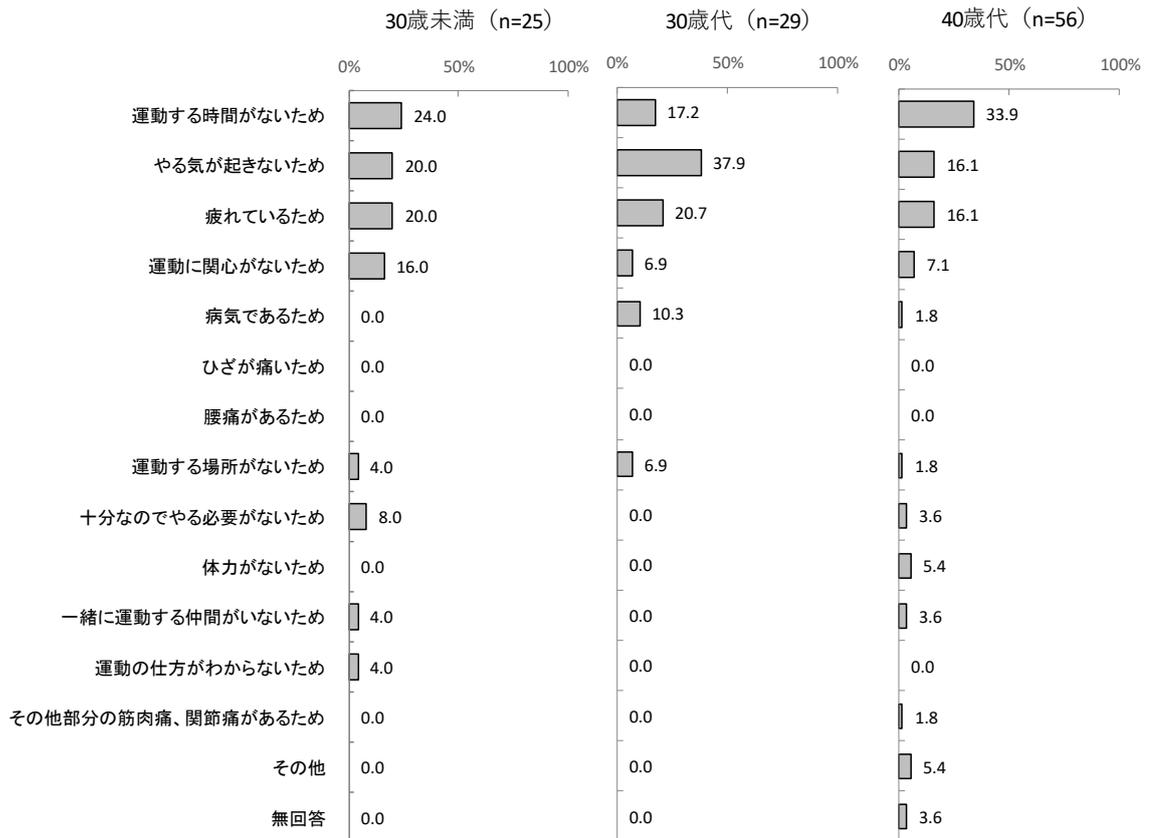
運動を実施するように心がけていないと答えた方に一番の理由を伺ったところ、令和6年度は「運動する時間がないため」19.4%が最も多く、以下「やる気がおきないため」18.6%、「疲れているため」13.0%、「運動に関心がないため」7.5%の順で続きます。

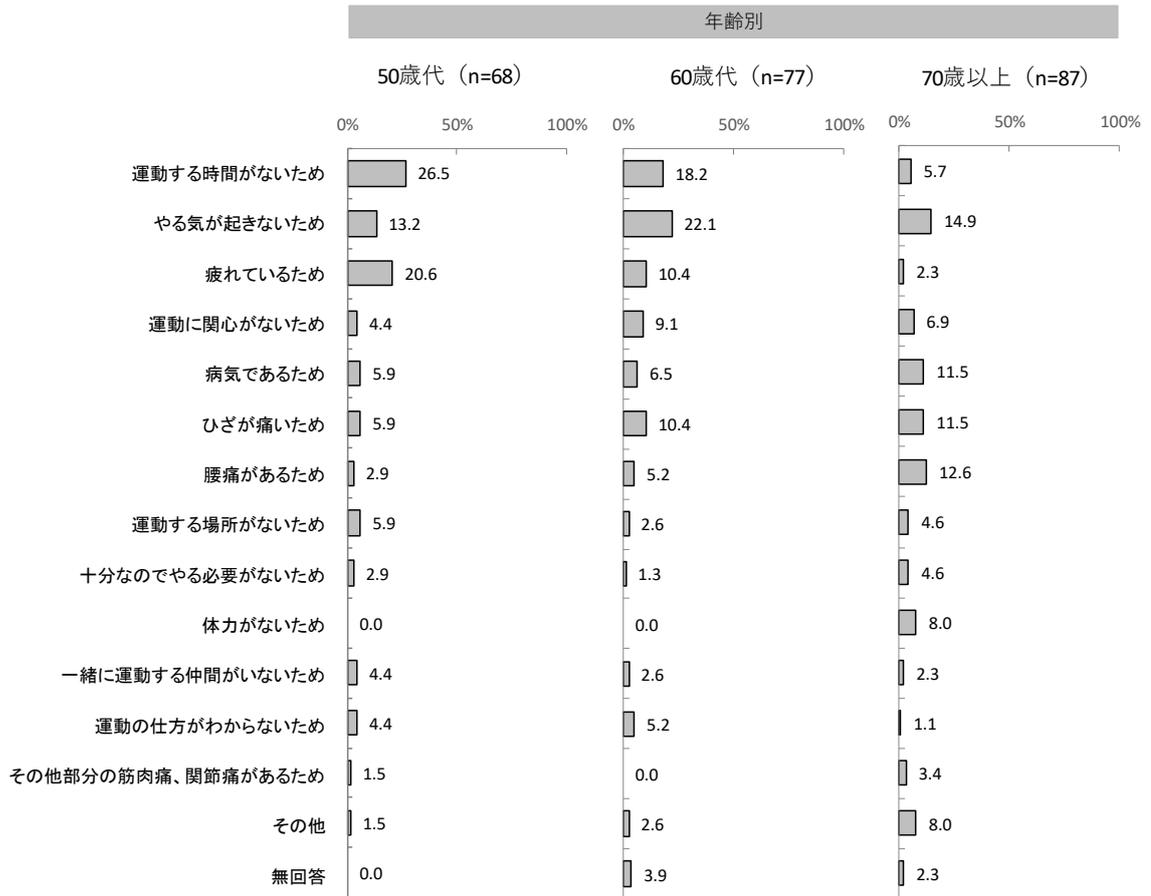
「疲れているため」は年々高くなっており、平成31年度に比べて倍増しています。



運動をしない、またはできない理由を性別で見ると、男性は「やる気が起きないため」が最も多く、女性は「運動する時間がないため」が男性より10ポイント多くなっています。

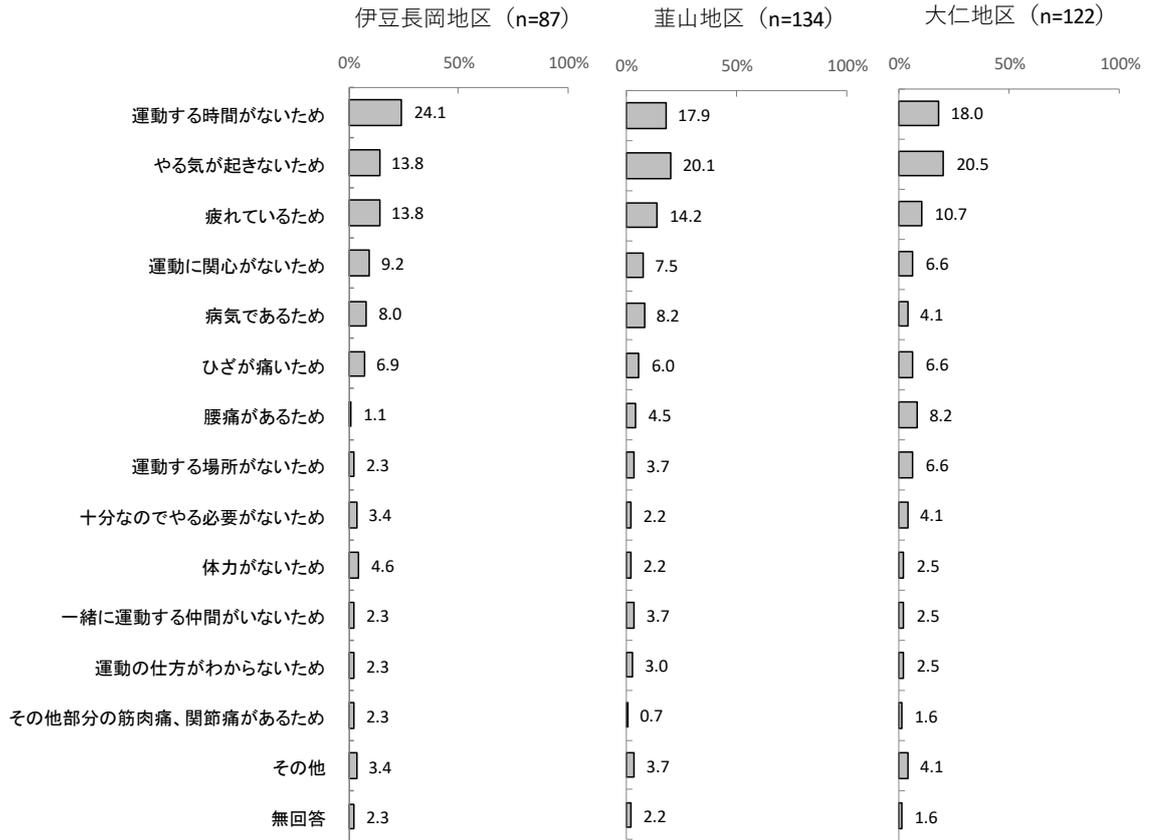
年齢別





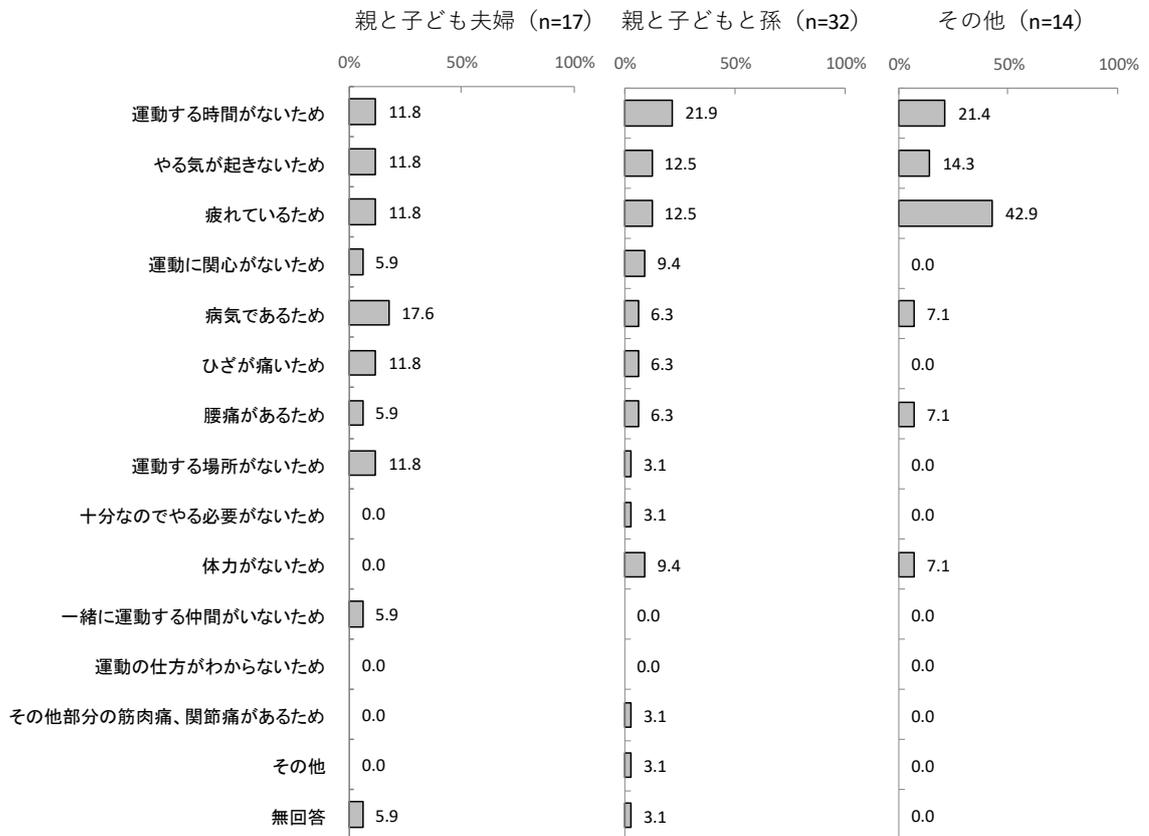
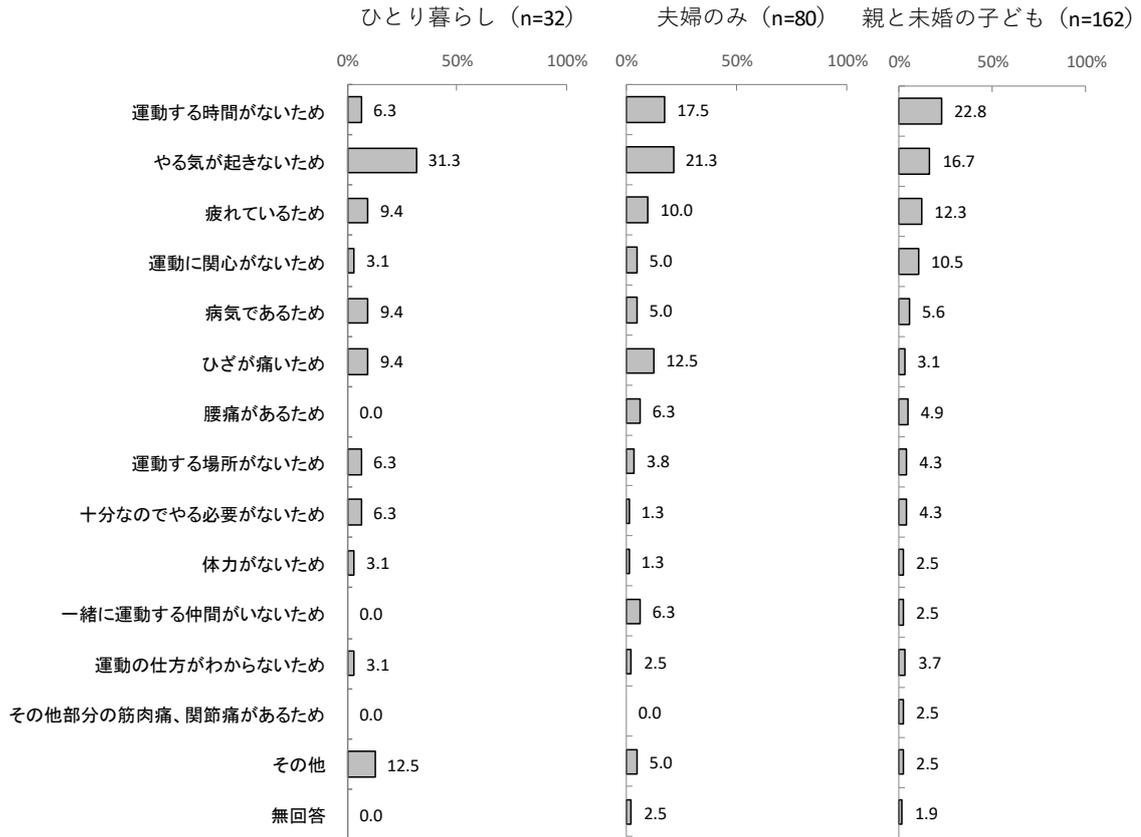
運動をしない、またはできない理由を年齢別で見ると、30歳未満は「十分なのでやる必要がないため」が他の年代よりやや多くなっています。年齢が上がるほど、病気や腰痛、ひざが痛いなどの身体的理由が多くなる傾向にあります。

居住地区別



運動をしない、またはできない理由を居住地区別で見ると、伊豆長岡地区では「運動する時間がないため」が最も多く、韮山地区と大仁地区では「やる気が起きないため」が最も多くなっています。

家族構成別



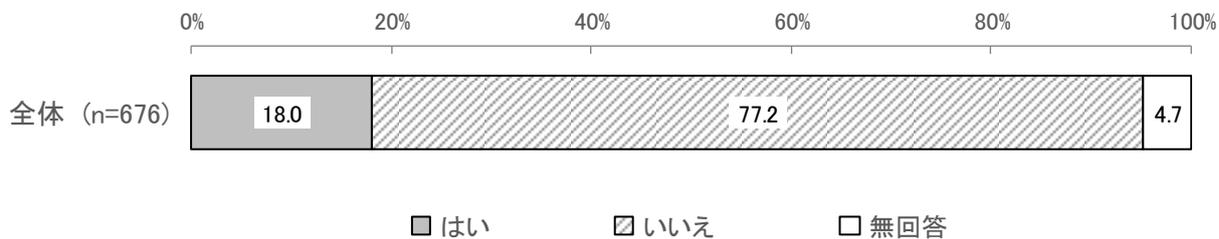
家族構成別で見ると、ひとり暮らしでは「やる気が起きないため」が3割と多くなっています。

6. 孤独や孤立に関する取組について

14 孤立していると思われる人がいるか

F-01 あなた自身またはあなたの周りの人についてお聞きします。

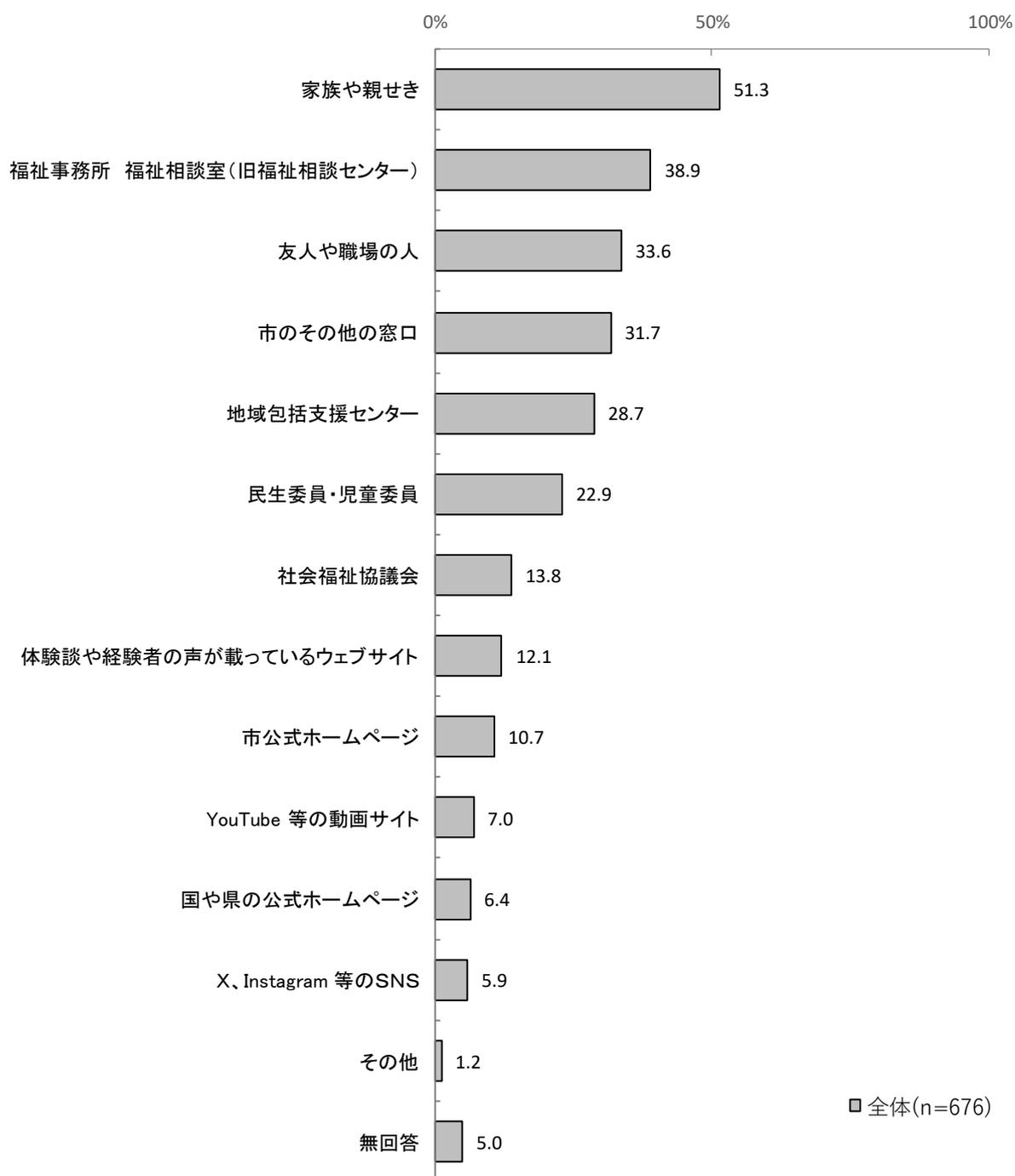
周囲から助けがなく、孤立していると思われる人はいますか。(○は1つ)



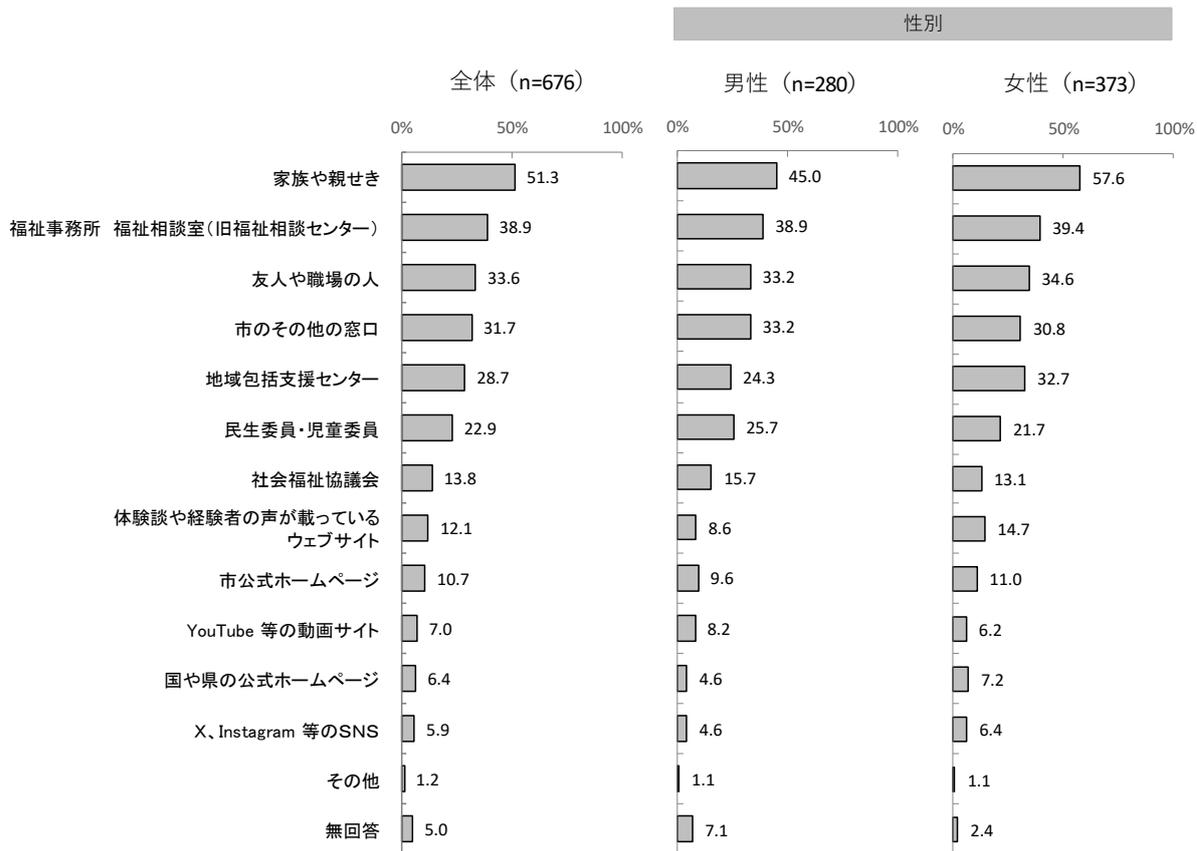
自身または周りの人について孤立していると思われる人がいるかについては、「はい」18.0%、「いいえ」77.2%となっています。

15 「孤立」や「ひきこもり」の相談先を知る手段

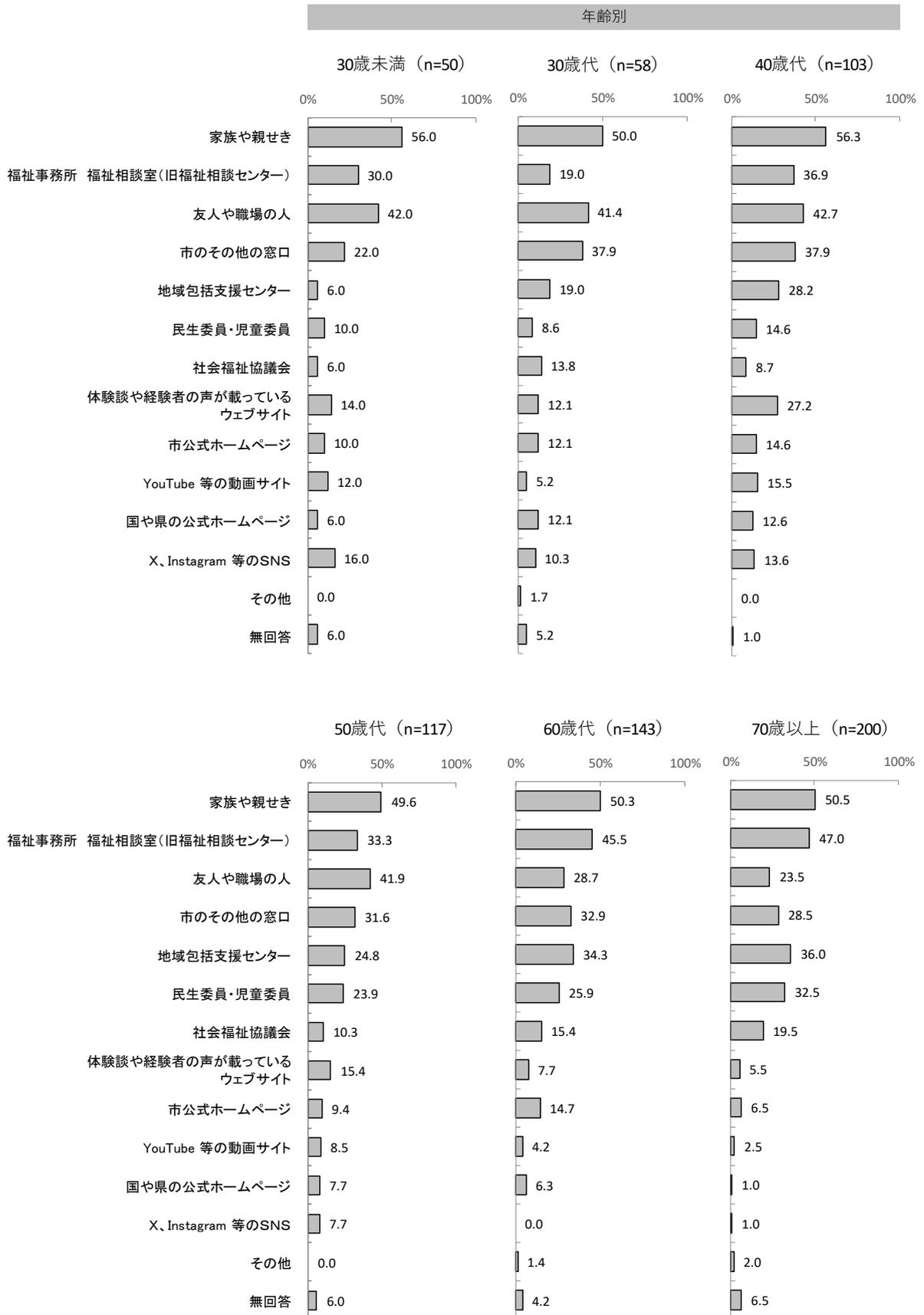
F-02 あなた自身またはあなたの周りの人が、「孤立」や「ひきこもり」で悩んでいるとき、相談先を知る手段として思い浮かぶのは、どこ（誰）ですか。程度利用していますか。
（当てはまるものにすべて○）



「孤立」や「ひきこもり」の相談先を知る手段については、「家族や親せき」51.3%が最も多く、以下「福祉事務所 福祉相談室」38.9%、「友人や職場の人」33.6%、「市のその他の窓口」31.7%と続きます。

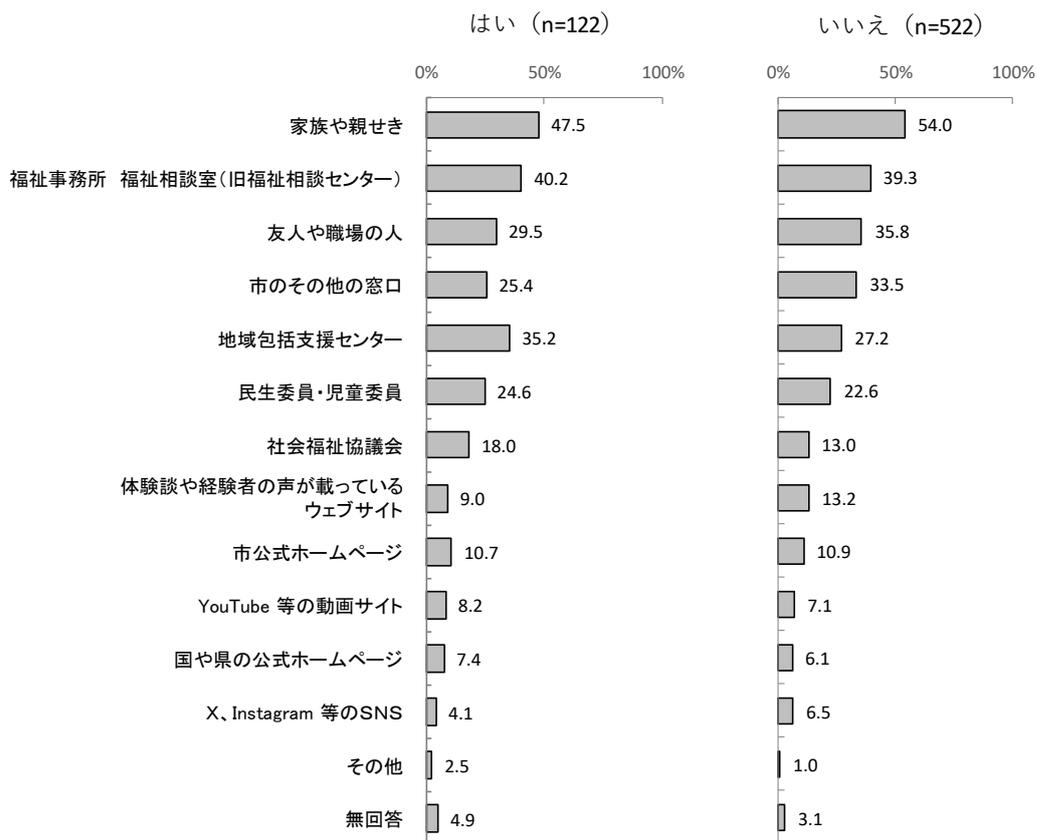


「孤立」や「ひきこもり」の相談先を知る手段について性別で見ると、女性は「地域包括支援センター」が男性に比べて多くなっています。また、女性は「体験談や経験者の声載っているウェブサイト」「市公式ホームページ」などインターネットを利用した手段が男性より多い傾向にあります。



年齢別で見ると、50歳代以下では「友人や職場の人」が4割と多くなっています。40歳代以下ではウェブサイトやSNSなどインターネットを利用した手段が高めの傾向にあります。

F-01 周囲に孤立していると思われる人がいるか



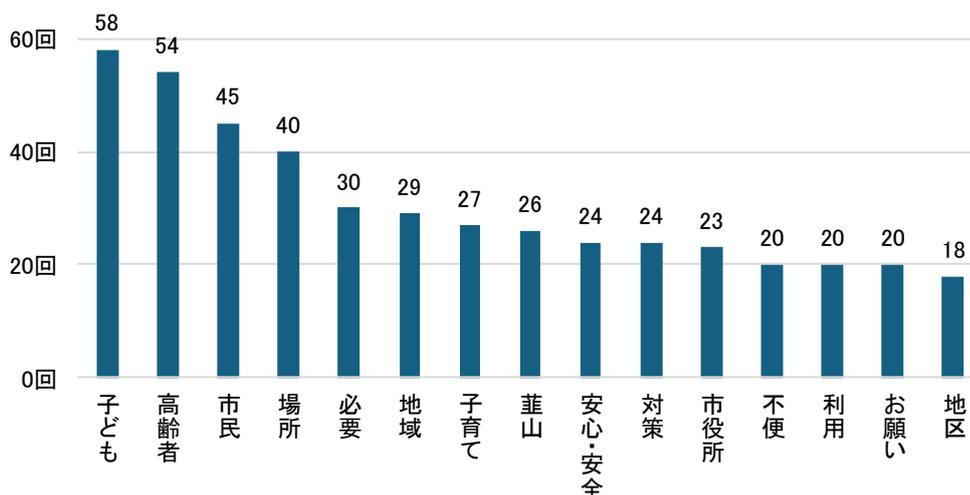
自身または周囲に「孤立」していると思われる人の有無別でみると、「はい」と答えた方では「地域包括支援センター」「社会福祉協議会」などが「いいえ」と答えた方に比べて多くなっています。逆に、「はい」と答えた方では「家族や親せき」「友人や職場の人」「市のその他の窓口」などは「いいえ」と答えた方に比べて低くなっています。

7. これからの伊豆の国市について

16 これからの伊豆の国市について意見や提案

H これからの伊豆の国市についてご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。(自由記述)

《名詞の出現回数—上位15件》



約2,000件の名詞（「まち」は除く）が検出され、このうち出現頻度の上位15件をグラフに掲載しています。

《回答抜粋》

出現回数の多かったキーワード5件についての回答を抜粋しました。

●子ども（58回）

- 歴史文化や観光の推進に取り組むことも大切ですが、短中長期的に最も重要なことは人口減少を食い止めること。子ども・子育てを社会全体で支える仕組みをしっかりとつくるのが最優先課題と考えます。そのための企業誘致、テレワークの環境整備、起業・創業の支援などによる若者の働く場の確保に向けた取組が必要です。勿論、取組んでいると思いますが施策を着実に進めるため、節目節目で進捗状況を検証、環境の変化に対応して施策の見直しを行い、成果を出していただくようお願いいたします。（男性 70歳以上 韭山地区）
- 子どもの成長のために、習い事の補助金があるととても助かります。塾等の補助金があるだけで、若い子育て世代には魅力的だと考えます。（男性 30歳代 伊豆長岡地区）
- 共働き、子育て世代です。学童について、近隣の三島市では、夏休みなど長期休みの際は、お弁当を注文できる体制があるようです。伊豆の国市でも導入していただきたいです。又、学童から帰るときに伊豆の国市は、お迎えが必須ですが、学童から一人で帰宅を可にしたいです。子ども自身が一人で習い事に通えるなどもう少し自由度が高いとフルタイムで働く身としては助かります。（女性 40歳代 大仁地区）

●高齢者（54回）

- 低所得者、高齢者、子育て世代だけでなく全ての人平等にしてもらいたい。他の人のために働いているわけではない。市に住み続けたいと思えない。（女性 無回答 大仁地区）
- 交通の便が悪く、高齢になった時の通院や所用の外出に不安を感じます。ネット予約で送迎のお願いができるサービスなどできたらいいなと思います。（女性 50歳代 大仁地区）

- 少子化が進み、雇用がある会社は少なく、他市に就職、家庭を持つ。少しばかりの農地を耕作し後継者はいない。高齢化により農地、山林は荒れ放題となる。大型農家の事ばかり進めている様に感じる。兵庫佐用町、千葉柏の一步先に行く様な行政はできないものか。小さな百姓はもう農地はいらない。お荷物になっていると感じます。何か良い対策を考えて下さい。
(男性 70歳以上 大仁地区)

●市民 (45回)

- B-02、03にも関連しているが、70歳代の自分としては伊豆の国市になっても意識は長岡町民のままである。過去に2~3回時代劇場をメイン会場にして、市のお祭りが行われたが、中途半端に終わってしまった(継続できなかった)。市民意識を高めるためにも、市民合体で取り組めるような催しや行事を考えてほしい。市長さんの強烈なリーダーシップを期待しております。
(男性 70歳以上 伊豆長岡地区)
- 市民の意見を聞くという建前だけでなく、伊豆の国市を良くするためには、どのようなことが必要なのかを改めて考えて欲しい。声の大きい人の意見を鵜呑みにし続けた結果が今の状態だと感じる。議員や地域の老害に流されているだけでは沈む一方だと思われる。
(男性 50歳代 韮山地区)
- 伊豆の国市のこれからを市としてどの方向に向かわせるのか、どこに予算を適正に使うのか、市民と対話することも必要だと思う。ただ予算は例年通り、古いものの改修や作り直しだけでは既視感しかなく、市の成長は難しい。何度か市のアンケートに答えてきたが、それに応えるような動きは感じません。
(男性 60歳代 韮山地区)

●場所 (40回)

- 大仁の市民の森の整備、充実。子どもの頃はアスレチックが多少あり、遊びに行くと楽しかったが、今はベンチしかなく、子どもが虫取りくらいしか楽しめない。自然とふれあえる貴重な場所だからこそ、しっかり整備をし、子育て世代の人たちが行ったときに、安心して子どもを遊ばせ、満足できる場所をつくってほしい。田京駅、大仁駅からさんしんが移転して、とても不便。
(男性 30歳代 大仁地区)
- 自然環境や都心へのアクセスなど、とても恵まれた土地だと思う。海・山・川が全て揃い、苺などの特産物もあり、温泉や足湯、富士山が綺麗に見える場所など観光資源が豊富なことも素晴らしいと思う。ただ、都心や県中西部と比べて、子供たちの学びの機会が少ない点は懸念している。多様な文化に触れたり、様々なスポーツを体験したりできる機会が少なく、浜松科学館や静岡科学館る・く・るのような気軽に科学に触れ合える場もないので、その点は改善されるといいと思う。
(女性 40歳代 韮山地区)
- 昨年は大河ドラマが影響して伊豆の国市を訪れる人が多かったと思いますが、その訪れた場所の近く(韮山地区、伊豆長岡地区)に他の観光施設、飲食店などが少なかった事は残念だったのではと地元人として思いました。反射炉の世界遺産の時も同じ事を思いました。その時だけ、その場所だけ盛り上がり継続されないのは勿体無い事に思います。これからも多くの人を訪れ転入する人も増えるような魅力がある市になれば良いと思います。
(女性 50歳代 韮山地区)

●必要 (30回)

- 他の市町村についてはわかりませんが、私の地域では、住民主体の業務が沢山あります。その反面それを担う人が集まらず苦勞しています。業務は地域を何とかしなければならぬという人のボランティアで何とかしのいでいます。又、更に、こういう責任からのがれる為、組組織から抜ける人が毎年増加し、恩恵は受けるが責任を担うのを避ける傾向があたり前のように増加しています。行政として、こういう風潮に歯止めをする何らかの対策を取る必要があるのではと思います。皆で作る町づくりはまず自分達が自分の手で行うという大前提を再度思いおこす必要を訴えることが重要だと思います。
(男性 60歳代 韮山地区)

- 農業の従事者が高齢化し、農地の耕作放棄地が増えている様に思います。何か対策が必要ではないでしょうか。 (女性 70歳以上 韮山地区)
- これから伊豆の国市が観光客に恵まれ、大きく発展していくためには、設備を整え、さらに充実したまちづくりをしていくことが必要だと思います。 (女性 40歳代 韮山地区)

《自由回答の分類結果—上位10項目》

自由回答を内容別に分類した結果、多かった内容10項目は以下の通りです。

(件)									
行政に対して (期待)	行政に対して (不満)	子育て・福祉・医療 関連	道路・交通環境の整備	施設・公園等の整備	空き家対策・土地活用	観光促進	商業施設等の充実	防犯・防災対策	イベント関連
51	45	35	30	26	20	16	15	12	10

伊豆の国市の住民からの要望や提案が多岐にわたっており、交通インフラ整備、施設の充実、子育て支援、高齢者支援などに関する意見が含まれています。市民からは、市の活性化や住みやすさの向上を求める声が多く寄せられています。特に、高齢者や子育て世代、低所得者への支援や施設の整備、地域の活性化に関する提案が多く見られます。また、市のイメージ向上や施設の充実が市民の満足度向上につながるとの期待が寄せられています。

Ⅲ 調査票

回答用番号



伊豆の国市 まちづくり市民アンケート調査 ご協力をお願い

平素は、市政にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。
このたび、市の政策に対する重要度や満足度など、日頃から感じていること
をお聞かせいただき、今後、市の取組を進めていく参考とするため、アンケート調
査を実施いたします。

本調査票は、本市にお住まいの18歳以上の方の中から1,500人を無作為に抽出
し、送付させていただきました。

お忙しいところ恐縮ではございますが、市民の代表として、ぜひ調査にご協力
くださいますようお願い申し上げます。

令和6年4月

伊豆の国市長 山下 正行

ご回答にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください（代筆は差し支えありません）。
- 「郵送」または「インターネット」のどちらか一方の回答方法でお答えください。
- **令和6年5月10日（金）まで** に回答をお願いします。

【郵送での回答方法】
この調査票に直接記入いただき、同封の返信用
封筒に入れて、郵便ポストへ投函してください。

【インターネットでの回答方法】
QRコードを読み取るか、下記の
URLから回答フォームを開き、
右上の回答用番号を入力の上、
回答してください。



(<https://logoform.jp/form/xmcs/77166>)

- ・本調査は統計的な処理を行います。
- ・本調査は今後の市の取組を進めていくうえで 参考にさせていただく以外には使用しません。
- ・個人が特定される結果の公表は行いません。
- ・回答用番号はインターネットでの回答に使用します。郵送とインターネットで重複して回答していないかを確認するために番号づけしてあります。

問合せ先

伊豆の国市役所 企画財政部 企画課
〒410-2292 伊豆の国市長岡340番地の1
電話／055-948-1413 ファックス／055-948-2915
メールアドレス／kikaku@city.izunokuni.shizuoka.jp

A 伊豆の国市の印象等について、おうかがいします。

A-01 伊豆の国市は住みやすいまちですか。

- | | |
|------------|------------|
| 1 とても住みやすい | 4 住みにくい |
| 2 住みやすい | 5 とても住みにくい |
| 3 普通 | |

A-02 今後も伊豆の国市に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 これからもずっと住み続けたい | 4 いずれは市外に転出したい |
| 2 当分の間住み続けたい | 5 市外に転出する |
| 3 何とも言えない | |

⇒A-02で「1」「2」と答えた方に伺います。

A-03-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 むかしから住んでいるから | 9 福祉施策が充実しているから |
| 2 実家や親族の住まいに近いから
(または同居しているから) | 10 保健・医療体制が充実しているから |
| 3 地域の間関係が良いから | 11 子育て支援施策が充実しているから |
| 4 自然環境が良いから | 12 子どもの教育環境が充実しているから |
| 5 交通の便が良いから | 13 地域のイメージや土地柄が良いから |
| 6 買い物が便利だから | 14 住宅事情が良いから |
| 7 道路や公園、公共施設が整備されているから | 15 仕事の都合のため |
| 8 防災対策が充実しているから | 16 その他 () |
| | 17 特に理由はない |

⇒A-02で「4」「5」と答えた方に伺います。

A-03-2 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 1 むかしから住んでいるから | 9 福祉施策が不十分だから |
| 2 実家や親族の住まいから遠いから
(または市外で同居予定) | 10 保健・医療体制が不十分だから |
| 3 近所付き合いが難しいから | 11 子育て支援施策が不十分だから |
| 4 自然環境が良くないから | 12 子どもの教育環境が不十分だから |
| 5 交通の便が良くないから | 13 地域のイメージや土地柄が良くないから |
| 6 買い物が不便だから | 14 住宅事情が良くないから |
| 7 道路や公園、公共施設の整備が不十分だから | 15 仕事の都合のため |
| 8 防災対策が不十分だから | 16 その他 () |
| | 17 特に理由はない |

B-04 市民が主役となってまちづくりを進めていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。あなたが参加したいと思う取組を教えてください。(○は3つまで)

1 市民アンケート等のアンケート調査	6 事業実施のための実行委員会
2 市長と語ろう会(懇談会)	7 公募による審議会などの委員
3 市と協働する市民活動	8 パブリックコメント
4 ボランティア活動への参加	9 その他()
5 まちづくりワークショップ等	10 参加したくない

C 現在の市の取組への満足度・重要度について、おうかがいします。

市では、平成27年度に第2次伊豆の国市総合計画を策定し、「ほんわり湯の国、美し国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国」の実現に向けて、これまで様々な取組を進めてきました。本計画に基づき、市が行っている下記の取組に関して、普段のくらしの中で感じている「満足度」と、今後取組を進めていくにあたっての「重要度」をうかがいます。日ごろの印象から、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

- ◆満足度：普段の暮らしの中でどれくらい満足しているか
- ◆重要度：今後、市がどのくらい優先的に力を入れて解決、改善、向上に向け取り組むべきか



	①満足度					②重要度				
	不満				満足	低い				高い
C-01 【自然環境の保全と景観の向上】 脱炭素社会に向けた取組、自然を活かした景観づくりなど	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-02 【快適な生活環境の創造】 省エネルギーや廃棄物の減量・再資源化の取組など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-03 【地域を支える人材の就労支援】 就労・起業支援、新規就農者への支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-04 【地域特産品の競争力の強化】 農工商福祉分野での連携、農産物のブランド化など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-05 【地域産業の活性化と新たな雇用の創出】 企業誘致、事業継承や経営革新への支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-06 【移住・定住の促進】 移住・定住促進のためのプロモーション強化など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-07 【観光推進体制の強化と交流人口の拡大】 アウトドア等の地域資源を活用した観光の促進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-08 【情報発信力の強化とおもてなしの充実】 デジタル技術を活用したおもてなしの促進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-09 【歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進】 郷土資産を学ぶ機会の創出など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-10 【次代を拓く教育と研究の推進】 グローバル人材の育成、ICTを活用した教育など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

- ◆満足度：普段の暮らしの中でどれくらい満足しているか
- ◆重要度：今後、市がどのくらい優先的に力を入れて解決、改善、向上に向け取り組むべきか

①満足度					②重要度				
不満				満足	低い				高い

C-11 【婚活支援】 出会いや結婚を後押しする機会の拡大など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-12 【妊娠・出産への支援】 産後ケア、不妊・不育症治療費の助成など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-13 【新人パパママの不安解消】 パパママ学級の開催、保健師による訪問など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-14 【子育て環境の充実】 働く子育てを両立できる環境の整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-15 【健康長寿を目指すまちづくりの推進】 健康マイレージ事業、食育の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-16 【誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現】 フレイル・介護予防、福祉サービスの充実など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-17 【地域防災力の向上（防災対策）】 自主防災対策への支援、防災訓練の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-18 【地域防犯力の強化（防犯対策）】 交通安全意識の高揚、消費者生活相談など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-19 【防災・減災と安全・安心なまちづくりの推進】 治水対策、緊急時の情報収集体制の強化など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-20 【時代に即したインフラ資産の更新・新設】 道路・橋梁・上下水道等の維持更新など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-21 【公共施設等の適正管理・統廃合】 公共施設の計画的な更新、統廃合、長寿命化など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-22 【集約型都市の形成】 都市の魅力を活かした効率的なまちの形成など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-23 【地域に根差した公共交通網の構築】 新たな交通システムの検討など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-24 【地域生活やコミュニティの保持】 地域・市民活動団体等との協働など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-25 【NPO等市民活動団体の育成・支援】 市民活動団体間の連携の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-26 【お互いを尊重する社会づくり】 誰もが個人として尊重される環境づくりなど	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C-27 【効率的な行財政運営の推進】 効率的・安定的な行財政運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

E 日頃の運動習慣について、おうかがいします。

E-01 1週間に1回以上、運動やスポーツ（競技種目だけではなく散歩やダンス・健康体操などを含む）を実施するように心がけていますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

⇒E-01で「はい」と答えた方に伺います。

E-02-1 この1年の間（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）、どのくらいの頻度で運動やスポーツを実施しましたか。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 週に5回以上（年251回以上） | 3 週に2回以上（年に101回～150回） |
| 2 週に3回以上（年151回～250回） | 4 週に1回以上（年51回～100回） |

⇒E-01で「いいえ」と答えた方に伺います。

E-02-2 あまり運動をしない、またはできない一番の理由は何ですか。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 運動に関心がないため | 8 ひざが痛いため |
| 2 運動の仕方がわからないため | 9 その他部分の筋肉痛、関節痛があるため |
| 3 やる気が起きないため | 10 運動する時間がないため |
| 4 疲れているため | 11 運動する場所がないため |
| 5 体力がないため | 12 一緒に運動する仲間がないため |
| 6 病気であるため | 13 十分なのでやる必要がないため |
| 7 腰痛があるため | 14 その他（ ） |

F 孤独や孤立に関する取組について、おうかがいします。

F-01 あなた自身またはあなたの周りの人についてお聞きます。

周囲から助けがなく、孤立していると思われる人（※）はいますか？

※ひきこもりや地域とかかわりのない一人暮らしの高齢者等

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

F-02 あなた自身またはあなたの周りの人が、「孤立」や「ひきこもり」で悩んでいるとき、相談先を知る手段として思い浮かぶのは、どこ（誰）ですか？（当てはまるものにすべて○）

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 福祉事務所 福祉相談室
（旧福祉相談センター） | 7 地域包括支援センター |
| 2 市のその他の窓口 | 8 市公式ホームページ |
| 3 家族や親せき | 9 国や県の公式ホームページ |
| 4 友人や職場の人 | 10 体験談や経験者の声載っているウェブサイト |
| 5 民生委員・児童委員 | 11 Youtube等の動画サイト |
| 6 社会福祉協議会 | 12 X、Instagram等のSNS |
| | 13 その他（ ） |

G あなた自身のことについて、おうかがいします。

G-01 性別をお答えください。

1 男性	2 女性	3 答えたくない
------	------	----------

G-02 年齢はいくつですか。

1 30歳未満	4 50歳代
2 30歳代	5 60歳代
3 40歳代	6 70歳代以上

G-03 お住まいの地区はどちらですか。

1 伊豆長岡地区	2 韮山地区	3 大仁地区
----------	--------	--------

G-04 家族構成は次のどれですか。

1 ひとり暮らし	4 親と子ども夫婦
2 夫婦のみ	5 親と子どもと孫
3 親と未婚の子ども	6 その他 ()

G-05 キャッシュレス決済を利用していますか。(利用しているものにすべて○)

1 電子マネー	4 クレジットカード
2 QRコード／バーコード決済	5 デビットカード
3 プリペイドカード	6 利用していない

H これからの伊豆の国市についてご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。

(自由に記述してください)

ご協力ありがとうございました。令和6年5月10日までに忘れずに投函をお願いします。

伊豆の国市
まちづくりに関するアンケート
調査結果報告書

令和6年7月
伊豆の国市

伊豆の国市 企画財政部 企画課
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340番地の1
TEL : 055-948-1413
FAX : 055-948-2915